東方學報 京都第 93 册（2018）：280-205 頁

漢譯『華嚴經』の原典『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』の佛身論と宇宙論について

外村　中

は じ め に

大乘佛教における最も代表的な佛身論および宇宙論の一例として，漢譯『華嚴經（大方廣・佛・華嚴經）』の原典『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ *Buddha-avataṃsaka-sūtra*』（以下，原典とも呼ぶ）に說かれた（正確には，說かれていたであろう）[1]，佛身および宇宙に關する基本的な情報を，科學思想史および藝術文化史的見地から分析整理することが，小稿の主な目的である[2]。そして，もし檢證の必要がない場合には，第 2 章以降の解

1） 隋の智顗（538-597 CE）は，次によれば，『大方廣佛・華嚴經』と讀んでいる。『妙法蓮華經玄義』（卷 9 下）T33,795b「據題云。大方廣佛。佛是極果之名。華嚴是。定慧萬善。莊嚴佛身。非莊嚴因。文中多說。舍那法身之事。卽用果爲宗也。」一方，唐の法藏（643-712）は，次によれば，『大方廣・佛華嚴經』と讀んでいる。『華嚴經探玄記』（卷 1）T35,120「卽大方廣爲理實法界。佛華嚴爲因果緣起。」なお，近年の研究によれば，『大方廣・佛華嚴經』と讀むのが原典に對應するものらしい。高崎直道『大乘佛教思想論』II 高崎直道著作集第 3 卷（春秋社，2009 年），312-314 頁。梶山雄一『神變と佛陀觀・宇宙論』梶山雄一著作集第 3 卷（吹田隆道編，春秋社，2012 年），122-123 頁。

2） 小稿では，データベースとして CBETA を利用する。そして，『八十華嚴』と『六十華嚴』の內容の對照および檢證の便を圖るために，漢譯原文を引用するが，筆者の判斷により文章のリズムを優先して句讀を改めるところもある。また，分かりやすいように丸數字などを挿入する場合もある。譯語は『八十華嚴』のものを優先し『六十華嚴』のものが異なる場合には（ ）內にしめすことを原則とする。また，書き下しによる紙幅の浪費を避けるために，小稿では書き下しはおこなわず，もちろん小さな誤りはあろうが，日本にはすでに非常にすぐれた國譯の書き下しがあるので，それを參照することにし，『八十華嚴』では國譯一切經（一切と略す）の，『六十華嚴』では昭和新纂國譯大藏經（昭和と略す）の頁數をしめす。サンスクリット語の情報は，GRETIL — Göttingen Register of Electronic Texts in Indian Languages を用いる。また，第 5 章および第 6 章については，筆者による次の資料集を參照する。
資料集 I：*Mt. Sumeru* 須彌山：*Source Manual for Iconographic Research on the Buddhist Universe*. Singapore：Nalanda-Sriwijaya Centre Working Paper No. 6, 2011. https：//www.iseas.edu.sg/images/pdf/nsc_working_paper_series_6.pdf ↗

說部分を，參照番號は無視して讀み流すだけで，その大要が理解されるように工夫する。またあわせて，いわゆる『六十華嚴』が『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』から展開した東アジア佛敎の新經典の一つとも見なし得るのではなかろうかという點を議論するつもりである。

原典は，無限の宇宙（法界）に充滿する「法身」と人間の姿と肉體をした「色身」による二身說をはじめて說いた大乘經典（あるいはその一つ）である[3]。また，その佛身論に關連させて，宇宙の全貌を實在論的（あたかもすべてが實在するものであるかの如く）に[4]，かつ體系的に，かつ詳細に解き明かしている點においては，唯一最古の大乘經典とも言い得るものである。原典は，佛陀の法身（いわば眞理としての佛身）が充滿する宇宙は，① 一つで，② 空間的に無限で，③ 時間的に無限で，④ 絕對的な中心はなく，⑤ 淸淨なものと主張した。そして，それは ⑥ 須彌山世界（一つの惑星およびその大氣圏に相當，したがって地球およびその大氣圏）の內をも含み，⑦ 全體（總體）としては實在するものとした。その內容は，大乘佛敎を大いに代表する根本的な宇宙論の一例と見なし得るものであるから，聲聞乘や密敎のみならず他の文化圈の宇宙論とも比較してみる價値があろう。また，東アジアにおいて，その漢譯である『華嚴經』は，『法華經』，淨土三部經（『無量壽經』・『觀無量壽經』・『阿彌陀經』）などと竝ぶ最も重要な大乘經典の一つになっている。したがって，古代からの傳統的な佛身論および宇宙論（宇宙觀）さらにはそれらにもとづく藝術作品を分析し總合的に考察する上で，原典に說かれた內容は充分に理解されておかれるべきものであろう。ところが，その內容は，現在のところ科學思想史および藝術文化史の分野においては，ほとんど詳しくはしられていないのが事實のようである[5]。

↘ 資料集 II: *The Buddhist Heavens* 天: *Source Manual for Iconographic Research on the Buddhist Universe, Part II*, Singapore: Nalanda-Sriwijaya Centre Working Paper No. 18, 2015. https://www.iseas.edu.sg/images/pdf/nsc_working_paper_series_18.pdf
なお，資料集 I の修正箇所などについては，次を參照。拙稿「須彌山世界に關する諸說と東大寺大佛蓮辨須彌山圖について」（稻本泰生（編）『東アジア佛敎美術における聖地表象の諸樣態』平成二五年度～平成二七年度科學研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，2016 年），1-32 頁。https://www.sinologie.uni-wuerzburg.de/fileadmin/04050130/user_upload/Sotomura-2016-A_World_in_a_Petal.pdf

3） 梶山雄一『神變と佛陀觀・宇宙論』，35 頁，49 頁，95 頁，143-146 頁，212-213 頁，223 頁，330 頁。

4） ただし，宇宙（法界）の內の三界（欲界，色界，無色界）におけるものごとは，實在するものではないとする（3-9.）。

5） 現在における『華嚴經』の一般的な解釋の水準については，次を參照。稻賀繁美『接觸造形論：觸れあう魂，紡がれる形』（名古屋大學出版會，2016 年），6 頁。一方，例外的なものとして，次があげられよう。定方晟『インド宇宙論大全』（春秋社，2011 年），247-285 頁。以上は漢譯『華嚴經』がいう「世界海」とは宇宙に花咲く蓮の花の花托のようなもの↗

その最大の理由としては，サンスクリット語の原典が完本の形では傳わっていないため，最低限，完本のある漢譯に頼らざるを得ないが，そこに記された情報がそのままでは難解である點があげられよう。漢譯の文體が特異である上，今日我々が必要とする情報が斷片化され過ぎており，そのままでは理解しがたいのである。原典に問題があるのか，漢譯に問題があるのか，讀者である我々に問題があるのかは，意見が分かれようが，とにかくこのままでは貴重な情報が放置されたままになってしまうように思われてならない。

そこで，小稿では，漢譯『華嚴經』の完本である『八十華嚴』および『六十華嚴』から，佛身論および宇宙論として，とくに重要と思われる情報を抽出し初歩的な分析を行いながら理解しやすいように按排する[6]。その作業においては，『八十華嚴』を優先する。それは『六十華嚴』には宇宙についての內容に重大な（あるいは意圖的な操作の可能性がある）缺落などが見られるからである（4-11.／第 4 章 11 を參照，以下同樣）[7]。そして，『六十華嚴』に缺落などのある箇所に關しては，とりあえずとくに文脈上問題がない限り『八十華嚴』にそのまましたがっておくが，その他の箇所については，基本的には『八十華嚴』と『六十華嚴』に同樣な內容が確認されれば，原典に說かれた內容と同じであると判斷し考察をおこなう。資料の羅列が多くなってしまうのは，漢譯において繰り返される同樣な表現の中から，最も明解な內容を抽出し，小稿においてそれをしめしておくことによって，今後のより學術的かつ總合的な解析の便を圖ることを目指すためでもある。情報抽出の難しさは，自ら『華嚴經』の原文（あるいはその國譯）を讀んでみれば直ちに理解されよう。

小稿では，先ず第 1 章で，原典とその內容について，概要を述べる。あわせて，その特徵を明らかにするために，西洋古代の最も代表的な宇宙論の一例としてしられるギリシアのアリストテレスの理論と，若干ではあるが比較檢討しその違いを指摘する[8]。そして第 2 章以降は資料解說集とすべく，第 2 章では佛身について，第 3 章では法界（すなわち全宇宙空間）の全體（總體）的な特徵に關して，第 4 章では法界の內かつ娑婆世界（我々

↘ であるらしいことを明らかにした點で特筆されるべき論考である。ただし，『八十華嚴』の內容による考察のみであり，『六十華嚴』の內容の分析はおこなっていない。

6） なお，チベット語譯の完本もあるが，それを用いるのは今後の課題とする。

7） 筆者は次で，漢譯時に用いられた原典に缺落があったのであろうと考えたが，意圖的な缺落の可能性もありそうである。拙稿「『華嚴經』の宇宙論と東大寺大佛の意匠について」（『日本研究』51，2015 年），21-40 頁，28 頁下。

8） 小稿では，次を參照する。村治能就（譯）「天體論」『天體論・生成消滅論』アリストテレス全集 4（岩波書店，1968 年）。

が住む須彌山世界を含む銀河に相當）の外に廣がる空間の有り様について，第5章では娑婆世界の內にある三界（無色界，色界，欲界）の諸天層に關して，第6章では我々が住む須彌山世界（地球に相當）の內にある山や大陸さらには大海などの有り様について，基本的な情報を整理する。

なお，漢譯の用語は，原則として次のように解釋し考察をおこなう。

法身＝dharma-kāya＝宇宙に充滿する眞理としての佛身。

色身＝rūpa-kāya＝人間の姿と肉體をした佛身。

法界＝dharma-dhātu＝宇宙（全宇宙空間）（3-2.）。

世界海＝loka-dhātu-samudra＝宇宙に花咲く蓮の花（正確にはその花托）（4-19.）。

華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）＝kusuma-tala-garbha-vyūhālaṃkāra-loka-dhātu-samudra＝娑婆世界が種の中に入っている蓮の花の花托の名稱（4-1.）。

世界種（世界性）＝loka-dhātu-vaṃśa＝宇宙に花咲く蓮の花の種。

世界＝loka-dhātu＝三千大千世界 tri-sāhasra-mahā-sāhasra-loka-dhātu＝佛國土＝銀河に相當。

娑婆世界＝sahā-loka-dhātu＝我々が住む須彌山世界を含む銀河の名稱（4-11-⑬.）。

四天下＝cātur-dvīpika＝須彌山世界＝惑星に相當（正確には，その大氣圏をも含む）。

百億＝koṭī-śata＝$10^7 \times 10^2$＝十億 1.000.000.000（5-4.）。

第1章，概　　要

1-1. 原典および漢譯

原典は，サンスクリット語でより正確には *Buddha-avataṃsaka-Mahāvaipulya-sūtra* と呼ばれ，大本としては四世紀中葉以前に，とくにクシャーナ朝の關連の下に北西インドで成立したらしいと考えられている[9]。一方，中央アジアにおいて集成された可能性も指摘されている[10]。したがって，成立の場所は依然不明である。また，原典の內で最も古い章である「入法界品」および「十地品」は，單獨の經典として二世紀はじめ頃には成立していたとされる[11]。

9） 原典の梵名はチベット語譯からの推定である。高崎直道『大乘佛教思想論』II，301-346 頁，312-316 頁。一方，梶山雄一氏は *Buddha-avataṃsaka-nāma-mahā-vaipulya-sūtra* と復元する。梶山雄一『神變と佛陀觀・宇宙論』，122 頁。

10） 梶山雄一『神變と佛陀觀・宇宙論』，120 頁。

11） 梶山雄一『神變と佛陀觀・宇宙論』，93 頁。以上は「後 100 年前後」とする。

『八十華嚴』（大正 10 第 279）は，唐の實叉難陀（652-710）が 695 年から 699 年に漢譯した八十卷本で，華嚴敎主ヴァイローチャナ Vairocana を毘盧遮那と譯す。一方，『六十華嚴』（大正 9 第 278）は，東晉の佛馱跋陀羅（359-429）が 418 年から 420 年あるいは 421 年に漢譯した六十卷本で，ヴァイローチャナを盧舍那と譯す。

1-2. ヴァイローチャナの法身と色身

原典は，佛身に關して「法身」と「色身」の二身說を說いた最初の大乘經典（あるいはその一つ）である（2-18.）[12]。また，管見の限りではあるが，法身を無限の宇宙に充滿する佛身と想定したのも原典（正確には原典を構成する一章で漢譯の入法界品に相當する單獨經典 *Gaṇḍavyūha-sūtra*）が最初らしい（2-6. から 2-8.）[13]。聲聞乘は，例外もあるらしいが，基本的には，釋迦の涅槃（入滅）を認め，釋迦の涅槃後の現世はいわゆる無佛の世と考えた[14]。一方，大乘は，釋迦の涅槃はあくまで方便で，現世においても佛事を主宰する佛陀は存在するとした（2-5.）。そのため，そのような佛陀は如何に存在するのか說明が必要ともなり，大乘は佛身についての理論を大いに展開させた。

その流れの中で，原典は次のようなことを說いた。ヴァイローチャナの法身は基本的には姿も肉體もなく（2-12.），大空（おおぞら）の空間（虛空，いわば全宇宙をなす絕對的な空間）のような（2-13.），宇宙的な眞理としての佛身で（2-3.）[15]，無限の宇宙に充滿する（2-6. から 2-8.）。したがって，法身は，見方によれば，ほぼ宇宙そのものともいえるものである（2-13. から 2-16.）。その法身が，我々が住む須彌山世界（地球に相當）を含む三千大千世界（十億の須彌山世界が一つに集まったもの）である娑婆世界（銀河に相當）において，ヴァイローチャナの名をもって佛事を主宰する（2-20-b.）。佛事を主宰するとは，たとえば色身（人間の姿と肉體をした佛身）を現すことで（2-18.），具體的には佛陀（正確には，佛陀となるべき者）が兜率天から下り，人間として生まれ，悟り，說法を行い，涅槃に至るまでの事跡を現すことである（2-19.）。ヴァイローチャナの法身は，宇宙に常住する

12） 梶山雄一『神變と佛陀觀・宇宙論』，49 頁，330 頁。

13） だし，原典が說く法身は，般若經典に說かれた般若波羅蜜についての考え方を展開させたものと見ることもできよう。

14） 梶山雄一『神變と佛陀觀・宇宙論』，87-88 頁，161 頁。ただし，『異部宗輪論』（卷 1）T49,15b-c「如來色身。實無邊際。…諸佛壽量。亦無邊際。」によれば，聲聞乘の大衆部は，說一切有部などとは異なり，現世においても色身の佛陀は存在しているとする立場であったらしい。

15） ただし原典は，法身は時に人間の目に見えることがあるとする（2-17. および 2-25-①,-⑩.）。この法身は，後の時代に瑜伽行唯識派によって受用身（あるいは他受用身）sāṃbhogika-kāya / saṃbhoga-kāya として議論されるものに相當する。

(2-5.)。したがって，娑婆世界に現れる色身の佛陀は，過去佛であれ未來佛であれ，いずれの佛陀も實はヴァイローチャナの色身である（2-21.)。また，娑婆世界に現れるすべての色身の佛陀は，輪廻の上から見れば，常に同一の女性を母とする（2-23.)。

1-3. 一卽多

原典に說かれた法身の大きな特徵の一つとしてしられるのが，いわゆる「一卽多」の性質である（2-10.)。原典によれば，すべての佛陀は，それぞれに法身をもつ（2-1.)。法身は宇宙に充滿する（2-6.)。けれども，宇宙は一つしかない（2-9.)。したがって，ヴァイローチャナの法身も，他の佛陀の法身も，さらには，多くの佛陀の法身を合わせたものも，すべての佛陀の法身を合わせたものも，實はいずれも同じものである（2-10. および 2-24-a-①.)。これが「一卽多」の性質である。思うに，分かりにくいものではあるが，實はそのような性質をもつものが我々のすぐ身近に存在する。では，それは何かといえば，海の水である（6-20.)。たとえば，海の水を次のように見ることもできよう。今我々の前にある海の水を一佛の法身とし，多くの川の水を多くの菩薩の身體と考える。そして，川が海に注ぐのを，菩薩が佛陀になることと見る。多くの川は絕えず海に注ぐ。それと同樣に，多くの菩薩が絕えず修行をして佛陀になる。したがって，佛陀の數は常に增える。これは，先に我々の前にあった海の水が，一佛の法身から，多佛の法身になることを意味する。ところが，海の水は，絕えず川の水が注ぎ込むにもかかわらず增えることはない（量は同じ)。また，鹽辛さが薄まるものでもない（質も同じで變化しない)。以上は，海の水が「一卽多」すなわち「一は多と同じ」(一つであっても多數であっても全體としての量と質は同じ）性質を有することをしめすものである。もちろん現代の科學的な知識をもってすれば，たとえば，海の水の一部は蒸發することをもってすれば，簡單に否定できることではあるが，海の水は，原典の撰者には以上にように見えていたであろう。佛陀の法身もまた同樣なものと考えられていたであろう。おそらくは，原典が宇宙に花咲く蓮の花（正確にはその花托）を「世界海」に相當する言葉 loka-dhātu-samudra をもって表しているのは（4-1. 4-18.)，以上の點に關わるものでもあろう。なお，この點は，古代において，大乘敎徒が自然を如何に觀察し理解していたかを檢討する時に重要になってこよう。また，原典の內容は基本的には 2-11. でしめすように解釋すべきであろうと筆者は考えるが，宇宙は一つで，全體としての量と質は變化しないのであれば，我々を含むすべてのものは，實は總體的かつ絕對的な一佛の法身によって現されたものであると議論を展開させることも可能であろう。

1-4. 宇宙（全宇宙空間，法界）とは

原典に記された宇宙に關連する根本的な內容は，漢譯『華嚴經』入法界品に詳しい(3-11.)。その內容の特徵は，今日的な視點で見れば，次の 7 點にまとめられよう。

① 宇宙は一つである（3-1. および 3-11-⑤,-⑥.）。

② 宇宙は無量すなわち空間的に無限である（3-3. および 3-11-①,-②,-③,-④.）。

③ 宇宙は不可壞すなわち時間的に無限である（3-4. および 3-11-⑩.）。

④ 宇宙は無中邊（無限均質）で，絕對的な中心はない（3-5. および 3-11-②,-⑨.）。

⑤ 宇宙は淸淨である（3-6. および 3-11-⑦.）。

⑥ 宇宙は須彌山世界の內をも含む（2-15. 3-7. および 3-11-⑧.）。

⑦ 宇宙は全體（總體）としては實在する（3-8.）。

筆者は思うに，①〈宇宙は一つである〉ことについては，眞理は一つとする，いわゆる一乘の考え方によるものでもあろう。そうであれば，『法華經』にも說かれているような理論を展開したものともいえよう[16]。ちなみに，もちろん論據は異なるが，古代ギリシアのアリストテレスも，宇宙（天界）は一つであると主張している[17]。

②〈宇宙は空間的に無限である〉ことについては，『法華經』にも說かれている「十方無量」というような考え方を展開させたものでもあろう[18]。宇宙が空間的に無限であることは，『法華經』においても意識されていたようである。ただし，『法華經』では，法身（正確には法身に相當するもの ātmabhāvavigraha）は時間的に無限とされたが[19]，空間的に無限な佛身を想定するまでには至っていなかったらしく，法身と宇宙との空間的な關係については必ずしも明らかではない。一方，原典（正確には，*Gaṇḍavyūha-sūtra*）は，空間的に無限である宇宙に佛陀の法身が充滿することを主張していた（2-6. 2-7.）。この點は，宇宙論としては，原典のほうが『法華經』よりも展開が進んでいることをしめすものでもあろう。ちなみに，アリストテレスは，宇宙（天界）は有限であるとし，その外には場所も空虛も時間も存在しないが，不變で無苦で最も高貴で最も自足的な生命をもつ不死で神的なものが存在するとする[20]。要するに，原典は，宇宙は無限で，佛陀の法身はそ

16）『妙法蓮華經』（卷 1）方便品 T09,8a「十方佛土中。唯有一乘法。無二亦無三。」

17）村治能就（譯）「天體論」第 1 卷第 8 章，29-34 頁。

18）『妙法蓮華經』（卷 1）方便品 T09,7b「現在十方無量百千萬億佛土中。諸佛世尊。多所饒益安樂眾生。」

19）『妙法蓮華經』（卷 5）如來壽量品 T09,43b「爲度眾生故。方便現涅槃。而實不滅度。常住此說法。」

20）村治能就（譯）「天體論」第 1 卷第 8 章，29 頁，および第 1 卷第 9 章，39-40 頁。古代ギリシア人が宇宙を有限と見たか無限と見たかについては，156 頁の村治能就氏による第 5 章注 2 を參照。

の宇宙空間そのものすべてに存在するとしたが，一方，アリストテレスは，宇宙は有限で，神的なものはその宇宙空間の外に存在するとした。この違いは決定的に大きいであろう。ついでながら，ギリシアのプラトンも，宇宙は有限であるとし，その宇宙空間の外に眞實在（イデア）が存在するとした[21]。

③〈宇宙は時間的に無限である〉ことについては，佛陀（正確には佛陀の法身）は常住（時間的に無限）であり（2-5.），その佛陀が在すところであるから，宇宙もそうであるとしたものでもあろう。『法華經』も佛陀が常住であることを說いている[22]。ちなみに，アリストテレスも，宇宙は常住とした[23]。

④〈宇宙は無中邊（無限均質）で，絕對的な中心はない〉ことについては，②を展開させたもので，佛陀の法身は宇宙に充滿しているから（2-6.），宇宙のどこに居ても佛陀によって平等に救濟され得ると考えたことによるものでもあろう。この點も法身と宇宙との空間的な關係と同じく『法華經』からはしられないので，宇宙論としては，原典のほうが『法華經』よりも展開が進んでいるようにも思われる。*Gaṇḍavyūha-sūtra* では，宇宙（法界）dharma-dhātu が，an-anta-madhya-dharma-dhātu と說明されている（3-11-②.）。この句は，原典ひいては大乘佛教が展開させた宇宙論において宇宙の特徵を最も明らかに表現した重要な句の一つといえそうである。けれども，宇宙論に關する從來の研究においてはとくに注目されていないようであるから，ここで取り上げておきたい。an-anta-madhya-dharma-dhātu は，『八十華嚴』入法界品では「法界無邊」と[24]，『六十華嚴』入法界品では「法界無量無邊」と譯されている[25]。これにより，宇宙が空間的に無限であることを意味することがしられよう。ただし，この句は字義どおりあれば〈周邊も中間もない宇宙[26]〉したがって〈空間的に無限で，かつ絕對的な中心はない宇宙〉をも表すものである。an-anta-madhya には，單に〈周邊がない（すなわち兩端は不可測不可量で不明，言い換えれば，空間的に無限）〉というだけではなく〈中間もない（すなわち中間

21） 藤澤令夫（譯）『パイドロス』（岩波書店，2014 年），72-76 頁。

22） 『妙法蓮華經』（卷 5）如來壽量品 T09,43b「爲度眾生故。方便現涅槃。而實不滅度。常住此說法。」

23） 村治能就（譯）「天體論」第 2 卷第 1 章，57-59 頁。

24） 『八十華嚴』（卷 71）入法界品 T10,388b「我知法界無邊。見一切佛所知見故。（一切 1172）」

25） 『六十華嚴』（卷 53）入法界品 T09,738b「知法界無量無邊。悉見一切諸如來故。（昭和 1474）」

26） 次は an-anta-madhya を「周邊も中央もない」と譯す。梶山雄一（監修）『さとりへの遍歷（華嚴經入法界品）』下（中央公論，1994 年），69 頁。次も參照。Franklin Edgerton : *Buddhist hybrid Sanskrit grammar and dictionary*, v. 2. Yale University Press, 1953, p. 19. lit. without extremes or middle, = infinitely numerous or varied.

も不可測不可量で不明，したがって，宇宙は全體的に不可測不可量で，どこも同様に計り知れなく，要するに均質なので[27]，絶對的な中心はない)〉という意味もある[28]。この點は，原典を構成する一章で漢譯の十地品に相當する單獨經典 *Daśabhūmika-sūtra* に記された an-anta-madhya が，『八十華嚴』十地品において「無中邊」と譯されていることからも理解されよう[29]。『八十華嚴』離世間品にも「無中邊」とあるが[30]，それも〈絶對的な中心はない〉ことをも意味する an-anta-madhya の譯語であるらしい點は，近年の研究がしめすところである[31]。したがって，原典に記されていたであろう an-anta-madhya-dharma-dhātu は字義どおりに〈空間的に無限で，かつ絶對的な中心はない宇宙〉ととってもよいであろう。一方，『六十華嚴』では，an-anta-madhya がいずれも「無量無邊」のように譯されているらしい[32]。少なくとも「無中邊」のようには譯されていないようである。そればかりか，他の箇所の內容と比べ合わせてみても，『六十華嚴』からは，〈宇宙には絶對的な中心はない〉ことが直ちには理解されないようにも思われる。むしろ〈ヴァイローチャナが佛事をなすところが宇宙の絶對的な中心である〉と，より正確にいえば後述するとおり〈宇宙の絶對的な中心に華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）があり，ヴァイローチャナはそこで佛事を主宰する〉と解釋が可能になるように意圖的な編集が

27） 3-11-⑨も〈宇宙は全體的に均質である〉ことをしめすものであろう。

28） 『小品般若經』*Aṣṭasāhasrikā-Prajñāpāramitā-sūtra* の次の內容と同意であろう。『小品般若經』（卷一）初品 T08,539a「不得前際。不得中際。不得後際。」*Aṣṭasāhasrikā-Prajñāpāramitā-sūtra*: naiva pūrvānta upalabhyate, nāpy aparānta upalabhyate, nāpi madhya upalabhyate. あるいは，正確には〈時間的にも空間的にも不可測不可量で無限である〉という意かもしれないが，いずれにせよ，空間的には以上のように理解しておいてもよいであろう。ちなみに，アリストテレスも〈無限なものは同質だと中心がない〉と說いている。次を參照。村治能就（譯）「天體論」第 1 卷第 7 章，27 頁。

29） 『八十華嚴』（卷 34）十地品 T10,182b「信出生無中邊佛境界。信隨入如來無量境界。信成就果。（一切 550）」*Daśabhūmika-sūtra*: anantamadhyaṃ tathāgataviṣayābhinirhāram-aparimāṇajñānānugataṃ tathāgatagocarānupraveśaṃ phalapariniṣpattimabhiśraddadhāti.

30） 『八十華嚴』（卷 53）離世間品 T10,279a「證無中邊。佛平等地。盡於法界。等虛空界。（一切 844）」

31） 長尾雅人『攝大乘論：和譯と注解』上（講談社，1982 年），410-415 頁，還元梵文 110 頁 II-33A。以上は，『攝大乘論本』（卷 2）T31,141c「證無中邊。佛地平等。」を「佛地には中心もなく周邊もなく平等であることをさとれるものであり」と譯す。

32） 『六十華嚴』（卷 23）十地品 T09,546b「信諸佛自在神力無量無邊。信諸如來無量行門。信從因緣以成果報。（昭和 679）」『六十華嚴』（卷 36）離世間品 T09,631b「究竟無量無邊。虛空法界等。如來諸地。（昭和 1049）」『六十華嚴』（卷 53）入法界品 T09,738b「知法界無量無邊。悉見一切諸如來故。（昭和 1474）」あるいは「無量」は〈時間的にも空間的にも不可測不可量で不明〉の意を，「無邊」は〈時間的にも空間的にも無限〉の意を漢譯したものかもしれない。しかしながら，「無量無邊」から〈宇宙には絶對的な中心はない〉ことを直ちに理解するのは難しいであろう。

なされているようにも感じられる（1-5. 4-3. 4-11. 4-15. 4-16.）[33]。この點は『六十華嚴』の宇宙に關する內容を讀む上で注意が必要となろう。ちなみに，アリストテレスは，地球の中心は宇宙の中心と同じとした[34]。また，宇宙は全體としては實在することをしめしているので[35]，地球の中心は宇宙の絕對的な中心であることになる。また，②で見たように，宇宙は有限であるとした。したがって，いずれにしても，アリストテレスが考えた宇宙は，原典に說かれた宇宙すなわち an-anta-madhya-dharma-dhātu とはまったく異なるものであったことがしられるのである。

⑤〈宇宙は淸淨である（正確には，淸淨という自性を有する）〉ことについては，宇宙に淸淨な法身が充滿しているとしたことによるものでもあろう（2-4.）。この考え方からは，我々が住む須彌山世界を含む娑婆世界は穢土（汚れたところ）のようにも見えるが，實は淸淨なところ（ひいては淨土）なのであるという議論を展開させることも可能であろう。ちなみに，アリストテレスは，②でしめしたとおり神的なものは宇宙空間の外に存在するとしている點から判斷するに，宇宙の內が淸淨であるとは考えなかったであろう。

⑥〈宇宙は須彌山世界の內をも含む〉ことについては，大乘佛敎の最も代表的な理論の一つに關連してくると思われるものであるから，讀み落としてはならないであろう。原典は，我々が住む須彌山世界の外を宇宙としたのではなく，須彌山世界の內も宇宙の一部であることをしめした。したがって，先で見たように，宇宙には法身が充滿しているのなら，我々を含むすべてのものは眞理である佛陀の法身に直接的に覆われ接していることになる。そうであれば，この考え方から，法身が接しているのならば，體內にも入り得るであろうとし，それにより「一切の衆生には悉く佛性あり[36]」とする『涅槃經』に說かれるようないわゆる如來藏の考え方に議論を展開させることも可能であろう。また，漢譯『華嚴經』入法界品には，佛陀や菩薩が身中に宇宙のすべての有り樣を現すといった內容や[37]，娑婆世界の微塵にさえも宇宙のすべての有り樣が現されるといった內

33） したがって，『六十華嚴』は『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』の漢譯というよりは，むしろ『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』から展開した東アジア佛敎の新經典の一つともいえるかもしれない。

34） 村治能就（譯）「天體論」第 2 卷第 14 章，97 頁。

35） 村治能就（譯）「天體論」第 1 卷第 9 章，39-40 頁，および第 2 卷第 1 章，57-59 頁。

36） 『大般涅槃經（南本）』（卷 6）T12,643b「是故我今說是四依。法者卽是法性。義者卽是如來常住不變。智者知一切眾生悉有佛性。了義者了達一切大乘經典。」

37） 次によれば，釋迦は身中に宇宙のすべての有り樣を現す。『八十華嚴』（卷 60）入法界品 T10,320b「如來威力不思議故。如來能以一身自在變化。遍一切世界不思議故。如來能以神力。令一切佛及佛國莊嚴。皆入其身不思議故。（一切 970-971）」『六十華嚴』（卷 44）入法界品 T09,677b「如來威神。不可思議故。如來一身充滿。一切法界自在。不可思議故。一切佛刹莊嚴。入一佛身。不可思議故。（昭和 1232）」次によれば，普賢菩薩は身中に宇宙のす↗

容が見られる[38]。それらの内容は，娑婆世界の内のすべてものは，それぞれ宇宙を構成する一部分であるというのではなく，實はそれぞれ宇宙そのものであることを說こうとしたものであろう。そして，そのように解釋すれば，我々も實は宇宙そのもので，宇宙そのものである佛陀と同じであると見ることも可能になってこよう。そうであれば，この内容も如來藏の考え方に議論を展開させ得るものといえよう。ちなみに，アリストテレスは，②でしめしたように神的なものは宇宙空間の外に存在するとしている點と，また人間は地球上に居るものであり宇宙の最外周上に居るものではないことから判斷するに，人間と神的なものは接していないと考えていたであろう。ついでながら，プラトンは，人間ではなく人間の魂が時に宇宙の最外周上外側で眞實在（イデア）に接するとした[39]。

↘ べての有り樣を現す。『八十華嚴』（卷 80）入法界品 T10,440c「爾時善財童子。見普賢菩薩。如是自在。神通境界。身心遍喜。踊躍無量。重觀普賢一一身分。一一毛孔。悉有三千大千世界。風輪水輪。地輪火輪。大海江河。及諸寶山。須彌鐵圍。村營城邑。宮殿園苑。一切地獄。餓鬼畜生。閻羅王界。天龍八部。人與非人。欲界色界。無色界處。日月星宿。風雲雷電。晝夜月時。及以年劫。諸佛出世。菩薩眾會。道場莊嚴。如是等事。悉皆明見。如見此世界。十方所有。一切世界。悉如是見。（一切 1326）」『六十華嚴』（卷 60）入法界品 T09,784c「爾時善財。見如是等。不可思議。自在神力。見已歡喜。踊躍無量。重觀普賢。一一身分。一一肢節。一一毛孔中。悉見三千大千世界。風輪水輪。火輪地輪。大海寶山。須彌山王。金剛圍山。一切舍宅。諸妙宮殿。眾生等類。一切地獄。餓鬼畜生。閻羅王處。諸天梵王。乃至人非人等。欲界色界。及無色界。一切劫數。諸佛菩薩。敎化眾生。如是等事。皆悉顯現。十方一切世界。亦復如是。（昭和 1665-1666）」次によれば，金剛藏菩薩は身中に銀河におけるすべての有り樣を現す。『八十華嚴』（卷 39）十地品 T10,207c「時金剛藏菩薩。卽入一切佛國土體性三昧。入此三昧時。諸菩薩及一切大眾。皆自見身。在金剛藏菩薩身內。於中悉見。三千大千世界所有種種莊嚴之事。經於億劫。說不能盡。（一切 628-629）」『六十華嚴』（卷 27）十地品 T09,574a「時金剛藏菩薩。卽入一切佛國體性三昧。時諸大眾，天，龍，夜叉，乾闥婆，阿脩羅，迦樓羅，緊那羅，摩睺羅伽，四天王，釋提桓因，梵天王，自在天子，淨居天等。皆自見知。入金剛藏菩薩身中。於其身內。見三千大千世界莊嚴眾事。若滿一劫。說不可盡。（昭和 802）」

38） 次によれば，微塵にさえも宇宙のすべての有り樣が現される。『八十華嚴』（卷 61）入法界品 T10,327b「時。逝多林菩薩大眾。悉見一切盡法界虛空界。一切佛刹。一一微塵中。各有一切佛刹微塵數。諸佛國土種種名。種種色。種種淸淨。種種住處。種種形相。如是一切諸國土中。皆有大菩薩。坐於道場師子座上。成等正覺。菩薩大眾。前後圍遶，諸世間主。而爲供養。（一切 989）」『八十華嚴』（卷 68）入法界品 T10,370c「一一塵中見。三世一切刹。亦見彼諸佛。此是普門力。十方刹塵內。悉見盧舍那。菩提樹下坐。成道演妙法。（一切 1121-1122）」『六十華嚴』（卷 45）入法界品 T09,684a「時。祇洹林菩薩大眾。普雲集者。悉見一切法界虛空界等。一切佛刹種種色。種種淸淨。種種安住。種種形。如是等。一切世界諸大菩薩。現坐道場。菩薩圍遶。諸天供養。成等正覺。（昭和 1260）」『六十華嚴』（卷 51）入法界品 T09,721c「一一微塵中。悉見佛刹海。又覩諸如來。此是普力地。見盧舍那佛。道場成正覺。十方刹微塵。悉轉正法輪。（昭和 1405）」

39） 藤澤令夫（譯）『パイドロス』，72-76 頁。

⑦〈宇宙は實在する〉ことについては，②および③によれば，宇宙は空間的にも時間的にも無限である。また，⑤によれば，清淨という自性を有する。したがって，原典は，宇宙の內における個々様々な現象などを除けば（3-9），宇宙は全體（總體）としては實在すると說いていたことにもなろう（あるいは說いていたと解釋を展開させることもできよう）。『法華經』では，この點はわからない。*Gaṇḍavyūha-sūtra* では，宇宙が清淨という自性を有する點が svabhāva-vimala（m）dharma-dhātu（m）と表現されている（3-11-c-⑦.）。この句は『八十華嚴』入法界品では「法界性淨」と，また入法界品の內容を展開させたものと思われる十迴向品では「法界自性清淨」と譯されているらしい（3-6-a,-b.）。一方，それぞれに對應する『六十華嚴』入法界品および金剛幢菩薩十迴向品では「法界自然清淨」と譯されているようである（3-6-c,-d.）。なお，後の時代に瑜伽行唯識派において展開された佛陀の自性身 svābhāvika-kāya についての考え方は，この點に關連するものでもあろう。ちなみに，アリストテレスも，宇宙は全體としては實在するとした[40]。

1-5. 宇宙の相對的な中心

原典は，宇宙には絕對的な中心はないとしたが（1-4-④.），一方，相對的な中心と見なし得るものがあることは說いていた。では，それは何かといえば，『八十華嚴』華藏世界品では華藏莊嚴世界海と，『六十華嚴』盧舍那佛品では蓮華藏莊嚴世界海と呼ばれる世界海に相當するものである（4-1.）。世界海とは，宇宙に花咲く蓮の花（より正確にはその花の花托）と見ておけばよいであろう（4-1.）。詳しい情報は第 4 章にまとめるが，『八十華嚴』如來現相品によれば，華藏莊嚴世界海と呼ばれる蓮の花を中心に十方に無數の蓮の花（世界海）があるという（4-2. 4-3.）。そして，『八十華嚴』華藏世界品によれば，華藏莊嚴世界海と呼ばれる蓮の花の花托の上面には無數の種（世界種）がある（4-10.）。そして，それぞれの種の中には無數の銀河が入っている（4-10.）。そして，その花托の上面の中央に位置する種の中にある無數の銀河の內の一つである娑婆世界あるいは娑婆と呼ばれる銀河がヴァイローチャナの法身がその名をもって佛事を主宰する三千大千世界であるという（4-11-⑬.）。なお，この點はいわゆる〈一世界一佛〉の原則に關連するものでもあろう（2-11. 2-20. 4-11. 4-15.）[41]。

40） 村治能就（譯）「天體論」第 1 巻第 9 章，39-40 頁，および第 2 巻第 1 章，57-59 頁。

41） 〈一世界一佛〉の原則とは，すでにいわゆる原始佛敎の頃からある〈一世界に二佛は現れない〉とする考え方であるが，その〈世界〉とは須彌山世界であるか三千大千世界であるか考え方が分かれていったようである。次を參照。宇井伯壽『印度哲學研究』第 4（岩波書店，1965 年），221-222 頁。梶山雄一（監修）『さとりへの遍歷（華嚴經入法界品）』下，457-459 頁。

表１　華藏莊嚴世界海の上面中央に位置する世界種の中の銀河と佛陀（下から上へ）

階層	八十華嚴		六十華嚴	
20	銀河：妙寶焰	佛陀：福德相光明	無數の穴	無數の種
19	銀河：清淨光普照	佛陀：普照法界虛空光		種：衆色普光
18	銀河：離塵	佛陀：無量方便最勝幢	穴：寶幢	種：佛護念
17	銀河：寶莊嚴藏	佛陀：無礙智光明遍照十方	穴：化香焰	種：清淨化
16	銀河：清淨光遍照	佛陀：清淨日功德眼	穴：寶地莊嚴光明	種：寶枝莊嚴
15	銀河：衆妙光明燈	佛陀：不可摧伏力普照幢	穴：蓮華平正	種：出十方化身
14	銀河：寂靜離塵光	佛陀：遍法界勝音	穴：金剛眼光明	種：法界等起
13	銀河：娑婆	佛陀：毘盧遮那如來世尊	穴：淨光焰起	種：善住
12	銀河：光明照耀	佛陀：超釋梵	銀河：淨光勝電如來藏	佛陀：能起一切所願功德
11	銀河：恒出現帝青寶光明	佛陀：無量功德法	銀河：華林赤蓮華	佛陀：雜寶華鬘智王
10	銀河：金剛幢	佛陀：一切法海最勝王	銀河：善住金剛不可破壞	佛陀：那羅延不可破壞
9	銀河：出妙音聲	佛陀：清淨月光明相無能摧伏	銀河：勝起	佛陀：蓮華藏光
8	銀河：出生威力地	佛陀：廣大名稱智海幢	銀河：解脫聲	佛陀：善相幢
7	銀河：衆華焰莊嚴	佛陀：歡喜海功德名稱自在光	銀河：總持	佛陀：淨智慧海
6	銀河：淨妙光明	佛陀：普光自在幢	銀河：華開淨焰	佛陀：愛海功德稱王
5	銀河：普放妙華光	佛陀：香光喜力海	銀河：無畏嚴淨	佛陀：平等莊嚴妙音幢王
4	銀河：種種光明華莊嚴	佛陀：金剛光明無量精進力善出現	銀河：雜光蓮華	佛陀：金剛光明普精進善起
3	銀河：一切寶莊嚴普照光	佛陀：淨光智勝幢	銀河：寶莊嚴普光明	佛陀：廣大光明智勝
2	銀河：種種香蓮華妙莊嚴	佛陀：師子光勝照	銀河：雜香蓮華勝妙莊嚴	佛陀：師子座光明勝照
1	銀河：最勝光遍照	佛陀：淨眼離垢燈	銀河：清淨寶網光明	佛陀：離垢淨眼廣入

一方，『六十華嚴』盧舍那佛品では，『八十華嚴』華藏世界品の以上の內容に對應する箇所に缺落や混亂があり，娑婆世界をはじめ銀河の位置については不明である（4-11. 表1）。そればかりか，ヴァイローチャナがその名をもって佛事を主宰するところは華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）であるとも讀み得る[42]。先で見たように（1-4-④.），『六十華

42）たとえば，『望月佛教大辭典』毘盧遮那 4367 頁は，次の內容を，ヴァイローチャナは華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）に住し，そこから十方に光明を放つと解釋する。『六十華嚴』（卷 2）盧舍那佛品 T09,405b-405c「爾時世尊。知諸菩薩心之所念。卽於面門及一一齒間。各放佛世界塵數光明。…一一光明。照十佛土微塵等刹。彼諸菩薩見此光已。得睹蓮華藏莊嚴世界海。佛神力故。於光明中而說偈言。〈無量劫海修功德。供養十方一切佛。敎化無邊眾生海。盧舍那佛成正覺。放大光明照十方。諸毛孔出化身雲。隨眾生器而開化。令得方便淸淨道。…盧舍那佛大智海。光明普照無有量。如實觀察眞諦法。普照一切諸法門。〉（昭和 49-51 頁）」以上に對應する『八十華嚴』の內容は，次のとおり。『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,26b-27a「爾時世尊。知諸菩薩心之所念。卽於面門眾齒之間。放佛刹微塵數光明。…其光悉具眾妙寶色。普照十方各一億佛刹微塵數世界海。彼世界海諸菩薩眾。於光明中。各得見此華藏莊嚴世界海。以佛神力。其光於彼一切菩薩眾會之前。而說頌言。〈無量劫中修行海。供養十方諸佛海。化度一切眾生海。今成妙覺遍照尊。毛孔之中出化雲。光明普照於十方。應受化者咸開覺。令趣菩提淨無礙。…毘盧遮那大智海。面門舒光無不見。今待眾集將演音。汝可往觀聞所說。〉爾時十方世界海。一切眾會。蒙佛光明所開覺已。各共來詣毘盧遮那如來所。親近供養。（一切 72-73 頁）」たとえば，『六十華嚴』の次の內容は，あたかもヴァイローチャナが華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）の中央で法輪を轉じてい↗

嚴』は，宇宙に絶對的な中心はないことを明らかにはしめしていない。したがって，『六十華嚴』によれば，〈宇宙の絶對的な中心に華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）があり，ヴァイローチャナはそこで佛事を主宰する〉と解釋することも可能なのである。以上は，『六十華嚴』との關連が明らかな中國の龍門・奉先寺洞・盧舍那大佛や日本の奈良・東大寺・大佛などを考察する時にも重要になってこよう[43]。

1-6. 最高にすばらしい銀河

『八十華嚴』如來壽量品および『六十華嚴』壽命品を見るに，原典は，宇宙においてはいずれの銀河（世界）も同様であり最高にすばらしいといえる銀河は存在しないと說こうとしていたようでもある（4-17.）。原典は，シャカムニ（すなわちヴァイローチャナ）の銀河である娑婆世界が阿彌陀の銀河である極樂世界（安樂世界）よりも劣るものであるらしく思われることを記していたのは事實であろう。けれども同時に，その阿彌陀の銀河よりもすばらしく思われる銀河が無數にあることを述べ，娑婆世界と極樂世界とには大きな違いはないことを說こうとしていたようでもある。また，見方によっては，賢勝佛（賢首佛）の銀河である勝蓮華世界を最もすばらしい銀河としていたようにも解釋することは可能であろう[44]。しかしながら，漢譯の文脈から判斷するに，宇宙にはさらにそれよりもすばらしく思われる銀河が無數に存在することをしめそうとしていたようにも思われる。けれどもそうではあるものの，1-4-④,-⑤.でしめしたところにもとづけば，よりすばらしい銀河があるという點は，實は我々がそう思っているだけで（3-9.），本當はいずれの銀河も同様に淸淨なところなのであり，最高にすばらしいといえる特定の銀河は存在しないと原典は說こうとしていたようにも解釋されよう。あるいは，この點こそ原典が說こうとしていたところではなかろうか。なお，以上に關わる內容は，原典成立の頃までに，阿彌陀信仰が流行していたことをしめすものとしても注目されよう。

↘ るかのような內容である（4-11.）。『六十華嚴』（卷 4）盧舍那佛品 T09,415a「如是次上。復有世界塵數香水海及世界性。如一方。十方亦如是。盧舍那佛常轉法輪處。（昭和 93）」しかしながら，『八十華嚴』には以上に對應する內容は見られない。

43） 龍門奉先寺洞盧舍那大佛については，次を參照。肥田路美『初唐佛敎美術の硏究』（中央公論美術出版，2011 年），215-237 頁。東大寺大佛については，次を參照。拙稿「『華嚴經』の宇宙論と東大寺大佛の意匠について」，21-40 頁。

44） 木村淸孝『初期中國華嚴思想の硏究』（春秋社，1977 年），57-58 頁。

第２章，佛身論の抄，法身と色身

2-1. すべての佛陀はそれぞれに法身をもつ。

2-1-a. 『八十華嚴』（卷 46）佛不思議法品 T10,244c「一切諸佛。皆有法身。（一切 739）」

2-1-b. 『六十華嚴』（卷 30）佛不思議法品 T09,593b「一切諸佛。悉有無量法身。（昭和 889）」

2-2. それぞれの佛陀はただ一つの法身をもつ（2-24-①. 2-25-⑦.）。

2-2-a. 『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,267a「譬如三千大千世界。大梵天王。以少方便。於大千世界。普現其身。一切眾生。皆見梵王。現在己前。而此梵王。亦不分身。無種種身。佛子。諸佛如來。亦復如是。無有分別。無有戲論。亦不分身。無種種身。而隨一切。眾生心樂。示現其身。亦不作念。現若干身。佛子。是爲如來身第七相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。（一切 806）」

2-2-b. 『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,268a「譬如梵王住自宮。普現三千諸梵處。一切人天咸得見。實不分身向於彼。諸佛現身亦如是。一切十方無不遍。其身無數不可稱。亦不分身不分別。（一切 808）」

2-2-c. 『六十華嚴』（卷 31）寶王如來性起品 T09,617a-b「譬如三千大千世界。大梵天王。以少方便。大千世界。一切眾生。各見梵王。現在己前。亦不分身。無種種身。佛子。如來亦復如是。亦不分身。無種種身。於一切眾生。隨所應化。示現其身。未曾生念。示現彼此。若干眾生。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第七勝行。知見如來。（昭和 988）」

2-2-d. 『六十華嚴』（卷 31）寶王如來性起品 T09,618b「譬如大梵王。安住梵天宮。悉於大千界。普現梵王身。具足自在力。變現無量身。無處而不見。其身亦不分。導師亦如是。具足自在力。一切十方刹。普現無量身。不可稱量身。一切莫能見。普應現眾生。而亦不分身。（昭和 993）」

2-3. 法身は宇宙的な眞理である（2-24-⑳. 2-25.）。

2-3-a. 『八十華嚴』（卷 46）佛不思議法品 T10,244c「一切諸佛。皆有法身。清淨無礙。於一切法。究竟通達。住於法界。無有邊際。（一切 739）」

2-3-b. 『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,266a「諸菩薩摩訶薩。應云何見如來，應，正等覺身。佛子。諸菩薩摩訶薩。應於無量處。見如來身。何以故。諸菩薩摩訶薩。不應於一法，一事，一身，一國土，一眾生見於如來。應遍一切處。見於如來。（一切 802）」

2-3-c. 『六十華嚴』（卷 30）佛不思議法品 T09,593b「一切諸佛。悉有無量法身。離礙清淨。

法界無量無邊。(昭和 889)」

2-3-d. 『六十華嚴』(卷 34) 寶王如來性起品 T09,616a「云何菩薩摩訶薩。知見如來，應供，等正覺。此菩薩摩訶薩。知見如來。具足成就。無量功德。何以故。如來，應供，等正覺。非一法，一行，一身，一刹，化一眾生故。此菩薩摩訶薩。知見如來。具足成就。無量法，無量行，無量身，無量刹，平等教化。一切眾生故。(昭和 983)」

2-4. 法身は清淨である (2-24-⑦,-⑰.)。

2-4-a. 『八十華嚴』(卷 46) 佛不思議法品 T10,244c「一切諸佛。皆有法身。清淨無礙。於一切法。究竟通達。住於法界。無有邊際。(一切 739)」

2-4-b. 『六十華嚴』(卷 30) 佛不思議法品 T09,593b「一切諸佛。悉有無量法身。離礙清淨。法界無量無邊。(昭和 889)」

2-5. 法身は常住すなわち時間的に無限である (2-24-⑧.)[45]。色身の涅槃は方便である。思うに，次の內容は，シャカムニの涅槃後である現世においても佛陀は存在すると信じたいという思いに答えて，色身の佛陀の涅槃後においても法身の佛陀が常住すると說いたものでもあろう[46]。

2-5-a. 『八十華嚴』(卷 52) 如來出現品 T10,276b「諸佛如來。爲令眾生。生欣樂故。出現於世。欲令眾生。生戀慕故。示現涅槃。而實如來。無有出世。亦無涅槃。何以故。如來常住。淸淨法界。隨眾生心。示現涅槃。佛子。譬如日出。普照世間。於一切淨水器中。影無不現。普遍眾處。而無來往。或一器破。便不現影。佛子。於汝意云何。彼影不現。爲日咎不。答言不也。但由器壞。非日有咎。佛子。如來智日。亦復如是。普現法界。無前無後。一切眾生。淨心器中。佛無不現。心器常淨。常見佛身。若心濁器破。則不得見。佛子。若有眾生。應以涅槃。而得度者。如來則爲。示現涅槃。而實如來。無生無歿。無有滅度。(一切 835-836)」

2-5-b. 『八十華嚴』(卷 60) 入法界品 T10,324c「一切諸佛法。法界悉平等。言說故不同。此眾咸通達。諸佛常安住。法界平等際。演說差別法。言辭無有盡。(一切 982)」

2-5-c. 『六十華嚴』(卷 36) 寶王如來性起品 T09,628b-c「但如來欲令眾生歡喜故。出現於世。欲令眾生憂悲感慕故。示現涅槃。其實如來無有出世。亦無涅槃。何以故。如來常住如法界故。爲化眾生示現涅槃。佛子。設有日出照現世間。圓滿明淨與法界等。於一切世

45) 『法華經』にも同樣な內容が見られる。『妙法蓮華經』(卷 5) 如來壽量品 T09,43b「爲度眾生故。方便現涅槃。而實不滅度。常住此說法。」

46) 『法華經』の內容も同樣に解釋されよう。

界淨水器中。影無不現。日無是念。我能普現一切淨水。佛子。彼時或有一水器破。日影不現。於意云何。彼影不現。豈日過耶。答曰不也。水器破故。日影不現。佛子。如來智慧。圓滿淨日。一念出現。悉能照明。一切世界。一切法界。一切眾生。滅除垢濁。淨心水器。影無不顯。常現在前。但破器濁心眾生。不見如來。法身影像。應見涅槃。而得度者。是故如來。現般涅槃。其實如來。不生不滅。永無滅度。(昭和 1036-1037)」

2-5-d. 『六十華嚴』(卷 44) 入法界品 T09,681a「佛子悉究竟。一切語言道。佛法不可壞。安住法界地。法性不可壞。牟尼甚深法。句身及味身。分別無窮盡。(昭和 1246)」

2-6. 法身は宇宙(法界)に充滿する(2-24-⑯.)。なお,入法界品 2-6-c,-f. の「佛身」は法身と見てよいであろう(2-18-c,-f. 2-20-d,-e.)。

2-6-a. 『八十華嚴』(卷 6) 如來現相品 T10,31a「佛身無差別。充滿於法界。能令見色身。隨機善調伏。(一切 85)」

2-6-b. 『八十華嚴』(卷 61) 入法界品 T10,327c「或入法身。或入色身。(一切 990)」

2-6-c. 『八十華嚴』(卷 69) 入法界品 T10,373a「佛身不思議。法界悉充滿。(一切 1128)」

2-6-d. 『六十華嚴』(卷 3) 盧舍那佛品 T09,408b「法身堅固不可壞。充滿一切諸法界。普能示現諸色身。隨應化導諸群生。(昭和 60)」

2-6-e. 『六十華嚴』(卷 45) 入法界品 T09,684a「或得法身。或得色身。(昭和 1261)」

2-6-f. 『六十華嚴』(卷 51) 入法界品 T09,723c「佛身難思議。悉滿諸法界。(昭和 1413)」

2-7. 宇宙は空間的に無限である。

2-7-a. 『八十華嚴』(卷 71) 入法界品 T10,388b「我知法界無量。獲得廣大智光明故。我知法界無邊。見一切佛所知見故。我知法界無限。普入一切諸佛國土。恭敬供養諸如來故。我知法界無畔。普於一切法界海中。示現修行菩薩行故。(一切 1172)」

2-7-b. 『六十華嚴』(卷 53) 入法界品 T09,738b「知法界無量。智慧無量故。知法界無量無邊。悉見一切諸如來故。知佛法界無量無邊。詣一切刹。恭敬供養一切佛故。知法界無分齊。於一切世界海。行菩薩行故。(昭和 1474)」

2-8. したがって,2-6. および 2-7. によれば,法身は空間的に無限である(2-24-②.)。

2-8-a. 『八十華嚴』(卷 46) 佛不思議法品 T10,244c「一切諸佛。皆有法身。清淨無礙。於一切法。究竟通達。住於法界。無有邊際。(一切 739)」

2-8-b. 『六十華嚴』(卷 30) 佛不思議法品 T09,593b「一切諸佛。悉有無量法身。離礙清淨。法界無量無邊。(昭和 889)」

2-9. ところが，宇宙は一つしかない（3-1.）。

2-9-a. 『八十華嚴』（卷 71）入法界品 T10,388b「我知法界無斷。入於如來不斷智故。我知法界一性。如來一音一切眾生無不了故。（一切 1172）」

2-9-b. 『六十華嚴』（卷 53）入法界品 T09,738b「知法界不可壞。究竟如來不可沮壞圓滿智故。知法界一。如來妙音一切眾生無不聞故。（昭和 1474）」

2-10. したがって，一佛の法身と多佛の法身（多佛の法身を合わせたもの）は同じものということになる（2-24-①.）。すなわち，法身はいわゆる「一卽多」の性質をもつ。

2-10-a. 『八十華嚴』（卷 13）菩薩問明品 T10,68c「一切諸佛身。唯是一法身。一心一智慧。力無畏亦然。（一切 195）」

2-10-b. 『八十華嚴』（卷 16）十住品 T10,85a「此菩薩應勸學。十種廣大法。何者爲十。所謂。說一卽多。說多卽一。…（一切 246-267）」

2-10-c. 『八十華嚴』（卷 16）十住品 T10,87c「一卽是多多卽一。文隨於義義隨文。如是一切展轉成。此不退人應爲說。（一切 254）」

2-10-d. 『八十華嚴』（卷 77）入法界品 T10,423b「是以一佛入一切佛。以一切佛入一佛。而不壞其相者之所住處。（一切 1276）」

2-10-e. 『六十華嚴』（卷 5）菩薩明難品 T09,429b「一切諸佛身。唯是一法身。一心一智慧。力無畏亦然。（昭和 160）」

2-10-f. 『六十華嚴』（卷 8）菩薩十住品 T09,446a「彼菩薩應學十法。何等爲十。所謂。知一卽是多。多卽是一。…（昭和 249）」

2-10-g. 『六十華嚴』（卷 8）菩薩十住品 T09,448b「若一卽多多卽一。義味寂滅悉平等。遠離一異顚倒相。是名菩薩不退住。（昭和 261）」

2-10-h. 『六十華嚴』（卷 58）入法界品 T09,770b「以一佛爲一切佛。以一切佛爲一佛。而解諸佛無有二者。（昭和 1606）」

2-11. ただし，原典は，總體的かつ絕對的な一佛の法身が全宇宙空間において佛事を主宰すると說こうとはしていなかった（あるいは說くには至っていなかった）ようにも思われる。少なくともそのような總體的かつ絕對的な一佛の法身の絕對的な名稱を明らかにはしていなかったようである。次は，あたかもヴァイローチャナの法身が全宇宙空間においてその名をもって佛事を主宰しているかのようではあるが，それは娑婆世界の者から見ればあたかもそうであるだけで，實際には他の佛陀の法身も同樣に佛事をなしていると說こうとしているようにも解釋される。法身は「一卽多」であるから〈一法界一佛〉とは必ずしもいえないであろう。この點は色身の佛陀における〈一世界一佛〉とは異な

る點であり（1-5. 2-20. 4-11. 4-15.），注意が必要であろう。なお，原典は，總體的かつ絕對的な一佛の法身の存在を必ずしも否定しているものではないから，そのような存在についての議論を展開させることは可能であろう（1-3.）。いわゆる密敎の大日如來 Mahāvairocana はこの點に關わるものでもあろう。

2-11-a.『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,31a「毘盧遮那佛。能轉正法輪。法界諸國土。如雲悉周遍。十方中所有。諸大世界海。佛神通願力。處處轉法輪。一切諸刹土。廣大眾會中。名號各不同。隨應演妙法。（一切 85）」

2-11-b.『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,408a「盧舍那如來。轉淸淨法輪。一切法方便。如來雲普覆。十方國土中。一切世界海。佛願力自在。普現轉法輪。一切佛土中。無量大眾海。言號各不同。而轉淨法輪。（昭和 59-60）」

2-12. 法身は，基本的には，姿なし肉體なし（2-26.）。

2-12-a.『八十華嚴』（卷 7）世界成就品 T10,37c「諸佛法身不思議。無色無形無影像。能爲眾生現眾相。隨其心樂悉令見。（一切 105）」

2-12-b.『八十華嚴』（卷 69）入法界品 T10,372b「無相。性相本空故。（一切 1127）」

2-12-c.『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,411c「如來法身不思議。無色無相無倫匹。示現色身爲眾生。十方受化靡不見。（昭和 79）」

2-12-d.『六十華嚴』（卷 51）入法界品 T09,723a「如來無性。究竟法性故。（昭和 1410-1411）」

2-13. 法身は大空（おおぞら）の空閒（虛空）のようである（2-25-①.）。

2-13-a.『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,266a「譬如虛空。遍至一切色非色處。非至非不至。何以故。虛空無身故。如來身亦如是。遍一切處。遍一切眾生。遍一切法。遍一切國土。非至非不至。（一切 802）」

2-13-b.『六十華嚴』（卷 34）寶王如來性起品 T09,616a「譬如虛空。一切色處非色處。無處不至。而非至非不至。何以故。虛空無形色故。如來法身。亦復如是。至一切處，一切刹，一切法，一切眾生。而無所至。（昭和 983）」

2-14. 宇宙も大空の空閒のようである（3-2.）。

2-14-a.『八十華嚴』（卷 7）世界成就品 T10,35a「觀察法界如虛空。此乃能知佛行處。（一切 96）」

2-14-b.『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,409c「遊心法界如虛空。是人乃知佛境界。（昭和 67）」

2-15. 法身は宇宙に等しく充滿する（3-7.）。

2-15-a. 『八十華嚴』（卷 2）世主妙嚴品 T10,7c「佛身周遍等法界。普應眾生悉現前。（一切 18）」

2-15-b. 『六十華嚴』（卷 1）世間淨眼品 T09,399b「如來法身等法界。普應眾生悉對現。（昭和 20）」

2-16. したがって，2-13. から 2-15. によれば，法身はほぼ宇宙（法界）そのものともいえよう。

2-17. ただし，法身は，肉體はないが，條件が揃えば，姿が我々の目にも見えるという（2-25-①,-⑩.）。原典に說かれたこの可見の法身は，後の時代に瑜伽行唯識派が說く受用身（あるいは他受用身）に相當する。思うに，次の內容は，佛陀が常住するのであれば，まみえたいという願いに答えて，まずは法身が可見であることを說いたものでもあろう[47]。

2-17-a. 『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,266a「如來身亦如是。遍一切處。遍一切眾生。遍一切法。遍一切國土。非至非不至。何以故。如來身無身故。爲眾生故。示現其身。（一切 802）」

2-17-b. 『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,267b「佛身非是。少福眾生。所能得見。唯除如來。自在神力。所應調伏。若有眾生。因見佛身。便種善根。乃至成熟。爲成熟故。乃令得見。如來身耳。（一切 807）」

2-17-c. 『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,267c「諸佛眞身亦如是。一切法界無不遍。不可得見不可取。爲化眾生而現形。（一切 807-808）」

2-17-d. 『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,268a「少福眾生不能見。非是寶王有分別。善逝寶王亦如是。悉滿所求諸欲樂。無信眾生不見佛。非是善逝心棄捨。（一切 809）」

2-17-e. 『六十華嚴』（卷 34）寶王如來性起品 T09,616a「如來法身。亦復如是。至一切處，一切刹，一切法，一切眾生。而無所至。何以故。諸如來身。非是身故。隨所應化。示現其身。（昭和 983）」

2-17-f. 『六十華嚴』（卷 34）寶王如來性起品 T09,617c「如來法身。非少福眾生之所能見。除佛神力。隨其所應。而示現身。（昭和 990）」

2-17-g. 『六十華嚴』（卷 34）寶王如來性起品 T09,617c「一切諸最勝。淸淨妙法身。無處而不至。充滿諸法界。最勝妙法身。一切莫能見。敎化眾生故。導師爲示現。（昭和 990）」

47）『法華經』の次の內容も同樣に解釋されよう。『妙法蓮華經』（卷 4）見寶塔品 T09,33b「卽時一切眾會。皆見多寶如來。於寶塔中。坐師子座。全身不散。如入禪定。」

2-17-h. 『六十華嚴』（卷 34）寶王如來性起品 T09,618c「少功德眾生。不見此寶王。善逝亦如是。令一切願滿。若有求願者。皆悉得滿足。善逝不生念。我利益眾生。其懷惡心者。不覩如來身。（昭和 995）」

2-18. 法身は色身を現す（2-19.）。

2-18-a. 『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,31a「佛身無差別。充滿於法界。能令見色身。隨機善調伏。（一切 85）」

2-18-b. 『八十華嚴』（卷 46）佛不思議法品 T10,244a「諸佛世尊。有十種爲眾生作佛事。何等爲十。所謂。一切諸佛。示現色身。爲眾生作佛事。一切諸佛。出妙音聲。爲眾生作佛事。…（一切 737）」

2-18-c. 『八十華嚴』（卷 69）入法界品 T10,375b「法身恒寂靜。清淨無二相。爲化眾生故。示現種種形。於諸蘊界處。未曾有所著。示行及色身。調伏一切眾。（一切 1136）」

2-18-d. 『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,408b「法身堅固不可壞。充滿一切諸法界。普能示現諸色身。隨應化導諸群生。（昭和 60）」

2-18-e. 『六十華嚴』（卷 30）佛不思議法品 T09,592a「一切諸佛。於一切世界一切時。有十種佛事。何等爲十。一切諸佛。若有眾生正憶念者。卽現在前。一切諸佛。常爲眾生。說摩訶衍。…（昭和 883-884）」

2-18-f. 『六十華嚴』（卷 52）入法界品 T09,726b「清淨妙法身。除滅煩惱熱。非二現有二。爲化眾生故。陰入及諸界。皆悉無所著。具行及色身。度脫一切眾。（昭和 1423）

2-19. 法身は人間の姿と肉體をした色身を現す（2-18.）。

2-19-a. 『八十華嚴』（卷 53）離世間品 T10,280a-b「① 何等爲住兜率天所作業。② 何故於兜率天宮歿。③ 何故現處胎。④ 何等爲現微細趣。⑤ 何故現初生。⑥ 何故現微笑。⑦ 何故示行七步。⑧ 何故現童子地。⑨ 何故現處內宮。⑩ 何故現出家。⑪ 何故示苦行。⑫ 云何往詣道場。⑬ 云何坐道場。⑭ 何等爲坐道場時奇特相。⑮ 何故示降魔。⑯ 何等爲成如來力。⑰ 云何轉法輪。⑱ 何故因轉法輪得白淨法。⑲ 何故如來應正等覺示般涅槃。（一切 848）」

2-19-b. 『六十華嚴』（卷 36）離世間品 T09,632c「① 何等爲住兜率天所行事業。② 何等爲兜率天示現命終。③ 何等爲示現降神母胎事。④ 何等爲示現微細趣。⑤ 何等爲生。⑥ 何等爲大莊嚴。⑦ 何等爲遊行七步。⑧ 何等爲示現童子地。⑨ 何等爲示現采女眷屬。⑩ 何等爲示現捨家出家。⑪ 何等爲示現苦行。⑫ 何等爲往詣道場。⑬ 何等爲坐道場。⑭ 何等爲坐道場時顯奇特相。⑮ 何等爲示現降魔。⑯ 何等爲成等正覺。⑰ 何等爲轉法輪。⑱ 何等爲因轉法輪得白淨法。佛子。⑲ 何等爲如來應供等正覺示現大般涅槃。（昭和 1054）」

2-20. 娑婆世界では，ヴァイローチャナがその名をもって佛事を主宰する。すなわちヴァイローチャナの法身が色身を現す（2-18.）。これは〈一世界一佛〉の原則に關わるものでもあろう（1-5. 2-11. 4-11. 4-15.）。ただし，『八十華嚴』によればそうであるが，『六十華嚴』では 2-20-b に對應する內容が缺落しているので，不明である。

2-20-a. 『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,31a「毘盧遮那佛。能轉正法輪。法界諸國土。如雲悉周遍。十方中所有。諸大世界海。佛神通願力。處處轉法輪。一切諸刹土。廣大眾會中。名號各不同。隨應演妙法。（一切 85）」

2-20-b. 『八十華嚴』（卷 8）華藏世界品 T10,43a-43b「此上過佛刹。微塵數世界。至此世界。名娑婆。以金剛莊嚴爲際。依種種色。風輪所持。蓮華網住。狀如虛空。以普圓滿天宮殿。莊嚴虛空而覆其上。十三佛刹微塵數世界。周匝圍遶。其佛卽是毘盧遮那如來世尊。（一切 122-123 頁）」

2-20-c. 『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,408a「盧舍那如來。轉淸淨法輪。一切法方便。如來雲普覆。十方國土中。一切世界海。佛願力自在。普現轉法輪。一切佛土中。無量大眾海。言號各不同。而轉淨法輪。（昭和 59-60）」

なお，原典は，次の入法界品に見られる「百億如來」によれば，〈一須彌山世界（すなわち一つの四天下）に一佛〉と想定していたようでもある。この〈一佛〉は一色身に相當するものと見ることもできよう（2-6-c,-f.）。

2-20-d. 『八十華嚴』（卷 66）入法界品 T10,359c「一一世界中。有百億四天下。百億如來。或住兜率天。乃至般涅槃。一一如來。放光明網。周遍法界。道場眾會。淸淨圍遶。轉妙法輪。開悟群生。（一切 1087）」

2-20-e. 『六十華嚴』（卷 49）入法界品 T09,711c「一一世界中。各見百億如來。一一如來。大眾圍遶。放大光明。普照十方。或現兜率天。或現於一切世界。以妙音聲。轉淨法輪。乃至示現大般涅槃。（昭和 1366）」

一方，『八十華嚴』華藏世界品によれば（4-11. および 4-15.），原典は〈一銀河（すなわち一つの三千大千世界）に一佛〉としていたらしい。こちらの〈一佛〉は〈一銀河の內においてその名をもって佛事を主宰する一法身〉に相當するものと解釋することも可能であろう。そうであれば，原典は〈一世界一佛〉の〈一世界〉を〈一須彌山世界〉と〈一銀河〉のどちらにも相當するものとして扱っていたことにもなろう（4-17.）。

2-21. 娑婆世界の過去佛も未來佛もヴァイローチャナの色身である。そう解釋されるのは，ヴァイローチャナの法身が宇宙に常住し娑婆世界でその名をもって佛事を主宰するとされるからである（2-5. および 2-20.）。

2-22. 娑婆世界の內，我々が住む須彌山世界（四天下）では，ヴァイローチャナの色身は，時にシャカムニとも呼ばれる。

2-22-a. 『八十華嚴』（卷 12）如來名號品 T10,58c「如來於此四天下中。或名一切義成。或名圓滿月。或名師子吼。或名釋迦牟尼。或名第七仙。或名毘盧遮那。或名瞿曇氏。或名大沙門。或名最勝。或名導師。如是等。其數十千。令諸眾生。各別知見。（一切 166）」

2-22-b. 『六十華嚴』（卷 4）如來名號品 T09,419a「此四天下佛號不同。或稱悉達。或稱滿月。或稱師子吼。或稱釋迦牟尼。或稱神仙。或稱盧舍那。或稱瞿曇。或稱大沙門。或稱最勝。或稱能度。如是等。稱佛名號。其數一萬。（昭和 113）」

2-23. 娑婆世界に現れるすべての色身の佛陀は，輪廻上同一の女性を母とする。

2-23-a. 『八十華嚴』（卷 76）入法界品 T10,416b-417a「如今世尊。我爲其母。往昔所有。無量諸佛。悉亦如是。而爲其母。…如此世界賢劫之中。過去世時。拘留孫佛。拘那含牟尼佛。迦葉佛。及今世尊釋迦牟尼佛。現受生時。我爲其母。未來世中。彌勒菩薩。從兜率天。將降神時。放大光明。普照法界。示現一切。諸菩薩眾。受生神變。乃於人間。生大族家。調伏眾生。我於彼時。亦爲其母。如是次第。有師子佛。…如是乃至。樓至如來。在賢劫中。於此三千大千世界。當成佛者。悉爲其母。（一切 1255-1256）」

2-23-b. 『六十華嚴』（卷 57）入法界品 T09,764a-c「我爲盧舍那佛母。拘樓孫佛。拘那含牟尼佛。迦葉佛。彌勒佛。師子佛。…如是等賢劫一切佛。於此世界。成等正覺。我悉爲母。（昭和 1583-1584）」

2-24. 法身に二十五の特徵あり。ただし，『六十華嚴』では『八十華嚴』の③に對應する內容が見られないので二十四の特徵となる。

2-24-a. 『八十華嚴』（卷 47）佛不思議法品 T10,250a「一切諸佛。① 同一法身。② 境界無量身。③ 功德無邊身。④ 世間無盡身。⑤ 三界不染身。⑥ 隨念示現身。⑦ 非實非虛，平等，淸淨身。⑧ 無來無去，無爲，不壞身。⑨ 一相無相法自性身。⑩ 無處無方。遍一切身。⑪ 神變自在，無邊色相身。⑫ 種種示現，普入一切身。⑬ 妙法方便身。⑭ 智藏普照身。⑮ 示法平等身。⑯ 普遍法界身。⑰ 無動無分別，非有非無，常淸淨身。⑱ 非方便非不方便，非滅非不滅，隨所應化，一切眾生，種種信解，而示現身。⑲ 從一切功德寶所生身。⑳ 具一切諸佛法，眞如身。㉑ 本性寂靜，無障礙身。㉒ 成就一切無礙法身。㉓ 遍住一切淸淨法界身。㉔ 分形普遍一切世間身。㉕ 無攀緣，無退轉，永解脫，具一切智，普了達身。是爲諸佛第九大那羅延幢勇健法。（一切 755-756）」

2-24-b. 『六十華嚴』（卷 31）佛不思議法品 T09,599b「一切諸佛。① 具足成就，細密法身。② 諸佛法身，境界無量。〈③〉。④ 一切世間，所不能知。⑤ 於三界中，無所染污。⑥ 隨

因緣應一切普現。⑦ 非實非虛，平等清淨。⑧ 非去非來，無爲無壞，清淨常住。⑨ 一相無相，是法身相。⑩ 非處非方，一切身身。⑪ 自在無量，妙色無量。⑫ 攝一切身。作種種身。⑬ 隨方便身。⑭ 普照一切。具足智藏。⑮ 而無種種分別。⑯ 其身充滿，無餘世界。說一切法界。⑰ 雖動非動。清淨法身。非有非無。⑱ 非方便，非不方便，隨眾生所應，悉能示現，非滅非不滅，亦非不現，而化眾生。⑲ 一切功德寶，所起之身。⑳ 一切法佛法起，如如法身。㉑ 自然寂靜，於一切法，無所障礙。㉒ 隨順一切法界。㉓ 清淨一切世間。㉔ 分別一切世間。㉕ 無有動轉，無有境界，如來解脫，攝一切智，隨順一切身。佛子。是爲一切諸佛第九大力那羅延幢佛所住法。(昭和 912)」

2-25. 法身（ただし瑜伽行唯識派の三身說にいう受用身あるいは四身說にいう他受用身に相當）に十の特徵あり[48]。

① 法身は肉體はないが，姿を現す。

② 法身はあれこれ考えず，すべての者に對してあまねく平等である。

③ 法身は樣々な方法で利益を與える。

④ 法身は順にしたがい，すべての者に對してあまねく平等に利益を與える。

⑤ 法身は信じない者にも利益を與える。

⑥ 法身は情況にあわせて，すべての者に對して姿を現す。

⑦ 法身は一つあるのみ。

⑧ 法身は常に佛事をなす。

⑨ 法身は大いに利益を與える。

⑩ 法身は努力しない者の目には見えない。

2-25-a.『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,266a-268a「諸菩薩摩訶薩應。云何見如來，應，正等覺身。佛子。諸菩薩摩訶薩。應於無量處。見如來身。何以故。諸菩薩摩訶薩。不應於一法，一事，一身，一國土，一眾生，見於如來。應遍一切處。見於如來。

① 佛子。譬如虛空。遍至一切色非色處。非至非不至。何以故。虛空無身故。如來身亦如是。遍一切處。遍一切眾生。遍一切法。遍一切國土。非至非不至。何以故。如來身無身故。爲眾生故。示現其身。佛子。是爲如來身第一相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

② 復次。佛子。譬如虛空。寬廣非色。而能顯現。一切諸色。而彼虛空。無有分別。亦無戲論。如來身亦復如是。以智光明。普照明故。令一切眾生。世出世間。諸善根業。皆得成就。而如來身。無有分別。亦無戲論。何以故。從本已來。一切執著。一切戲論。皆

48) 高崎直道（譯）「華嚴經如來性起品」『大乘佛典』第十二卷如來藏系經典（中央公論社，1992 年），165-185 頁。

永斷故。佛子。是爲如來身第二相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

③ 復次。佛子。譬如日出。於閻浮提。無量眾生。皆得饒益。所謂。破闇作明。變濕令燥。生長草木。成熟穀稼。廓徹虛空。開敷蓮華。行者見道。居者辦業。何以故。日輪普放。無量光故。佛子。如來智日。亦復如是。以無量事。普益眾生。所謂。滅惡生善。破愚爲智。大慈救護。大悲度脫。令其增長。根力覺分。令生深信。捨離濁心。令得見聞。不壞因果。令得天眼。見歿生處。令心無礙。不壞善根。令智修明。開敷覺華。令其發心。成就本行。何以故。如來廣大。智慧日身。放無量光。普照耀故。佛子。是爲如來身第三相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

④ 復次。佛子。譬如日出。於閻浮提。先照一切。須彌山等。諸大山王。次照黑山。次照高原。然後普照。一切大地。日不作念。我先照此。後照於彼。但以山地。有高下故。照有先後。如來應正等覺。亦復如是。成就無邊。法界智輪。常放無礙。智慧光明。先照菩薩摩訶薩等。諸大山王。次照緣覺。次照聲聞。次照決定。善根眾生。隨其心器。示廣大智。然後普照。一切眾生。乃至邪定。亦皆普及。爲作未來。利益因緣。令成熟故。而彼如來。大智日光。不作是念。我當先照。菩薩大行。乃至後照。邪定眾生。但放光明。平等普照。無礙無障。無所分別。佛子。譬如日月。隨時出現。大山幽谷。普照無私。如來智慧。亦復如是。普照一切。無有分別。隨諸眾生。根欲不同。智慧光明。種種有異。佛子。是爲如來身第四相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

⑤ 復次。佛子。譬如日出。生盲眾生。無眼根故。未曾得見。雖未曾見。然爲日光。之所饒益。何以故。因此得知。晝夜時節。受用種種。衣服飲食。令身調適。離眾患故。如來智日。亦復如是。無信無解。毀戒毀見。邪命自活。生盲之類。無信眼故。不見諸佛。智慧日輪。雖不見佛。智慧日輪。亦爲智日。之所饒益。何以故。以佛威力。令彼眾生。所有身苦。及諸煩惱。未來苦因。皆消滅故。佛子。如來有光明。名積集一切功德。有光明。名普照一切。有光明。名清淨自在照。有光明。名出大妙音。有光明。名普解一切語言法令他歡喜。有光明。名示現永斷一切疑自在境界。有光明。名無住智自在普照。有光明。名。永斷一切戲論自在智。有光明。名隨所應出妙音聲。有光明。名出清淨自在音莊嚴國土成熟眾生。佛子。如來一一毛孔。放如是等。千種光明，五百光明。普照下方。五百光明。普照上方。種種剎中。種種佛所。諸菩薩眾。其菩薩等。見此光明。一時皆得。如來境界。十頭，十眼，十耳，十鼻，十舌，十身，十手，十足，十地，十智。皆悉清淨。彼諸菩薩。先所成就。諸處諸地。見彼光明。轉更清淨。一切善根。皆悉成熟。趣一切智。住二乘者。滅一切垢。其餘一分。生盲眾生。身既快樂。心亦清淨。柔軟調伏。堪修念智。地獄餓鬼，畜生諸趣。所有眾生。皆得快樂。解脫眾苦。命終皆生。天上人間。佛子。彼諸眾生。不覺不知。以何因緣。以何神力。而來生此。彼生盲者。作如是念。我是梵天。我是梵化。是時如來。住普自在三昧。出六十種妙音。而告之言。汝等非是梵天。亦非梵

化。亦非帝釋。護世所作。皆是如來。威神之力。彼諸眾生。聞是語已。以佛神力。皆知宿命。生大歡喜。心歡喜故。自然而出。優曇華雲，香雲，音樂雲，衣雲，蓋雲，幢雲，幡雲，末香雲，寶雲，師子幢半月樓閣雲，歌詠讚歎雲，種種莊嚴雲。皆以尊重心。供養如來。何以故。此諸眾生。得淨眼故。如來與彼。授阿耨多羅三藐三菩提記。佛子。如來智日。如是利益。生盲眾生。令得善根。具足成熟。佛子。是爲如來身第五相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

⑥　復次。佛子。譬如月輪。有四奇特。未曾有法。何等爲四。一者。映蔽一切。星宿光明。二者。隨逐於時。示現虧盈。三者。於閻浮提。澄淨水中。影無不現。四者。一切見者。皆對目前。而此月輪。無有分別。無有戲論。佛子。如來身月。亦復如是。有四奇特。未曾有法。何等爲四。所謂。映蔽一切。聲聞獨覺。學無學眾。隨其所宜。示現壽命。修短不同。而如來身。無有增減。一切世界。淨心眾生。菩提器中。影無不現。一切眾生。有瞻對者。皆謂如來。唯現我前。隨其心樂。而爲說法。隨其地位。令得解脫。隨所應化。令見佛身。而如來身。無有分別。無有戲論。所作利益。皆得究竟。佛子。是爲如來身第六相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

⑦　復次。佛子。譬如三千大千世界。大梵天王。以少方便。於大千世界。普現其身。一切眾生。皆見梵王。現在己前。而此梵王。亦不分身。無種種身。佛子。諸佛如來。亦復如是。無有分別。無有戲論。亦不分身。無種種身。而隨一切。眾生心樂。示現其身。亦不作念。現若干身。佛子。是爲如來身第七相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

⑧　復次。佛子。譬如醫王。善知眾藥。及諸呪論。閻浮提中。諸所有藥。用無不盡。復以宿世。諸善根力。大明呪力。爲方便故。眾生見者。病無不愈。彼大醫王。知命將終。作是念言。我命終後。一切眾生。無所依怙。我今宜應。爲現方便。是時醫王。合藥塗身。明呪力持。令其終後。身不分散。不萎不枯。威儀視聽。與本無別。凡所療治。悉得除差。佛子。如來應正等覺。無上醫王。亦復如是。於無量百千億那由他劫。鍊治法藥。已得成就。修學一切。方便善巧。大明呪力。皆到彼岸。善能除滅。一切眾生。諸煩惱病。及住壽命。經無量劫。其身清淨。無有思慮。無有動用。一切佛事。未嘗休息。眾生見者。諸煩惱病。悉得消滅。佛子。是爲如來身第八相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

⑨　復次。佛子。譬如大海。有大摩尼寶。名集一切光明毘盧遮那藏。若有眾生。觸其光者。悉同其色。若有見者。眼得清淨。隨彼光明。所照之處。雨摩尼寶。名爲安樂。令諸眾生。離苦調適。佛子。諸如來身。亦復如是。爲大寶聚。一切功德。大智慧藏。若有眾生。觸佛身寶。智慧光者。同佛身色。若有見者。法眼清淨。隨彼光明。所照之處。令諸眾生。離貧窮苦。乃至具足。佛菩提樂。佛子。如來法身。無所分別。亦無戲論。而能普爲。一切眾生。作大佛事。佛子。是爲如來身第九相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。

⑩　復次。佛子。譬如大海。有大如意摩尼寶王。名一切世間莊嚴藏。具足成就。百萬功

德。隨所住處。令諸衆生。災患消除。所願滿足。然此如意摩尼寶王。非少福衆生所能得見。如來身如意寶王。亦復如是，名爲能令一切衆生皆悉歡喜。若有見身。聞名讚德。悉令永離。生死苦患。假使一切世界。一切衆生。一時專心。欲見如來。悉令得見。所願皆滿。佛子。佛身非是。少福衆生。所能得見。唯除如來。自在神力。所應調伏。若有衆生。因見佛身。便種善根。乃至成熟。爲成熟故。乃令得見。如來身耳。佛子。是爲如來身第十相。諸菩薩摩訶薩。應如是見。以其心無量遍十方故。所行無礙如虛空故。普入法界故。住眞實際故。無生無滅故。等住三世故。永離一切分別故。住盡後際誓願故。嚴淨一切世界故。莊嚴一一佛身故。

爾時。普賢菩薩摩訶薩。欲重明此義。而說頌言。

① 譬如虛空遍十方。若色非色有非有。三世衆生身國土。如是普在無邊際。諸佛眞身亦如是。一切法界無不遍。不可得見不可取。爲化衆生而現形。

② 譬如虛空不可取。普使衆生造衆業。不念我今何所作。云何我作爲誰作。諸佛身業亦如是。普使群生修善法。如來未曾有分別。我今於彼種種作。

③ 譬如日出闇浮提。光明破闇悉無餘。山樹池蓮地衆物。種種品類皆蒙益。諸佛日出亦如是。生長人天衆善行。永除癡闇得智明。恒受尊榮一切樂。

④譬如日光出現時。先照山王次餘山。後照高原及大地。而日未始有分別。善逝光明亦如是。先照菩薩次緣覺。後照聲聞及衆生。而佛本來無動念。

⑤ 譬如生盲不見日。日光亦爲作饒益。令知時節受飲食。永離衆患身安隱。無信衆生不見佛。而佛亦爲興義利。聞名及以觸光明。因此乃至得菩提。

⑥ 譬如淨月在虛空。能蔽衆星示盈缺。一切水中皆現影。諸有觀瞻悉對前。如來淨月亦復然。能蔽餘乘示修短。普現天人淨心水。一切皆謂對其前。

⑦ 譬如梵王住自宮。普現三千諸梵處。一切人天咸得見。實不分身向於彼。諸佛現身亦如是。一切十方無不遍。其身無數不可稱。亦不分身不分別。

⑧ 如有醫王善方術。若有見者病皆愈。命雖已盡藥塗身。令其作務悉如初。最勝醫王亦如是。具足方便一切智。以昔妙行現佛身。衆生見者煩惱滅。

⑨ 譬如海中有寶王。普出無量諸光明。衆生觸者同其色。若有見者眼淸淨。最勝寶王亦如是。觸其光者悉同色。若有得見五眼開。破諸塵闇住佛地。

⑩譬如如意摩尼寶。隨有所求皆滿足。少福衆生不能見。非是寶王有分別。善逝寶王亦如是。悉滿所求諸欲樂。無信衆生不見佛。非是善逝心棄捨。(一切 802-809)」

2-25-b. 『六十華嚴』(卷 34) 寶王如來性起品 T09,616a-618c「云何菩薩摩訶薩。知見如來應供等正覺。此菩薩摩訶薩。知見如來。具足成就。無量功德。何以故。如來應供等正覺。非一法，一行，一身，一刹，化一衆生故。此菩薩摩訶薩。知見如來。具足成就。無量法，無量行，無量身，無量刹，平等敎化一切衆生故。

① 佛子。譬如虛空。一切色處非色處。無處不至。而非至非不至。何以故。虛空無形色故。如來法身。亦復如是，至一切處，一切刹，一切法，一切眾生，而無所至。何以故。諸如來身。非是身故。隨所應化。示現其身。佛子。是爲菩薩摩訶薩。初入勝行門。知見如來。

② 復次。佛子。譬如虛空彌廣。悉能容受。一切眾生。而無染著。如來法身。亦復如是。照一切眾生。世間善根。離世間善根。亦無染著。何以故。如來法身。於一切染著。悉已斷故。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第二勝行。知見如來。

③ 復次。佛子。譬如日出世間。以無量事。饒益眾生。所謂。滅除闇冥。長養一切。山林藥草。百穀卉木。消除冷溼。照空饒益。虛空眾生。照池則能。開敷蓮華。普悉照現。一切色像。世間事業。皆得究竟。何以故。日能普放。無量光故。如來身日。亦復如是。以無量事。普能饒益。一切眾生。所謂。滅惡饒益。長養善法。普照饒益。除滅一切。眾生闇冥。大慈饒益。救護眾生。大悲饒益。度脫一切。正法饒益。長養一切。根力覺意。堅信饒益。除心垢濁。見法饒益。不壞因緣。天眼饒益。悉見眾生。死此生彼。離害饒益。不壞眾生。一切善根。慧光饒益。開敷一切。眾生心華。發心饒益。究竟一切。菩薩所行。何以故。如來身日。普放一切。慧光明故。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第三勝行。知見如來。

④ 復次。佛子。譬如日出。先照一切諸大山王。次照一切大山。次照金剛寶山。然後普照。一切大地。日光不作是念。我當先照。諸大山王。次第乃至。普照大地。但彼山地。有高下故。照有先後。如來應供等正覺。亦復如是。成就無量無邊法界。智慧日輪。常放無量無礙。智慧光明。先照菩薩摩訶薩等。諸大山王。次照緣覺。次照聲聞。次照決定。善根眾生。隨應受化。然後悉照。一切眾生。乃至邪定。爲作未來。饒益因緣。如來智慧。日光不作是念。我當先照菩薩。乃至邪定。但放大智光。普照一切。佛子。譬如日月。出現世間。乃至深山幽谷。無不普照。如來智慧日月。亦復如是。普照一切。無不明了。但眾生希望。善根不同故。如來智光。種種差別。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第四勝行。知見如來。

⑤ 復次。佛子。譬如日出世間。生盲眾生。未曾覩見。何以故。無肉眼故。佛子。此生盲眾生。雖不見日。亦爲日光。之所饒益。因日光故。而得飲食。資生眾具。消除冷溼。令體輕軟。風寒痰[病-丙+(企-止+(套-大))]。諸患悉除。安隱快樂。如來慧日。出現世間。亦復如是。一切邪見犯戒。無智邪命。生盲眾生。未曾覩佛。智慧日光。何以故。無信心眼故。佛子。生盲眾生。雖不見如來。智慧日光。然此眾生。亦爲如來。智慧日光。之所饒益。除滅四大。一切諸苦。身體安樂。斷一切煩惱。毒痛根本。佛子。如來有光。名曰一切功德積聚。復有光明。名普照一切。復有光明。名曰清淨自在普照。復有光明。名出大妙音。復有光明。名普照一切諸語言法。復有光明。名自在除滅一切疑惑。復有光明。名無依普照。復有光明。名智慧自在。除滅一切境界虛妄。復有光明。名分別諸乘。隨其

所應。出大妙音。復有光明。名曰圓滿自在。音聲莊嚴諸刹。悉令眾生。皆得清淨。佛子。如來一一毛孔。放如是等。千種光明。五百光明。普照下方。五百光明。普照上方。菩薩摩訶薩。各於其刹。諸如來所。見此光已。彼諸菩薩。卽時具足清淨。十頭，十眼，十耳，十鼻，十舌，十身，十手，十足，十地，十智。彼諸菩薩。因菩薩行地。所得諸入。皆悉清淨。成就善根。一切種智。聲聞緣覺。皆悉除滅。一切煩惱少智。生盲眾生。身體柔軟。安隱快樂。離垢清淨。調伏諸根。具足成就。四念處法。地獄餓鬼。畜生惡道眾生。眾苦悉除。皆得安樂。身壞命終。生人天中。彼諸眾生。不知不覺。以何因緣。何威神力。來生此閒。彼生盲者。唯作是念。我是梵天。我是梵化。爾時如來。安住普自在三昧。演出八種。如來妙音。告眾生言。汝等眾生。非是梵天。亦非梵化。蒙佛神力故。得生此閒。彼諸眾生。佛神力故。卽識宿命。所經惡道。來生此閒。皆大歡喜。大歡喜已。各持優曇華雲，香雲，娛樂雲，一切衣雲，蓋雲，幢雲，末香雲，妙寶雲，師子幢雲，半月樓閣雲，讚歎莊嚴具雲。詣如來所。奉獻供養。何以故。蒙佛神力。慧眼開明。如來卽授。彼諸眾生。阿耨多羅三藐三菩提記。佛子。當知如來。慧日饒益。生盲眾生。長養具足。成就善根。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第五勝行。知見如來。

⑥　復次。佛子。譬如滿月。有四奇特。未曾有法。何等爲四。映蔽一切。星宿光明。示現增減。於閻浮提。一切淨水。影無不現。一切眾生。有覩見者。皆悉對面。如來法身。亦復如是。有四奇特。未曾有法。何等爲四。映蔽一切。聲聞緣覺。學無學法。功德星宿。隨其所應。示現壽命。修短不同。法身常住。未曾增減。影現一切世界。淨心眾生。菩提器中。隨所聞法。隨解脫地。應受化者。一切皆謂。如來現前。其實法身。無有彼此。究竟佛事。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第六勝行。知見如來。

⑦　復次。佛子。譬如三千大千世界。大梵天王。以少方便。大千世界。一切眾生。各見梵王。現在己前。亦不分身。無種種身。佛子。如來亦復如是。亦不分身。無種種身。於一切眾生。隨所應化。示現其身。未曾生念。示現彼此。若干眾生。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第七勝行。知見如來。

⑧　復次。佛子。譬如大醫王。善知眾藥。對治之法。一切方論。皆悉明練。彼大醫王。閻浮提中。一切藥草。若現其前。悉能識別。彼大醫王。宿善根力。又能明了。諸方論故。悉能療治。一切眾病。彼大醫王。臨命終時。作如是念。我命終後。一切眾生。無所歸依。是故我應。現巧方便。爾時醫王。以藥塗身。呪術自持。令我命終之後。身不乾燥。又不散壞。猶能具足。身四威儀。行住坐臥。行醫王事。療治眾病。與本無異。如來應供等正覺。無上醫王。亦復如是。善能明了。諸對治法。悉能除滅。一切眾生。諸煩惱病。無量億那由他劫。修習善根。究竟般若波羅蜜。到於彼岸。善學方便。藥塗呪持。如來於昔。先善安住。菩薩行地。般若波羅蜜。巧妙方便。藥呪之力。住持壽命。如來以少方便。施作佛事。救護眾生。除滅煩惱。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第八勝行。知見如來。

⑨　復次。佛子。譬如大海。有摩尼寶。名普照明淨藏。此寶光明。觸眾生身。悉同一色。若有見者。眼卽淸淨。隨彼光明。所照之處。雨目佉寶。皆悉遍滿。饒益安樂。無量眾生。如來法身。亦復如是。爲大寶王。功德積聚。大智慧藏。如來有光。名寶身智。若有眾生。觸斯光者。皆悉得與。佛身同色。若有眾生。見斯光者。皆悉逮得。淸淨法眼。若有眾生。觸斯光者。除貧賤苦。尊貴富樂。乃至無上。菩提快樂。佛子。當知如來法身。無有彼此。悉能究竟。一切眾生。而作佛事。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第九勝行。知見如來。

⑩　復次。佛子。譬如大海。有寶名曰。一切世間莊嚴如意摩尼寶王。具足成就。百萬功德。隨彼寶王。所住之處。一切眾生。所有苦患。皆得除滅。隨其所願。悉能充滿。彼摩尼寶王。非少福眾生所能得見。如來法身。摩尼寶王。亦復如是。若有眾生。得聞見者。皆悉除滅生死之苦。若一切眾生。一時專念。欲見如來。皆悉覩見。能令歡喜。所願悉滿。如來法身。非少福眾生之所能見。除佛神力。隨其所應。而示現身。佛子。是爲菩薩摩訶薩。第十勝行。知見如來。菩薩摩訶薩。具足成就。無量淨心。充滿十方。深入法界。住眞實際。無生無滅。三世平等。悉能除滅。一切虛妄。入未來際。正法充滿。一切世間。一切法界。一切佛身。無量莊嚴。

爾時。普賢菩薩摩訶薩。欲重明此義。以偈頌曰。

①　譬如虛空性。無處而不至。十方世界中。一切諸佛刹。色處非色處。一切眾生類。去來今現在。非至非不至。一切諸最勝。淸淨妙法身。無處而不至。充滿諸法界。最勝妙法身。一切莫能見。敎化眾生故。導師爲示現。

②　譬如虛空性。無能執持者。普令諸群生。無礙造眾業。虛空無是念。我今何所作。云何而造作。爲誰而造作。如是諸最勝。因此淨身業。普令群生類。成就白淨法。如來淨法身。饒益無量眾。法身亦無念。我利諸群萌。

③　譬如明淨日。出現閻浮提。除滅一切闇。普照悉無餘。一切眾寶山。大地諸華池。隨事而長養。饒益一切眾。最勝日如是。饒益一切眾。悉令群生類。長養諸善根。成就慧光明。除滅一切闇。覩見諸導師。具足一切樂。

④　譬如日出時。先照大山王。又復次第照。一切諸大山。次照諸小山。及餘高顯處。然後乃普照。世界諸大地。善逝亦如是。淸淨慧日光。先照諸菩薩。功德大山王。爾乃次第照。一切諸緣覺。又復次第照。聲聞學無學。然後次第照。一切諸眾生。法身無是念。我有所照明。

⑤　譬如明淨日。出現於世間。生盲雖不見。而能作饒益。除滅飢渴患。令身柔軟樂。當知明淨日。無所不饒益。佛日亦如是。出現於世間。雖無信心眼。而爲作饒益。或聞如來聲。或觸導師光。爲彼作因緣。究竟成菩提。

⑥　譬如盛滿月。映蔽諸星宿。示現一切眾。有增或有減。一切澄淨水。月影無不現。世間群生類。皆悉對目見。最勝淨滿月。映蔽於二乘。隨其受化者。示現壽修短。影現諸人

天。淨心菩提器。各各皆自謂。我對天人尊。

⑦　譬如大梵王。安住梵天宮。悉於大千界。普現梵王身。具足自在力。變現無量身。無處而不見。其身亦不分。導師亦如是。具足自在力。一切十方刹。普現無量身。不可稱量身。一切莫能見。普應現眾生。而亦不分身。

⑧　譬如大醫王。善知對治法。若有得見者。無病而不除。臨欲命終時。而生如是念。我身終沒後。一切無歸依。以藥塗其身。呪術而自持。令我命終後。如本無變異。如是諸最勝。無上大醫王。善學方便慧。具足一切智。過去無量行。示現淨法身。眾生若見者。除滅煩惱患。

⑨　譬如大海中。摩尼眾寶王。出生無量種。清淨妙光明。眾生觸斯光。皆悉同寶色。若有得覩見。彼開清淨眼。最勝寶如是。普放慧光明。若有觸斯光。悉與佛同色。眾生若見者。具足五淨眼。除滅諸闇冥。安住如來地。

⑩　譬如如意寶。隨滿一切願。若有所求者。皆悉滿其意。寶王不生念。我饒益世間。少功德眾生。不見此寶王。善逝亦如是。令一切願滿。若有求願者。皆悉得滿足。善逝不生念。我利益眾生。其懷惡心者。不覩如來身。(昭和 983-995)」

2-26. 法身の十の特徴について入法界品は次のように記す。

2-26-a. 『八十華嚴』(巻 69) 入法界品 T10,372b「善男子。我得菩薩解脫。名寂靜禪定樂普遊步。普見三世一切諸佛。亦見彼佛清淨國土。道場，眾會，神通，名號，說法，壽命，言音，身相。種種不同。悉皆明覩。而無取著。何以故。知諸如來　① 非去。世趣永滅故。② 非來。體性無生故。③ 非生。法身平等故。④ 非滅。無有生相故。⑤ 非實。住如幻法故。⑥ 非妄。利益眾生故。⑦ 非遷。超過生死故。⑧ 非壞。性常不變故。⑨ 一相。言語悉離故。⑩ 無相。性相本空故。(一切 1126-1127)」

2-26-b. 『六十華嚴』(巻 51) 入法界品 T09,723a「善男子。我已成就。菩薩寂滅定樂精進法門。悉見三世嚴淨佛刹。一切諸佛。及眷屬海。無量無邊。佛神力海。分別了知。佛名號海。轉法輪海。知彼諸佛。壽命無量。音聲微妙。法身清淨。充滿法界。亦不著如來。一切諸相。何以故。① 如來非過去。除滅世間一切取故。② 如來非未來。無所起故。③ 如來非現在。無生身故。④ 如來非滅。離語言道故。⑤ 如來非實。現幻法故。⑥ 如來非虛妄。饒益一切眾生出興世故。⑦ 如來去無所至。滅死此生彼故。⑧ 如來不可壞。法性無壞故。⑨ 如來一性。離語言道故。⑩ 如來無性。究竟法性故。(昭和 1410-1411)」

なお，以上の漢譯『華嚴經』入法界品に譯された內容は，サンスクリット本單獨經典 *Gaṇḍavyūha-sūtra* の次の內容に對應するものである[49]。

49)　梶山雄一 (監修)『さとりへの遍歷 (華嚴經入法界品)』上 (中央公論，1994 年)，387-389 頁。

2-26-c. *Gaṇḍavyūha-sūtra*, 35 Samantagambhīraśrīvimalaprabhā :

ahaṃ khalu kulaputra śāntadhyānasukhasamantavikramasya bodhisattvavimokṣasya lābhinī / tasyā mama kulaputra tryadhvaprāptāḥ sarvatathāgatāścakṣuṣa ābhāsamāgacchanti / teṣāṃ ca tathāgatānāṃ buddhakṣetrapariśuddhimavatarāmi / parṣanmaṇḍalasamudrānapi, anantamadhyasamādhivikurvitasamudrānapi, pūrvayogasamudrānapi, nāmasamudrānapyavatarāmi / teṣāṃ ca tathāgatānāṃ dharmacakrapravartanavimātratāmavatarāmi / tathāgatāyuṣpramāṇanānātvamapi, svarāṅgavimātratāmapi / teṣāṃ ca tathāgatānāmanantadharmadhātuśarīratāmavatarāmi / na ca tāṃstathāgatān bhāvato 'bhiniviśāmi / tatkasya hetoḥ

① agatikā hi te tathāgatāḥ, sarvalokagatiniruddhatvāt /

② anāgatikā hi te tathāgatāḥ, svabhāvāsaṃbhūtatvāt /

③ anutpannā hi te tathāgatāḥ, anutpādadharmatāsamaśarīratvāt /

④ aniruddhā hi te tathāgatāḥ, anutpādalakṣaṇatvāt /

⑤ asatyā hi te tathāgatāḥ, māyāgatadharmadarśanavijñaptyā /

⑥ amṛṣā hi te tathāgatāḥ, sarvajagadarthasamutpannatvāt /

⑦ asaṃkrāntā hi te tathāgatāḥ, cyutyupapattivyativṛttatvāt /

⑧ avinaṣṭā hi te tathāgatāḥ, dharmaprakṛtyavināśadharmatayā /

⑨ ekalakṣaṇā hi te tathāgatāḥ, sarvavākpathasamatikrāntatvāt /

⑩ alakṣaṇā hi te tathāgatāḥ, dharmalakṣaṇasvabhāvaparyavasānatvāt //

第3章，宇宙論の抄，法界（全宇宙空間）の特徴

3-1. 宇宙（法界）は一つあるのみ（1-4-①. 2-9. 3-11-⑤,-⑥.）。

3-1-a. 『八十華嚴』（卷32）十迴向品 T10,172a「如法界無斷。善根迴向。亦復如是。住一切智。永不斷絕。如法界一性。善根迴向。亦復如是。與一切眾生。同一智性。（一切517）」

3-1-b. 『八十華嚴』（卷71）入法界品 T10,388b「我知法界無斷。入於如來不斷智故。我知法界一性。如來一音一切眾生無不了故。（一切1172）」

3-1-c. 『六十華嚴』（卷21）金剛幢菩薩十迴向品 T09,535a「如法界不可斷。得一切智。亦復如是。如法界等一。得一切智。亦復如是。（昭和628）」

3-1-d. 『六十華嚴』（卷53）入法界品 T09,738b「知法界不可壞。究竟如來不可沮壞圓滿智故。知法界一。如來妙音一切眾生無不聞故。（昭和1474）」

3-2. 宇宙は大空（おおぞら）の空間（虛空）のようである（2-14.）。なお，嚴密には虛空

を宇宙と見るべきであるかもしれないが[50]，原典においては以下で見て行くように，法界は無限の空間であり，すべてがそこにおける有り様のように説かれているので，小稿では法界を宇宙（全宇宙空間）と見て情報を整理する。

3-2-a.『八十華嚴』（巻 7）世界成就品 T10,35a「觀察法界如虛空。此乃能知佛行處。（一切 96）」

3-2-b.『六十華嚴』（巻 3）盧舍那佛品 T09,409c「遊心法界如虛空。是人乃知佛境界。（昭和 67）」

3-3. 宇宙は無量すなわち空間的に無限である（1-4-②. 3-11-①,-②,-③,-④.）。

3-3-a.『八十華嚴』（巻 32）十迴向品 T10,172a「如法界無量。善根迴向。亦復如是。所得智慧。終無有量。如法界無邊。善根迴向。亦復如是。見一切佛。無有其邊。如法界無限。善根迴向。亦復如是。詣諸佛刹。無有齊限。如法界無際。善根迴向。亦復如是。於一切世界。修菩薩行。無有涯際。（一切 517）」

3-3-b.『八十華嚴』（巻 71）入法界品 T10,388b「我知法界無量。獲得廣大智光明故。我知法界無邊。見一切佛所知見故。我知法界無限。普入一切諸佛國土。恭敬供養諸如來故。我知法界無畔。普於一切法界海中。示現修行菩薩行故。（一切 1172）」

3-3-c.『六十華嚴』（巻 21）金剛幢菩薩十迴向品 T09,535a「如法界無量。出生智慧。亦復如是。如法界無量。所見諸佛。亦復如是。如法界無量。往諸佛刹。亦復如是。如法界無量。菩薩所行。亦復如是。（昭和 628）」

3-3-d.『六十華嚴』（巻 53）入法界品 T09,738b「知法界無量。智慧無量故。知法界無量無邊。悉見一切諸如來故。知佛法界無量無邊。詣一切刹。恭敬供養一切佛故。知法界無分齊。於一切世界海。行菩薩行故。（昭和 1474）」

3-4. 宇宙は不可壞すなわち時間的に無限である（1-4-③. 3-11-⑩.）。

3-4-a.『八十華嚴』（巻 32）十迴向品 T10,172a「如法界不可失壞。善根迴向。亦復如是。令諸菩薩。永不失壞。諸清淨行。（一切 517-518）」

3-4-b.『八十華嚴』（巻 71）入法界品 T10,388c「我知法界不可壞。一切智善根充滿法界不可壞故。（一切 1172）」

3-4-c.『六十華嚴』（巻 21）金剛幢菩薩十迴向品 T09,535a「如法界不可壞。令一切眾生。得不壞善根。亦復如是。（昭和 629）」

50）『（大品）摩訶般若波羅蜜經』（巻 7）十無品 T08,268a「如虛空邊不可得。中不可得。無邊無中故。但說名虛空。」『大智度論』（巻 52）釋十無品 T25,432a（一切 1272）。

3-4-d. 『六十華嚴』（巻 53）入法界品 T09,738b「知法界不可滅。一切智善根充滿法界。令諸衆生悉清淨故。（昭和 1474）」

3-5. 宇宙は無中邊（無限均質）で，絶對的な中心はない（1-4-④. 3-11-②,-⑨.）。ただし『八十華嚴』による。一方，『六十華嚴』では不明である。

3-5-a. 『八十華嚴』（巻 34）十地品 T10,182b「信出生無中邊佛境界。信隨入如來無量境界。（一切 550）」

3-5-b. 『八十華嚴』（巻 53）離世間品 T10,279a「證無中邊。佛平等地。盡於法界。等虛空界。（一切 844）」

3-5-c. 『八十華嚴』（巻 71）入法界品 T10,388b-c「我知法界無邊。見一切佛所知見故。…我知法界一莊嚴。普賢妙行善莊嚴故。（一切 1172）」

3-5-d. 『六十華嚴』（巻 23）十地品 T09,546b「信諸佛自在神力無量無邊。信諸如來無量行門。（昭和 679）」

3-5-e. 『六十華嚴』（巻 36）離世間品 T09,631b「究竟無量無邊。虛空法界等。如來諸地。（昭和 1049）」

3-5-f. 『六十華嚴』（巻 53）入法界品 T09,738b「知法界無量無邊。悉見一切諸如來故。…知法界一切莊嚴。普賢菩薩行自在莊嚴故。（昭和 1474）」

3-6. 宇宙は清淨である（1-4-⑤. 3-11-⑦.）。それを自性とする。

3-6-a. 『八十華嚴』（巻 32）十迴向品 T10,172a「如法界自性清淨。善根迴向。亦復如是。令一切衆生。究竟清淨。（一切 517）」

3-6-b. 『八十華嚴』（巻 71）入法界品 T10,388bc「我知法界性淨。了如來願普度一切諸衆生故。（一切 1172）」

3-6-c. 『六十華嚴』（巻 21）金剛幢菩薩十迴向品 T09,535a「如法界自然清淨。令一切衆生清淨。亦復如是。（昭和 628）」

3-6-d. 『六十華嚴』（巻 53）入法界品 T09,738b「知法界自然清淨。教化一切衆生滿佛願故。（昭和 1474）」

3-7. 宇宙は須彌山世界の內をも含む（1-4-⑥. 2-15. 3-11-⑧.）。「衆生に遍し」ということからも，そう解釋されよう。

3-7-a. 『八十華嚴』（巻 32）十迴向品 T10,172a「如法界隨順。善根迴向。亦復如是。令一切衆生。悉皆隨順。普賢行願。（一切 517）」

3-7-b. 『八十華嚴』（巻 71）入法界品 T10,388bc「我知法界遍衆生。普賢妙行悉周遍故。

(一切 1172)」

3-7-c. 『六十華嚴』(卷 21) 金剛幢菩薩十迴向品 T09,535a「如法界隨順悉至一切。令一切衆生。行普賢菩薩行。亦復如是。(昭和 628-629)」

3-7-d. 『六十華嚴』(卷 53) 入法界品 T09,738b「知法界遍至衆生。深入普賢菩薩行故。(昭和 1474)」

3-8. 宇宙は空間的に無限である (3-3.)。そして時間的に無限である (3-4.)。さらに清淨という自性あり (3-6.)。したがって，宇宙は全體 (總體) としては實在するとされていたとも解釋されよう (1-4-⑦.)。

3-9. ただし，宇宙の內の三界 (欲界，色界，無色界) におけるものごとは，實在しない。假にあると思われるものがあっても，實のところはそれは我々があると思っているに過ぎない。

3-9-a. 『八十華嚴』(卷 13) 菩薩問明品 T10,68c「佛刹無分別。無憎無有愛。但隨衆生心。如是見有殊。(一切 196)」

3-9-b. 『八十華嚴』(卷 37) 十地品 T10,194a「三界所有。唯是一心。(一切 586)」

3-9-c. 『八十華嚴』(卷 54) 離世間品 T10,288c「知三界唯心。三世唯心。(一切 874)」

3-9-d. 『六十華嚴』(卷 5) 菩薩明難品 T09,429c「佛刹無異相。如來無憎愛。隨彼衆生行。自得如是見。(昭和 161)」

3-9-e. 『六十華嚴』(卷 25) 十地品 T09,558c「三界虛妄。但是心作。(昭和 735)」

3-9-f. 『六十華嚴』(卷 38) 離世間品 T09,642a「解心是三界。心是三世。(昭和 1091)」

3-10. 法界の特徵，その一。ただし，次の十迴向品 (金剛幢菩薩十迴向品) の內容はおそらく入法界品の內容 (3-11.) にもとづくものであろう。① 空間的に無限である。② 空間的に無限である。③ 空間的に無限である。④ 空間的に無限である。⑤ 一つあるのみ。⑥ 一つあるのみ。⑦ 淸淨である。それを自性とする。⑧ 須彌山世界の內をも含む。⑨ 均質である (の意か)。⑩ 時間的に無限である。

3-10-a. 『八十華嚴』(卷 32) 十迴向品 T10,172a「菩薩摩訶薩。復以善根。如是迴向。所謂。① 如法界無量。善根迴向。亦復如是。所得智慧。終無有量。② 如法界無邊。善根迴向。亦復如是。見一切佛。無有其邊。③ 如法界無限。善根迴向。亦復如是。詣諸佛刹。無有齊限。④如法界無際。善根迴向。亦復如是。於一切世界。修菩薩行。無有涯際。⑤ 如法界無斷。善根迴向。亦復如是。住一切智。永不斷絕。⑥ 如法界一性。善根迴向。亦復如是。與一切衆生。同一智性。⑦ 如法界自性淸淨。善根迴向。亦復如是。令一切衆生。

究竟清淨。⑧ 如法界隨順。善根迴向。亦復如是。令一切眾生。悉皆隨順。普賢行願。⑨ 如法界莊嚴。善根迴向。亦復如是。令一切眾生。以普賢行而爲莊嚴。⑩ 如法界不可失壞。善根迴向。亦復如是。令諸菩薩。永不失壞。諸清淨行。(一切 517-518)」

3-10-b. 『六十華嚴』(卷 21) 金剛幢菩薩十迴向品 T09,535a「菩薩摩訶薩。以此善根。如是迴向。① 如法界無量。出生智慧。亦復如是。② 如法界無量。所見諸佛。亦復如是。③ 如法界無量。往諸佛刹。亦復如是。④ 如法界無量。菩薩所行。亦復如是。⑤ 如法界不可斷。得一切智。亦復如是。⑥ 如法界等一。得一切智。亦復如是。⑦ 如法界自然清淨。令一切眾生清淨。亦復如是。⑧ 如法界隨順悉至一切。令一切眾生。行普賢菩薩行。亦復如是。⑨ 如法界莊嚴一切眾生。令一切眾生。得普賢菩薩莊嚴。亦復如是。⑩ 如法界不可壞。令一切眾生。得不壞善根。亦復如是。(昭和 628-629)」

3-11. 法界の特徴，その二 (3-10.)。① 空間的に無限である。② 空間的に無限である。無中邊 (無限均質) で，絶對的な中心はない (1-4-④. 3-11-c.)。③ 空間的に無限である。④ 空間的に無限である。⑤ 一つあるのみ。⑥ 一つあるのみ。⑦ 清淨である。それを自性とする (3-6.)。⑧ 須彌山世界の內をも含む (3-7.)。⑨ 均質である (3-5.)[51]。⑩ 時間的に無限である。

3-11-a. 『八十華嚴』(卷 71) 入法界品 T10,388b-c「善男子。我以如是淨法光明。饒益一切眾生。集善根助道法時。作十種觀察法界。何者爲十。① 所謂我知法界無量。獲得廣大智光明故。② 我知法界無邊。見一切佛所知見故。③ 我知法界無限。普入一切諸佛國土恭敬供養諸如來故。④ 我知法界無畔。普於一切法界海中示現修行菩薩行故。⑤ 我知法界無斷。入於如來不斷智故。⑥ 我知法界一性。如來一音一切眾生無不了故。⑦ 我知法界性淨。了如來願普度一切諸眾生故。⑧ 我知法界遍眾生。普賢妙行悉周遍故。⑨ 我知法界一莊嚴。普賢妙行善莊嚴故。⑩ 我知法界不可壞。一切智善根充滿法界不可壞故。善男子。我作此十種觀察法界。集諸善根辦助道法。了知諸佛廣大威德。深入如來難思境界。(一切 1171-1172)」

3-11-b. 『六十華嚴』(卷 53) 入法界品 T09,738b「佛子。我以如是。智慧光明。淨諸眾生。無量善法。饒益一切。復次佛子。我以十行。觀察法界。隨順法界。攝取法界。何等爲十。① 所謂知法界無量。智慧無量故。② 知法界無量無邊。悉見一切諸如來故。③ 知佛法界無量無邊。詣一切刹。恭敬供養一切佛故。④ 知法界無分齊。於一切世界海。行菩薩行故。⑤ 知法界不可壞。究竟如來不可沮壞圓滿智故。⑥ 知法界一。如來妙音一切眾生無不聞故。

---

51) ただし，『八十華嚴』では「一莊嚴」であるから〈均質〉と解釋されるが，『六十華嚴』では「一切莊嚴」であるから，〈均質〉を意味するかどうか必ずしも明らかではないであろう。

⑦ 知法界自然清淨。教化一切眾生滿佛願故。⑧ 知法界遍至眾生。深入普賢菩薩行故。⑨ 知法界一切莊嚴。普賢菩薩行自在莊嚴故。⑩ 知法界不可滅。一切智善根充滿法界。令諸眾生悉清淨故。佛子。我以此十行觀察法界。增長善根。知佛奇特境界不可思議。(昭和1474)」

なお，以上の漢譯『華嚴經』入法界品に譯された內容は，サンスクリット本單獨經典 *Gaṇḍavyūha-sūtra* の次の內容に對應するものである[52]。

3-11-c. *Gaṇḍavyūha-sūtra*, 39 Sarvanagararakṣāsaṃbhavatejaḥśrīḥ :

sā khalu punar ahaṃ kulaputra evaṃrūpaṃ sarvasattvavijñāpanaṃ dharmālokamukhaṃ pariśodhayamānā kuśalamūlopacayasaṃbhārapratyupasthitāṃ daśabhir ākārair dharmadhātuṃ vyavalokayāmi anugacchāmi prasarāmi / katamair daśabhiḥ /

① yaduta aprameyaṃ dharmadhātum anugacchāmi vipulajñānālokapratilābhena /

② anantamadhyadharmadhātum anugacchāmi sarvatathāgatavikurvitavijñaptaye /

③ aparyantadharmadhātum anugacchāmi sarvabuddhakṣetrākramaṇatathāgatapūjopasthānaparipūraye /

④ asīmāprāptaṃ dharmadhātum avatarāmi sarvalokadhātusamudreṣu bodhisattvacaryāsaṃdarśanatāyai /

⑤ avyavacchinnaṃ dharmadhātum avatarāmi asaṃbhinnatathāgatajñānamaṇḍalāvataraṇatāyai /

⑥ ekotībhāvagataṃ dharmadhātum avatarāmi yathāśayasarvasattvavijñapanatathāgatasvaramaṇḍalāvataraṇatāyai /

⑦ svabhāvavimalaṃ dharmadhātum avatarāmi sarvajagadvinayaniṣṭhāgatapūrvapraṇidhānaniṣṭhāvataraṇatāyai /

⑧ sarvajagatsamatānugataṃ dharmadhātum avatarāmi samantabhadrabodhisattvacaryāprasarapraveśāya /

⑨ ekālaṃkāraṃ sarvadharmadhātum avatarāmi samantabhadrabodhisattvacaryāvikurvitālaṃkārāvataraṇatāyai /

⑩ avināśanaṃ dharmadhātum avatarāmi sarvakuśaladharmadhātuspharaṇaviśuddhyavināśadharmatāyai /

ebhir ahaṃ kulaputra daśabhir ākāraiḥ sarvadharmadhātuṃ vyavalokayāmi anugacchāmi prasarāmi sarvakuśalamūlasaṃbhāropacayāya buddhamāhātmyāvataraṇatāyai acintya-

52) 梶山雄一（監修）『さとりへの遍歷（華嚴經入法界品）』下，69-70 頁。

buddhaviṣayānugamāya //

第 4 章，宇宙論の抄，娑婆世界の外の有り様

4-1. 宇宙のどこかあるところに，種種光明蕊香幢（香幢光明莊嚴）と呼ばれる大きな蓮の花が咲いている。その花托は華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）と呼ばれる。

4-1-a. 『八十華嚴』（卷 8）華藏世界品 T10,39b「此香水海。有大蓮華。名種種光明蕊香幢。華藏莊嚴世界海。住在其中。四方均平。清淨堅固。金剛輪山。周匝圍遶。（一切 110）」

4-1-b. 『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,412b「彼香水海中有大蓮華。名香幢光明莊嚴。持此蓮華藏莊嚴世界海。此世界海邊。有金剛山。周匝圍遶。（昭和 81）」

4-2. 華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）と呼ばれる花托をもつ蓮の花の十方にも，蓮の花が咲いている。それらの花托は，『八十華嚴』によれば，それぞれ ① 東は清淨光蓮華莊嚴，② 南は一切寶月光明莊嚴藏，③ 西は可愛樂寶光明，④ 北は毘琉璃蓮華光圓滿藏，⑤ 東北は閻浮檀金玻璃色幢，⑥ 東南は金莊嚴琉璃光普照，⑦ 西南は日光遍照，⑧ 西北は寶光照耀，⑨ 下方は蓮華香妙德藏，⑩ 上方は摩尼寶照耀莊嚴と呼ばれる。一方，『六十華嚴』によれば，十方の順序に違いが見られ，それぞれ① 東は淨蓮華勝光莊嚴，② 南は衆寶月光莊嚴藏，③ 西は寶光樂，④ 北は琉璃寶光充滿藏，⑤ 東南は閻浮檀玻璃色幢，⑥ 西南は普照莊嚴，⑦ 西北は善光照，⑧ 東北は寶照光明藏，⑨ 下方は蓮華妙香勝藏，⑩ 上方は雜寶光海莊嚴と呼ばれる。

4-2-a. 『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,27a「① 此華藏莊嚴世界海東。次有世界海。名清淨光蓮華莊嚴。…② 此華藏世界海南。次有世界海。名一切寶月光明莊嚴藏。（一切 73-74）」

4-2-b. 『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,27b「③ 此華藏世界海西。次有世界海。名可愛樂寶光明。…④ 此華藏世界海北。次有世界海。名毘琉璃蓮華光圓滿藏。（一切 74-75）」

4-2-c. 『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,27c「⑤ 此華藏世界海東北方。次有世界海。名閻浮檀金玻璃色幢。（一切 75）」

4-2-d. 『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,28a「⑥ 此華藏世界海東南方。次有世界海。名金莊嚴琉璃光普照。…⑦ 此華藏世界海西南方。次有世界海。名日光遍照。（一切 76-77）」

4-2-e. 『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,28b「⑧ 此華藏世界海西北方。次有世界海。名寶光照耀。…⑨ 此華藏世界海下方。次有世界海。名蓮華香妙德藏。（一切 77-78）」

4-2-f. 『八十華嚴』（卷 6）如來現相品 T10,28c「⑩ 此華藏世界海上方。次有世界海。名摩尼寶照耀莊嚴。（一切 78）」

4-2-g. 『六十華嚴』（巻 2）盧舍那佛品 T09,405c「① 蓮華藏莊嚴世界海東。次有世界海。名淨蓮華勝光莊嚴。（昭和 51）」

4-2-h. 『六十華嚴』（巻 2）盧舍那佛品 T09,406a「② 此世界海南。次有世界海。名眾寶月光莊嚴藏。…③ 此世界海西。次有世界海。名寶光樂。（昭和 51-52）」

4-2-i. 『六十華嚴』（巻 2）盧舍那佛品 T09,406b「④ 此世界海北。次有世界海。名琉璃寶光充滿藏。…⑤ 此世界海東南方。次有世界海。名閻浮檀玻璃色幢。（昭和 52-53）」

4-2-j. 『六十華嚴』（巻 2）盧舍那佛品 T09,406c「⑥ 此世界海西南方。次有世界海。名普照莊嚴。…⑦ 此世界海西北方。次有世界海。名善光照。…⑧ 此世界海東北方。次有世界海。名寶照光明藏。（昭和 53-54）」

4-2-k. 『六十華嚴』（巻 3）盧舍那佛品 T09,407a「⑨ 此世界海下方。次有世界海。名蓮華妙香勝藏。…⑩ 此世界海上方。次有世界海。名雜寶光海莊嚴。（昭和 55）」

4-3. 十方のそれぞれの蓮の花の向こうにも，さらに蓮の花が咲いていて，十方にあわせて無數（十億佛刹微塵數すなわち銀河を十億あわせた分量をなす塵の數ほど多く[53]）の蓮の花が咲いている。もし『八十華嚴』により〈宇宙には絶對的な中心はない〉とすれば（1-4-④. 3-5. 3-11-②,-⑨.），華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）と呼ばれる花托をもつ蓮の花は，宇宙に花咲く無數の蓮の花の内のただの一輪に過ぎないことになる。一方，『六十華嚴』によれば，華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）と呼ばれる花托をもつ蓮の花こそ，すべての蓮の花の中心すなわち宇宙の絶對的な中心に位置するものとも解釋が可能である（1-4-④. 1-5. 4-11.）。この點については注意が拂われるべきであろう。

4-3-a. 『八十華嚴』（巻 6）如來現相品 T10,28c「如是等十億佛刹微塵數世界海中。有十億佛刹微塵數菩薩摩訶薩。一一各有世界海微塵數諸菩薩眾。前後圍遶。而來集會。（一切 79）」

4-3-b. 『六十華嚴』（巻 3）盧舍那佛品 T09,407b「如是等十億佛刹塵數世界海中。有十億佛刹微塵數等大菩薩來。（昭和 56）」

4-4. 華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）と呼ばれる花托をもつ蓮の花は，無數（須彌山微塵數）の風の層（風輪）の一番上にある層の上にある水たまり（香水海と呼ばれる）から莖を伸ばしている。

4-4-a. 『八十華嚴』（巻 8）華藏世界品 T10,39a-b「此華藏莊嚴世界海。有須彌山微塵數風

53） 佛刹＝佛國土＝世界＝銀河については，4-15. を參照。

輪所持其最下風輪。名平等住。能持其上。一切寶焰。熾然莊嚴。次上風輪。名出生種種寶莊嚴。能持其上。淨光照耀。摩尼王幢。次上風輪。名寶威德。能持其上。一切寶鈴。次上風輪。名平等焰。能持其上。日光明相。摩尼王輪。次上風輪。名種種普莊嚴。能持其上。光明輪華。次上風輪。名普清淨。能持其上。一切華焰師子座。次上風輪。名聲遍十方。能持其上。一切珠王幢。次上風輪。名一切寶光明。能持其上。一切摩尼王樹華。次上風輪。名速疾普持。能持其上。一切香摩尼須彌雲。次上風輪。名種種宮殿遊行。能持其上。一切寶色香臺雲。諸佛子。彼須彌山微塵數風輪。最在上者。名殊勝威光藏。能持普光摩尼。莊嚴香水海。此香水海。有大蓮華。名種種光明蕊香幢。華藏莊嚴世界海。住在其中。四方均平。清淨堅固。金剛輪山。周匝圍遶。(一切 110)」

4-4-b. 『六十華嚴』(卷 3) 盧舍那佛品 T09,412a-b「有須彌山微塵等風輪。持此蓮華藏莊嚴世界海。最下風輪名曰平等。彼持一切寶光明地。次上風輪名種種寶莊嚴。持清淨光寶地。次上風輪名功德勢。持密寶地。次上風輪名曰寶焰。持日不壞寶地。次上風輪名普莊嚴。持具足寶光明地。次上風輪名離垢清淨平等。持寶華焰地。次上風輪名曰方行。持一切眞珠地。次上風輪名曰一切年。持一切時一日半月一月一年。次上風輪名普持勢。持一切須彌山地。次上風輪名莊嚴光明。能持一切有。如是次上。有須彌山微塵等風輪。最上風輪。名勝藏。持一切香水海。彼香水海中有大蓮華。名香幢光明莊嚴。持此蓮華藏莊嚴世界海。此世界海邊。有金剛山。周匝圍遶。(昭和 81)」

4-5. 華藏莊嚴世界海(蓮華藏莊嚴世界海)と呼ばれる花托は,金剛輪山(金剛山)あるいは大輪圍山(金剛圍山/大斫迦羅山)と呼ばれる花辨に取り圍まれている。

4-5-a. 『八十華嚴』(卷 8) 華藏世界品 T10,39b「華藏莊嚴世界海。住在其中。四方均平。清淨堅固。金剛輪山。周匝圍遶。(一切 110)」

4-5-b. 『八十華嚴』(卷 8) 華藏世界品 T10,39c「此華藏莊嚴世界海。大輪圍山。住日珠王蓮華之上。(一切 111)」

4-5-c. 『八十華嚴』(卷 8) 華藏世界品 T10,40a「此世界海。大輪圍山內。所有大地。一切皆以金剛所成。(一切 112)」

4-5-d. 『六十華嚴』(卷 3) 盧舍那佛品 T09,412b「持此蓮華藏莊嚴世界海。此世界海邊。有金剛山。周匝圍遶。(昭和 81)」

4-5-e. 『六十華嚴』(卷 3) 盧舍那佛品 T09,412c-413a「此蓮華藏世界海。金剛圍山。依蓮華日寶王地住。…以偈頌曰。…莊嚴斫迦羅。寶輪及香輪。(昭和 84)」

4-5-f. 『六十華嚴』(卷 3) 盧舍那佛品 T09,413a「彼大斫迦羅山內。世界海中。有不可破壞摩尼寶王。…以偈頌曰。…其地平正淨圓滿。斫迦羅內不可壞。(昭和 85)」

4-6. 華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）と呼ばれる花托の上面は，大地と呼ばれる。

4-6-a. 『八十華嚴』（卷 8）華藏世界品 T10,40a「此世界海大輪圍山內。所有大地。一切皆以金剛所成。堅固莊嚴。不可沮壞。清淨平坦。無有高下。摩尼爲輪。眾寶爲藏。一切眾生。種種形狀。…而說頌言。其地平坦極清淨。安住堅固無能壞。（一切 112-113）」

4-6-b. 『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,413a「彼大斫迦羅山內世界海中。有不可破壞摩尼寶王。映現一切眾生之身。眾寶蓮華以爲莊嚴大地。…以偈頌曰。其地平正淨圓滿。斫迦羅內不可壞。（昭和 85）」

4-7. その大地には，無數（不可說佛刹微塵數）の穴（これもまた香水海と呼ばれる）がある。

4-7-a. 『八十華嚴』（卷 8）華藏世界品 T10,40b「爾時普賢菩薩。復告大眾言。諸佛子。此世界海大地中。有不可說佛刹微塵數香水海。一切妙寶。莊嚴其底。妙香摩尼。莊嚴其岸。毘盧遮那。摩尼寶王。以爲其網。香水映徹。具眾寶色。充滿其中。（一切 113）」

4-7-b. 『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,413b「彼大地處。有不可說佛刹微塵等香水海。眾寶莊嚴。一切香摩尼寶王。以爲其岸。寶王羅網。彌覆其上。眾寶色水。盈滿其中。（昭和 86-87）」

4-8. それぞれの穴の中には，無數の蓮の花が咲いている。

4-8-a. 『八十華嚴』（卷 8）華藏世界品 T10,40b「香水映徹。具眾寶色。充滿其中。種種寶華。旋布其上。（一切 113-114）」

4-8-b. 『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,413b「眾寶色水。盈滿其中。一切眾華。皆悉開敷。（昭和 87）」

4-9. それぞれの穴には，無數（四天下微塵數）の河が流れ込んでいる。

4-9-a. 『八十華嚴』（卷 8）華藏世界品 T10,40c「一一香水海。各有四天下微塵數香水河。右旋圍遶。（一切 115）」

4-9-b. 『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,413c「一一香水海。有四天下微塵數香水河圍遶。（昭和 88）」

4-10. それぞれの穴の中に生える無數の蓮の花には，一つの花ごとに無數（不可說佛刹微塵數）の種（世界種）ができている[54]。そして，それぞれの種の中には，無數（不可說佛刹

54） あるいは一つの穴に一つの種ができるとも解釋されよう。

微塵數）の銀河（世界）が入っている。なお，以上は『八十華嚴』による。一方，『六十華嚴』の內容は，種（世界性）は穴以外のところにもできると讀めそうであり，ここから內容が不明になっていく。

4-10-a.『八十華嚴』（卷 8）華藏世界品 T10,41c-42a「此不可說佛刹微塵數香水海中。有不可說佛刹微塵數世界種安住。一一世界種。復有不可說佛刹微塵數世界。諸佛子。彼諸世界種。於世界海中。各各依住。各各形狀。各各體性。各各方所。各各趣入。各各莊嚴。各各分齊。各各行列。各各無差別。各各力加持。諸佛子。此世界種。或有依大蓮華海住。或有依無邊色寶華海住。或有依一切眞珠藏寶瓔珞海住。或有依香水海住。或有依一切華海住。或有依摩尼寶網海住。或有依漩流光海住。或有依菩薩寶莊嚴冠海住。或有依種種眾生身海住。或有依一切佛音聲摩尼王海住。如是等。若廣說者。有世界海微塵數。（一切 118-119）」

4-10-b.『六十華嚴』（卷 3）盧舍那佛品 T09,414a-b「（彼大地處。有不可說佛刹微塵等香水海。）…此香水海上。有不可說佛刹微塵數世界性住。或有世界性蓮華上住。或在無量色蓮華上住。或依眞珠寶住。或依諸寶網住。或依種種眾生身住。或依佛摩尼寶王住。（昭和 90-91）」

4-11.『八十華嚴』華藏世界品によれば，大凡次のとおりである。華藏莊嚴世界海と呼ばれる花托の上面の中央にある無邊妙華光と呼ばれる穴には，一切香摩尼王莊嚴と呼ばれる大きな蓮の花が生え，それには普照十方熾然寶光明と呼ばれる種ができている。その種の中には，無數（不可說佛刹微塵數）の銀河があり，層をなしている。たとえば二十層をあげれば，その一番下から十三番目の層にあるのが，我々が住む須彌山世界を含む銀河である娑婆世界（すなわち娑婆）で，その銀河で佛事を主宰する佛陀がヴァイローチャナ（毘盧遮那如來世尊）である（表 1）。一番下の層にある代表的な銀河は，無數（佛刹微塵數）の他の銀河に取り圍まれている。下から二番目の層にある代表的な銀河は，無數の二倍もある他の銀河に取り圍まれている。同様に上に行くほど順に多くの他の銀河に取り圍まれている。したがって，下から十三番目の層にある娑婆世界は，無數の十三倍もある他の銀河に取り圍まれている。一番上の二十番目の層にある代表的な銀河は無數の二十倍もある他の銀河に取り圍まれている。また，それぞれの銀河では，それぞれ一佛がそれぞれの名をもって佛事を主宰する。この點はいわゆる〈一世界一佛〉の原則に關連するものでもあろう（1-5. 2-11. 2-20. 4-15.）。

一方，『六十華嚴』盧舍那佛品は，種（世界性）と銀河（世界）の關係を明らかにしていない。したがって，娑婆世界をはじめ銀河がどこに位置するかよくわからない。文脈からあるいは種の中かとも思われる十二番目の層までは『八十華嚴』と同様なようでもあ

るが，ヴァイローチャナと娑婆世界についての內容が記されているはずの十三番目の層についての內容には，突然の缺落あるいは混亂が見られる（表 1）。それから後は混亂を續け，內容の理解は不可能になる。さらには，二十番目の層までが一つの集まりで，それとその十方にある同樣な集まりをあわせたすべてがヴァイローチャナが常に法輪を轉ずるところであるとする（「如一方。十方亦如是。盧舍那佛常轉法輪處」）。もしそうであれば，ヴァイローチャナはあたかも華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）において佛事を主宰しているようにも解釋されよう。ところが，これに對應する內容は『八十華嚴』には見られない。先に 1-4-④. で〈宇宙には絕對的な中心はない〉とする考え方は『六十華嚴』からは直ちには理解されないと筆者は指摘したが，あるいは『六十華嚴』のこの箇所は，〈宇宙には絕對的な中心はなく，ヴァイローチャナは娑婆世界と呼ばれる一銀河でその名をもって佛事を主宰する〉ことをしめしていた原典の本來の內容を，漢譯時に〈宇宙の絕對的な中心に華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）があり，ヴァイローチャナはそこで佛事を主宰する〉と解釋が可能になるように改めた結果，そのようになったものであるようにも思われる（1-5.）。

ついでながら，『梵網經』に見られる蓮花臺藏世界海についての內容は，『六十華嚴』のこの箇所の內容にもとづいて展開されたものでもあろう[55]。『梵網經』の內容が『六十華嚴』の內容と必ずしも齟齬をきたさない點は讀み落としてはならないであろう。

4-11-a. 『八十華嚴』（卷 8）華藏世界品 T10,42b-43c「此不可說佛刹微塵數香水海。在華藏莊嚴世界海中。如天帝網。分布而住。諸佛子。此最中央香水海。名無邊妙華光。以現一切菩薩形摩尼王幢爲底。出大蓮華。名一切香摩尼王莊嚴。有世界種。而住其上。名普照十方熾然寶光明。以一切莊嚴具爲體。有不可說佛刹微塵數世界。於中布列。① 其最下方有世界。名最勝光遍照。以一切金剛莊嚴光耀輪爲際。依眾寶摩尼華而住。其狀猶如摩尼寶形。一切寶華莊嚴雲。彌覆其上。佛刹微塵數世界。周匝圍遶。種種安住。種種莊嚴。佛號淨眼離垢燈。② 此上過佛刹微塵數世界。有世界。名種種香蓮華妙莊嚴。以一切莊嚴具爲際。依寶蓮華網而住。其狀猶如師子之座。一切寶色珠帳雲。彌覆其上。二佛刹微塵

55) 『梵網經』（卷 1）T24,997c「號爲盧舍那。住蓮花臺藏世界海。其臺周遍有千葉。一葉一世界爲千世界。我化爲千釋迦。據千世界。後就一葉世界。復有百億須彌山，百億日月，百億四天下，百億南閻浮提。百億菩薩釋迦。坐百億菩提樹下。各說汝所問。菩提薩埵心地。其餘九百九十九釋迦。各各現千百億釋迦。亦復如是。千花上佛。是吾化身。千百億釋迦。是千釋迦化身。吾已爲本原。名爲盧舍那佛。」『梵網經』（卷 2）T24,1003c-1004a「我今盧舍那。方坐蓮花臺。周匝千花上。復現千釋迦。一花百億國。一國一釋迦。各坐菩提樹。一時成佛道。」

數世界。周匝圍遶。佛號師子光勝照。③此上過佛刹微塵數世界。有世界。名一切寶莊嚴普照光。以香風輪爲際。依種種寶華瓔珞住。其形八隅。妙光摩尼日輪雲。而覆其上。三佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號淨光智勝幢。④此上過佛刹微塵數世界。有世界。名種種光明華莊嚴。以一切寶王爲際。依眾色金剛尸羅幢海住。其狀猶如摩尼蓮華。以金剛摩尼寶光雲。而覆其上。四佛刹微塵數世界。周匝圍遶純一清淨。佛號金剛光明無量精進力善出現。⑤此上過佛刹微塵數世界。有世界。名普放妙華光。以一切寶鈴莊嚴網爲際。依一切樹林莊嚴寶輪網海住。其形普方。而多有隅角。梵音摩尼王雲。以覆其上。五佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號香光喜力海。⑥此上過佛刹微塵數世界。有世界。名淨妙光明。以寶王莊嚴幢爲際。依金剛宮殿海住。其形四方。摩尼輪髻帳雲。而覆其上。六佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號普光自在幢。⑦此上過佛刹微塵數世界。有世界。名眾華焰莊嚴。以種種華莊嚴爲際。依一切寶色焰海住。其狀猶如樓閣之形。一切寶色衣眞珠欄楯雲。而覆其上。七佛刹微塵數世界。周匝圍遶。純一清淨。佛號歡喜海功德名稱自在光。⑧此上過佛刹微塵數世界。有世界。名出生威力地。以出一切聲摩尼王莊嚴爲際。依種種寶色。蓮華座虛空海住。其狀猶如因陀羅網。以無邊色華網雲。而覆其上。八佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號廣大名稱智海幢。⑨此上過佛刹微塵數世界。有世界。名出妙音聲。以心王摩尼莊嚴輪爲際。依恒出一切妙音聲莊嚴雲摩尼王海住。其狀猶如梵天身形。無量寶莊嚴師子座雲。而覆其上。九佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號淸淨月光明相無能摧伏。⑩此上過佛刹微塵數世界。有世界。名金剛幢。以無邊莊嚴眞珠藏寶瓔珞爲際。依一切莊嚴寶師子座摩尼海住。其狀周圓。十須彌山微塵數一切香摩尼華須彌雲。彌覆其上。十佛刹微塵數世界。周匝圍遶。純一清淨。佛號一切法海最勝王。⑪此上過佛刹微塵數世界。有世界。名恒出現帝青寶光明。以極堅牢不可壞金剛莊嚴爲際。依種種殊異華海住。其狀猶如半月之形。諸天寶帳雲。而覆其上。十一佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號無量功德法。⑫此上過佛刹微塵數世界。有世界。名光明照耀。以普光莊嚴爲際。依華旋香水海住。狀如華旋。種種衣雲。而覆其上。十二佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號超釋梵。⑬此上過佛刹微塵數世界。至此世界。名娑婆。以金剛莊嚴爲際。依種種色風輪所持蓮華網住。狀如虛空。以普圓滿天宮殿莊嚴虛空。而覆其上。十三佛刹微塵數世界。周匝圍遶。其佛卽是毘盧遮那如來世尊。⑭此上過佛刹微塵數世界。有世界。名寂靜離塵光。以一切寶莊嚴爲際。依種種寶衣海住。其狀猶如執金剛形。無邊色金剛雲。而覆其上。十四佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號遍法界勝音。⑮此上過佛刹微塵數世界。有世界。名眾妙光明燈。以一切莊嚴帳爲際。依淨華網海住。其狀猶如卍字之形。摩尼樹香水海雲。而覆其上。十五佛刹微塵數世界。周匝圍遶。純一淸淨。佛號不可摧伏力普照幢。⑯此上過佛刹微塵數世界。有世界。名淸淨光遍照。以無盡寶雲。摩尼王爲際。依種種香焰蓮華海住。其狀猶如龜甲之形。圓光摩尼輪栴檀雲。而覆其上。十六佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號淸淨

日功德眼。⑰ 此上過佛刹微塵數世界。有世界。名寶莊嚴藏。以一切眾生形。摩尼王爲際。依光明藏摩尼王海住。其形八隅。以一切輪圍山寶莊嚴華樹網。彌覆其上。十七佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號無礙智光明遍照十方。⑱ 此上過佛刹微塵數世界。有世界。名離塵。以一切殊妙相莊嚴爲際。依眾妙華師子座海住。狀如珠瓔。以一切寶香摩尼王圓光雲。而覆其上。十八佛刹微塵數世界。周匝圍遶。純一清淨。佛號無量方便最勝幢。⑲ 此上過佛刹微塵數世界。有世界。名清淨光普照。以出無盡寶雲摩尼王爲際。依無量色香焰須彌山海住。其狀猶如寶華旋布。以無邊色光明摩尼王帝青雲。而覆其上。十九佛刹微塵數世界。周匝圍遶。佛號普照法界虛空光。⑳ 此上過佛刹微塵數世界。有世界。名妙寶焰。以普光明日月寶爲際。依一切諸天形摩尼王海住。其狀猶如寶莊嚴具。以一切寶衣幢雲及摩尼燈藏網。而覆其上。二十佛刹微塵數世界。周匝圍遶。純一清淨。佛號福德相光明。(一切 120-124)」

4-11-b. 『六十華嚴』(卷 4) 盧舍那佛品 T09,414b-415a「彼眾香水海中有一香水海。名樂光明。有一切香摩尼寶王莊嚴蓮華。① 上有世界。名清淨寶網光明。佛號離垢淨眼廣入。② 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名雜香蓮華勝妙莊嚴。依寶網住。形如師子座。佛號師子座光明勝照。③ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名寶莊嚴普光明。依諸華住。形如日輪雲。佛號廣大光明智勝。④ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名雜光蓮華。佛號金剛光明普精進善起。⑤ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名無畏嚴淨。佛號平等莊嚴妙音幢王。⑥ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名華開淨焰。佛號愛海功德稱王。⑦ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名總持。佛號淨智慧海。⑧ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名解脫聲。佛號善相幢。⑨ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名勝起。佛號蓮華藏光。⑩ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名善住金剛不可破壞。佛號那羅延不可破壞。⑪ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名華林赤蓮華。佛號雜寶華鬘智王。⑫ 彼世界上。過佛刹塵數世界。有佛國。名淨光勝電如來藏。佛號能起一切所願功德。⑬ 彼世界上。有香水海。名淨光焰起。中有世界性。名善住。⑭ 次上復有香水海。名金剛眼光明。中有世界性。名法界等起。⑮ 次上復有香水海。名蓮華平正。中有世界性。名出十方化身。⑯ 次上復有香水海。名寶地莊嚴光明。中有世界性。名寶枝莊嚴。⑰ 次上復有香水海。名化香焰。中有世界性。名清淨化。⑱ 次上復有香水海。名寶幢。中有世界性。名佛護念。⑲ 次上復有世界性。名眾色普光。⑳ 如是次上。復有世界塵數香水海及世界性。如一方。十方亦如是。盧舍那佛常轉法輪處。(昭和 92-93)」

4-12. 『八十華嚴』華藏世界品は續けて，華藏莊嚴世界海と呼ばれる花托の上面に無數にある他の穴にもそれぞれ同樣に種ができていて，種の中には無數の銀河が入っていることをしめし，種名とその中にある銀河名およびそれぞれの銀河で佛事を主宰する佛陀名

を詳細にあげるが[56]，ここでは省略する。なお，『六十華嚴』には，それらに對應する內容は見られない。

4-13. 種の中にあるそれぞれの銀河の內には，十億の惑星があり，それぞれの惑星には大海があり四つの大陸がある。なお，次の內容によれば，一つの世界の中に十億の閻浮提などがある。また，一つの三千大千世界の中に十億の閻浮提などがある（5-4.）。したがって，世界＝三千大千世界＝銀河である。

4-13-a. 『八十華嚴』（卷 13）光明覺品 T10,62b「爾時世尊。從兩足輪下。放百億光明。照此三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億瞿耶尼。百億鬱單越。百億大海。百億輪圍山。…百億須彌山王。…（一切 178）」

4-13-b. 『八十華嚴』（卷 13）光明覺品 T10,63a「爾時光明過此世界。遍照東方。十佛國土。南西北方。四維上下。亦復如是。彼一一世界中。皆有百億閻浮提。乃至百億色究竟天。其中所有。悉皆明現。（一切 179）」

4-13-c. 『六十華嚴』（卷 5）如來光明覺品 T09,422b「爾時世尊。從兩足相輪。放百億光明。遍照三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億拘伽尼。百億鬱單越。百億大海。百億金剛圍山。…百億須彌山王。…（昭和 126）」

4-13-d. 『六十華嚴』（卷 5）如來光明覺品 T09,423a「爾時光明過此世界。遍照東方十佛國土。南西北方四維上下亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟天。世界所有一切悉現。（昭和 128）」

4-14.「世界」はすなわち「佛國土」でもある。なぜならば，「十世界」は「十佛國土」であるからである。したがって，世界＝三千大千世界＝佛國土＝銀河である。

4-14-a. 『八十華嚴』（卷 13）光明覺品 T10,63a「爾時光明。過此世界。遍照東方。十佛國土。南西北方。四維上下。亦復如是。彼一一世界中。皆有百億閻浮提。乃至百億色究竟天。其中所有。悉皆明現。（一切 179）

4-14-b. 『八十華嚴』（卷 13）光明覺品 T10,63b「爾時光明。過十世界。遍照東方。百世界。南西北方。四維上下。亦復如是。彼諸世界中。皆有百億閻浮提。乃至百億色究竟天。其中所有。悉皆明現。（一切 180）」

4-14-c. 『六十華嚴』（卷 5）如來光明覺品 T09,423a「爾時光明。過此世界。遍照東方。十佛國土。南西北方。四維上下。亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟

56） この點については，次を參照。定方晟『インド宇宙論大全』，259-272 頁。

天。世界所有。一切悉現。(昭和 128)」

4-14-d. 『六十華嚴』(巻 5) 如來光明覺品 T09,423b「爾時光明。過十世界。遍照東方。百世界。乃至上方。亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟天。世界所有。一切悉現。(昭和 130)」

4-15.「世界」はまた「佛刹」でもあるらしい。したがって，世界＝三千大千世界＝佛國土＝佛刹＝銀河となろう。文脈から判斷するに，4-15-a. にいう「一一佛刹中。一佛出興世」は〈一世界（銀河）一佛〉をしめすものでもあろう。すなわち，これも，先で見た『八十華嚴』華藏世界品における一銀河と一佛の關係に對應するものでもあろう（1-5. 2-11. 2-20. 4-11.)。ところが，『六十華嚴』には，これに對應する內容も缺落している。あるいは，この箇所も〈宇宙の絕對的な中心に華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）があり，ヴァイローチャナはそこで佛事を主宰する〉と解釋が可能になるように意圖して，ヴァイローチャナがその名をもって佛事を主宰するところが一銀河のみであると解釋されないようにしたものかもしれない。

4-15-a. 『八十華嚴』(巻 10) 華藏世界品 T10,53a「隨眾生心樂。示現種種相。爲轉妙法輪。悉應其根欲。〈一一佛刹中。一佛出興世。〉經於億千歲。演說無上法。眾生非法器。不能見諸佛。…(一切 149)」

4-15-b. 『六十華嚴』(巻 4) 盧舍那佛品 T09,416b「隨眾生所樂。種種色示現。一切時不壞。轉淸淨法輪。〈 〉若眾生非器。非佛令不見。…(昭和 101)」

4-16. まとめるに，宇宙には無數の蓮の花が咲いている。それぞれの蓮の花の花托の上面には無數の穴がある。それぞれの穴の中には，さらに無數の蓮の花が咲いている。それぞれの蓮の花には無數の種ができている。それぞれの種の中には無數の銀河が入っている。そしてそれらの銀河の內の一つが，宇宙のどこかに位置する，我々が住む須彌山世界を含む，銀河すなわち娑婆世界である。ヴァイローチャナはそこでその名をもって佛事を主宰する。『八十華嚴』によれば，以上のようにも解釋されよう。一方，『六十華嚴』では，〈宇宙の絕對的な中心に華藏莊嚴世界海（蓮華藏莊嚴世界海）があり，ヴァイローチャナはそこで佛事を主宰する〉とも解釋される（1-5.)。この違いは大きいであろう。

4-16-a. 『八十華嚴』(巻 8) 華藏世界品 T10,43a-b「此上過佛刹微塵數世界。至此世界。名娑婆。以金剛莊嚴爲際。依種種色風輪所持蓮華網住。狀如虛空。以普圓滿天宮殿莊嚴虛空。而覆其上。十三佛刹微塵數世界。周匝圍遶。其佛卽是毘盧遮那如來世尊。此上過佛刹微塵數世界。有世界。…(一切 122-123)」

4-17. 原典は，シャカムニ（すなわちヴァイローチャナ）の銀河すなわち娑婆世界よりも，阿彌陀の銀河すなわち極樂世界（安樂世界）のほうがすばらしく思われることをしめしていたようである（1-6.）。けれども，極樂世界よりもすばらしく思われる銀河が宇宙には無數に存在することをも說いていたらしい。したがって，娑婆世界と極樂世界の違いは取るに足らないものと見ていたようにも思われる。なお，2-22. によれば，我々が住む須彌山世界では，ヴァイローチャナはシャカムニとも呼ばれる。一方，4-11-a-⑬. によれば，娑婆世界の佛陀は毘盧遮那如來世尊である。そうであれば，次の如來壽量品（壽命品）の「釋迦牟尼佛刹」は曖昧な表現であり，あるいは「毘盧遮那佛刹（盧舍那佛刹）」とする方がわかりやすいのではなかろうか。あえて「釋迦牟尼佛刹」と說かれた理由については檢討の必要があるかもしれない（2-20.）。

4-17-a. 『八十華嚴』（卷 45）如來壽量品 T10,241a-b。「① 此娑婆世界釋迦牟尼佛刹一劫。於極樂世界阿彌陀佛刹。爲一日一夜。② 極樂世界一劫。於袈裟幢世界金剛堅佛刹。爲一日一夜。③ 袈裟幢世界一劫。於不退轉音聲輪世界善勝光明蓮華開敷佛刹。爲一日一夜。④ 不退轉音聲輪世界一劫。於離垢世界法幢佛刹。爲一日一夜。⑤ 離垢世界一劫。於善燈世界師子佛刹。爲一日一夜。⑥ 善燈世界一劫。於妙光明世界光明藏佛刹。爲一日一夜。⑦ 妙光明世界一劫。於難超過世界法光明蓮華開敷佛刹。爲一日一夜。⑧ 難超過世界一劫。於莊嚴慧世界一切神通光明佛刹。爲一日一夜。⑨ 莊嚴慧世界一劫。於鏡光明世界月智佛刹。爲一日一夜。⑩ 佛子。如是次第。乃至過百萬阿僧祇世界。最後世界一劫。於勝蓮華世界賢勝佛刹。爲一日一夜。普賢菩薩及諸同行大菩薩等。充滿其中。（一切 728-729）」

4-17-b. 『六十華嚴』（卷 29）壽命品 T09,589c「① 如此娑婆世界釋迦牟尼佛刹一劫。於安樂世界阿彌陀佛刹。爲一日一夜。② 安樂世界一劫。於聖服幢世界金剛佛刹。爲一日一夜。③ 聖服幢世界一劫。於不退轉音聲輪世界善樂光明淸淨開敷佛刹。爲一日一夜。④ 不退轉音聲輪世界一劫。於離垢世界法幢佛刹。爲一日一夜。⑤ 離垢世界一劫。於善燈世界師子佛刹。爲一日一夜。⑥ 善燈世界一劫。於善光明世界盧舍那藏佛刹。爲一日一夜。⑦ 善光明世界一劫。於超出世界法光明淸淨開敷蓮華佛刹。爲一日一夜。⑧ 超出世界一劫。於莊嚴慧世界一切明光明佛刹。爲一日一夜。⑨ 莊嚴慧世界一劫。於鏡光明世界覺月佛刹。爲一日一夜。⑩ 佛子。如是次第。乃至百萬阿僧祇世界。最後世界一劫。於勝蓮華世界賢首佛刹。爲一日一夜。普賢菩薩等諸大菩薩。充滿其中。（昭和 873-874）」

4-18. 原典に說かれた「世界海」「世界種（世界性）」「世界」からなる蓮の花が無數に咲き亂れる宇宙の構想は，おそらく次の入法界品に見られる內容を展開させたものでもあろう。

4-18-a. 『八十華嚴』（卷 72）入法界品 T10,392c-393a「善男子。乃往古世。過世界海微塵

數劫。有世界海。名普光明眞金摩尼山。其世界海中。有佛出現。名普照法界智慧山寂靜威德王。善男子。其佛往修菩薩行時。淨彼世界海。其世界海中。有世界微塵數世界種。一一世界種。有世界微塵數世界。一一世界。皆有如來出興於世。一一如來。說世界海微塵數修多羅。一一修多羅。授佛刹微塵數諸菩薩記。現種種神力。說種種法門。度無量眾生。善男子。彼普光明眞金摩尼山世界海中。有世界種。名普莊嚴幢。此世界種中。有世界。名一切寶色普光明。以現一切化佛影摩尼王爲體。形如天城。以現一切如來道場影像摩尼王爲其下際。住一切寶華海上。淨穢相雜。此世界中。有須彌山微塵數四天下。有一四天下。最處其中。名一切寶山幢。其四天下。一一縱廣十萬由旬。一一各有一萬大城。其閻浮提中。有一王都。名堅固妙寶莊嚴雲燈。一萬大城。周匝圍遶。(一切 1184-1185)」

4-18-b. 『六十華嚴』(卷 54) 入法界品 T09,742b-c「佛子。乃往古世。過世界海微塵等劫。有一世界海。名明淨山。彼有如來。出興于世。號智慧法界山諸方寂靜普照王如來應供等正覺。彼佛爲菩薩時。淨彼世界海。彼世界海中。有佛刹微塵等世界性。彼一一世界性中。有世界微塵等佛。出興于世。一一如來。說世界微塵等修多羅。一一修多羅中。授佛刹微塵等諸菩薩記。顯現如來種種神力。無量方便。種種諸乘。敎化眾生。佛子。彼世界海中。有一世界性。名普門莊嚴。彼世界性中。有一世界。名曰一切寶色妙德普照。一切寶華海。以爲莊嚴。眾寶爲體。狀若天城。淸淨嚴飾。普照一切諸佛道場。顯現諸佛變化光明。彼世界中。有須彌山微塵等四天下。彼四天下中。有一四天下。名寶山幢。彼四天下。有閻浮提。縱廣十萬由旬。彼閻浮提內。有十萬大城。彼諸城中。有一王都。名堅固寶莊嚴雲燈。有一萬城。周匝圍遶。(昭和 1492-1493)」

なお，以上の漢譯『華嚴經』入法界品に譯された內容は，サンスクリット本單獨經典 *Gaṇḍavyūha-sūtra* の次の內容に對應するものである[57]。

4-18-c. *Gaṇḍavyūha-sūtra*, 40 Sarvavṛkṣapraphullanasukhasaṃvāsā :

bhūtapūrvaṃ kulaputra atīte 'dhvani lokadhātusamudraparamāṇurajaḥsamānāṃ kalpānāṃ pareṇa parataraṃ maṇikanakaparvataśikharavairocano nāma lokadhātusamudro 'bhūt / tasmin khalu punaḥ kulaputra maṇikanakaparvataśikharavairocanalokadhātusamudre jñānaparvatadharmadhātudikpratapanatejorājo nāma tathāgato 'bhūt / tena khalu punaḥ kulaputra jñānaparvatadharmadhātudikpratapanatejorājonāmnā tathāgatena pūrvaṃ bodhisattvacaryāṃ caratā sa maṇikanakaparvataśikharavairocano lokadhātusamudraḥ pariśodhitaḥ / tasmin lokadhātusamudre pṛthivīparvataparamāṇurajaḥsamalokadhātuprasaranirdeśaḥ / ekaikasmiṃś ca lokadhātuprasare lokadhātuvaṃśaparamāṇura-

57) 梶山雄一（監修）『さとりへの遍歷（華嚴經入法界品）』下，95-97 頁。

jaḥsamā lokadhātunirdeśāḥ / ekaikasmiṃś ca lokavaṃśe lokadhātuparamāṇurajaḥsamāḥ kalpasaṃkhyānirdeśāḥ / ekaikasmiṃś ca kalpe 'neke 'nantarakalpanirdeśāḥ / ekaikasmiṃś cānantarakalpe 'nekalokadhātunānākaraṇanirdeśāḥ / tathāgatotpādā vividhavikurvitanirdeśāḥ / ekaikasmiṃś ca tathāgatotpāde lokadhātuparamāṇurajaḥsamāḥ sūtrāntasaṃprakāśanirdeśāḥ / ekaikasmiṃś ca sūtrānte lokadhātuparamāṇurajaḥsamā bodhisattvavyākaraṇanirdeśāḥ anantamadhyasattvavinayanirdeśā nānāyānanayaiḥ pravartitā nānāvikurvitaprātihāryavinayatāḥ //

tasmin khalu punar maṇikanakaparvataśikharavairocane lokadhātusamudre samantadigabhimukhadvāradhvajavyūho nāma madhyamo lokadhātuvaṃśo 'bhūt / tasmin khalu punaḥ kulaputra samantadigabhimukhadvāradhvajavyūhe madhyame lokadhātuvaṃśe sarvaratnavarṇasamantaprabhāsaśrīr nāma lokadhātur abhūt / sarvatathāgatabodhimaṇḍapratibhāsamaṇirājo lokadhātusaṃdhivyūhaḥ sarvaratnakusumasāgarapratiṣṭhitaḥ sarvatathāgatanirmāṇanirbhāsanidarśanamaṇirājaśarīro devanagarasaṃsthāno viśuddhasaṃkliṣṭaḥ / tasmin punar lokadhātau sumeruparamāṇurajaḥsamāś cāturdvīpakā lokadhātavo 'bhūvan / teṣāṃ ca sumeruparamāṇurajaḥsamānāṃ cāturdvīpakānāṃ sarvaratnaśikharadhvajo nāma madhyamaś cāturdvīpako 'bhūt / tasmin khalu punaḥ sarvaratnaśikharadhvaje cāturdvīpake lokadhātau aprameyayojanaśatasahasrāyām avistārāś catvāro dvīpā abhūvan / ekaikasmiṃś ca dvīpake daśa mahānagarasahasrāṇy abhūvan / tasmiṃś ca khalu punaḥ cāturdvīpake jambudvīpakasya madhye ratnasālavyūhameghapradīpā nāma rājadhāny abhūd daśanagarasahasraparivārā /

また，入法界品には次のような內容も見られる。

4-18-d.『八十華嚴』（卷 71）入法界品 T10,386a「此華藏莊嚴世界海東。過十世界海。有世界海。名一切淨光寶。此世界海中。有世界種。名一切如來願光明音。中有世界。名淸淨光金莊嚴。（一切 1165）」

4-18-e.『八十華嚴』（卷 75）入法界品 T10,407c「亦知毘盧遮那世尊。此華藏世界海中。十方無量。諸世界種。所攝世界。所謂。世界廣博。世界安立。世界輪。世界場。世界差別。世界轉。世界蓮華。世界須彌。世界名號。盡此世界海。一切世界。由毘盧遮那世尊。本願力故。我悉能知。亦能憶念。（一切 1230）」

4-18-f.『六十華嚴』（卷 53）入法界品 T09,736a-b「此蓮華藏莊嚴世界海東。過十世界海。有一世界海。名曰離垢眾寶莊嚴。彼世界海中。有世界性。名一切佛光明願音。彼世界性中。有一世界。名離垢光金色莊嚴。（昭和 1465）」

4-18-g.『六十華嚴』（卷 56）入法界品 T09,756b-c「如此娑婆世界。知十方世界。世界性。世界海。世界輪。世界圓滿。世界分別。世界旋。世界轉。世界蓮華。世界須彌。世界相

中事。亦復如是。盧舍那佛本願力故。我悉深入分別念知。(昭和 1550)」

4-19. 次の兩漢譯『華嚴經』の內容は互いに對應するはずであるが，その世界海，世界性，世界の用例を見るに，譯に明らかなぶれが認められ，そのままでは，それぞれの關係は不明である。したがって，すべての漢譯語が小稿の原則に正確に對應するわけではない。しかしながら，漢譯『華嚴經』を通して讀む場合には，基本的には「はじめに」でしめした原則のように理解しておけばよいであろうと筆者は現在のところ判斷している。

4-19-a. 『八十華嚴』(卷 11) 毘盧遮那品 T10,53c-54a「有世界海。名普門淨光明。此世界海中。有世界。名勝音。依摩尼華網海住。須彌山微塵數世界。而爲眷屬。其形正圓。其地具有。無量莊嚴。三百重，眾寶樹，輪圍山。所共圍遶。一切寶雲。而覆其上。清淨無垢。光明照耀。城邑宮殿。如須彌山。衣服飲食。隨念而至。其劫名曰。種種莊嚴。諸佛子。彼勝音世界中。有香水海。名清淨光明。其海中。有大華須彌山出現。名華焰普莊嚴幢，十寶欄楯周匝圍遶。(一切 152)」

4-19-b. 『六十華嚴』(卷 4) 盧舍那佛品 T09,416b-c「有世界海。名淨光普眼。中有世界性。名勝妙音。依止摩尼華網海住。清淨無穢。有須彌山塵數世界。以爲眷屬。無量寶莊嚴地。有三百重。眾寶圍山。高廣嚴淨。周匝圍遶。其世界性。形如須彌山。天宮莊嚴。以念爲食。彼世界性中。有香水海。名清淨光。彼香海中。有須彌山。名大焰華莊嚴幢。以十種寶欄楯圍遶。(昭和 102)」

第 5 章，宇宙論の抄，娑婆世界の內，三界の諸天層（表 2）

5-1. 娑婆世界は，一つの銀河（世界）である（4-11.)。

5-1-a. 『八十華嚴』(卷 8) 華藏世界品 T10,43a-43b「此上過佛刹微塵數世界。至此世界。名娑婆。以金剛莊嚴爲際。依種種色風輪所持蓮華網住。狀如虛空。以普圓滿天宮殿莊嚴虛空。而覆其上。十三佛刹微塵數世界。周匝圍遶。其佛卽是毘盧遮那如來世尊。此上過佛刹微塵數世界。有世界。…。(一切 122-123)」

5-2. 娑婆世界では，ヴァイローチャナがその名をもって佛事を主宰する（2-20.)。すなわちヴァイローチャナの法身が色身を現す。これは〈一世界一佛〉の原則に關わるものでもあろう。ただし，『八十華嚴』によればそうであるが，『六十華嚴』では對應する內容が缺落している。

5-3. 娑婆世界の內には，十億の須彌山世界（一つの須彌山世界は一つの惑星に相當）がある

表2　三界の諸天・諸天層の名稱

三界	段階	諸天・諸天層梵名	『八十華嚴』における漢譯	『六十華嚴』における漢譯	大凡の意味	獨立天層
無色界 Arūpadhātu		Naivasaṃjñānāsaṃjñāyatana	非有想非無想處／非想非非想天	非有想非無想無色定處／非想非非想天	もはや思うことも思わないこともない天	4
		Akiñcanyāyatana	無所有處	無所有無色定處	心によるものはいずれも實在しないと思う天	3
		Vijñānānantyāyatana	識無邊處	識無色定處	宇宙におけるものごとはすべて心によるものと思う天	2
		Ākāśānantyāyatana	虛空無邊處	虛空無色定處	宇宙は無限であると思う天	1
色界 Rūpadhātu		*Maheśvara*	摩醯首羅天／大自在天	摩醯首羅天	銀河（三千大千世界）の支配者がいる天	18
	第四禪	Akaniṣṭha	色究竟天／阿迦尼吒天	色究竟天／阿迦尼吒天	最高に美しくすばらしい天	17
		Sudarśana	善現天	善見天	より美しい天	16
		Sudṛśa	善見天	善現天	少し美しい天	15
		Atapa	無熱天	不熱天／無熱天	暑くない天	14
		Abṛha	無煩天	不煩天／無煩天	惱まなくてもよい天	13
		Śuddhāvāsa	淨居天	淨居天	第四禪上層の天の總稱	
		Asaṃjñisattva			考えなくてもよい天（『華嚴經』に言及なし）	
		Bṛhatphala	廣果天	密果天／果實天	たいへん豐かな天	12
		Puṇyaprasava	無量廣天	無量密身天	より豐かな天	11
		Anabhraka	少廣天	少密身天	少し豐かな天	10
		（?）梵語不明	廣天	密身天	第四禪下層の天の總稱	
	第三禪	Śubhakṛtsna	遍淨天	遍淨天	たいへん清潔な天	9
		Apramāṇaśubha	無量淨天	無量淨天	より清潔な天	8
		Parīttaśubha	少淨天	少淨天	少し清潔な天	7
		Śubhā	淨天	淨天	第三禪の天の總稱	
	第二禪	Ābhāsvara	光音天	光音天	たいへん明るい天	6
		Apramāṇābha	無量光天	無量光天	より明るい天	5
		Parīttābha	少光天	少光天	少し明るい天	4
		Ābhā	光天	光天	第二禪の總稱	
	初禪	Mahābrahmā	大梵天	大梵天	梵天の大王がいる天	3
		Brahmapāriṣadya	梵衆天	梵眷屬天	梵天の大王の側近がいる天（大王がいる天と同層）	
		Brahmapurohita	梵輔天	梵輔天	大臣クラスの梵天がいる天	2
		Brahmakāyika	梵身天	梵身天	普通の梵天がいる天	1
		Brahmā	梵天	梵天	初禪の天の總稱	
欲界 Kāmadhātu		*Māra*	魔／天魔波旬	魔／天魔波旬	魔性の者がいる天	(?)
	空居	Paranirmitavaśavartin	他化自在天／他化天／自在天	他化自在天	他がなすを樂しむ天	6
		Nirmāṇarati	化樂天	化樂天／化自在天	自らなすを樂しむ天	5
		Tuṣita	兜率陀天／兜率天	兜率天／兜率陀天	滿足できる天	4
		Yāma	須夜摩天／夜摩天	夜摩天	樂しい時が過ごせる天	3
	地居	Trayastriṃśa	三十三天／忉利天	三十三天	帝釋天と三十二天がいる須彌山山頂の天	2
		Caturmahārājakāyika	四天王衆天	四天王	四天王がいる天	1

(5-4.)。

5-3-a. 『八十華嚴』(卷 12) 如來名號品 T10,59b「此娑婆世界。有百億四天下。如來於中。有百億萬。種種名號。令諸眾生。各別知見。(一切 168)」

5-3-b. 『八十華嚴』(卷 13) 光明覺品 T10,62b「爾時世尊。從兩足輪下。放百億光明。照此三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億瞿耶尼。百億鬱單越。百億大海。百億輪圍山。…百億須彌山王。… (一切 178)」

5-3-c. 『六十華嚴』(卷 4) 如來名號品 T09,419c「此娑婆世界。有如是等百億四天下。彼稱如來。亦各不同有百億萬。(昭和 115)」

5-3-d. 『六十華嚴』(卷 5) 如來光明覺品 T09,422b「爾時世尊。從兩足相輪。放百億光明。遍照三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億拘伽尼。百億鬱單越。百億大海。百億金剛圍山。…百億須彌山王。… (昭和 126)」

5-4.「十億」は，漢譯『華嚴經』では「百億」と表記される。「三千大千世界」とは十億の須彌山世界が集まったものを意味すること，および次によれば，そう解釋されよう。

5-4-a. 『佛說兜沙經』(卷 1) T10,446a-b「佛放光明。先從足下出。照一佛界中極明。現十億閻浮利天南。十億大海。十億須彌山。十億遮加恕山。十億弗于逮天東。十億俱耶匿天西。十億鬱單曰天北。十億照頭摩羅天。十億忉利天。十億鹽天。十億兜術天。十億泥摩羅提羅鄰優天。十億波羅蜜和耶拔致天。十億梵天。十億梵迦夷天。十億梵弗還天。十億梵迦產天。十億摩訶梵天。十億盧天。十億波梨陀天。十億盧波摩那天。十億阿會亘羞天。十億波栗羞訶天。十億阿波摩羞天。十億羞訖天。十億權呵天。十億波栗推呵天。十億阿波墮訶天。十億惟于潘天。十億阿惟潘天。十億阿陀波天。十億須[無/足](音武)天。十億呵迦膩吒天。十億阿惟先惟先尼[卄/呵]。如是等各各照見。諸天上人所止處。敢是佛界中。悉皆照明。」

ただし，以上に對應する箇所は，漢譯『華嚴經』においては「百億」と表記される。

5-4-b. 『八十華嚴』(卷 13) 光明覺品 T10,62b「世尊從兩足輪下。放百億光明。照此三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億瞿耶尼。百億鬱單越。百億大海。百億輪圍山。百億菩薩受生。百億菩薩出家。百億如來成正覺。百億如來轉法輪。百億如來入涅槃。百億須彌山王。百億四天王眾天。百億三十三天。百億夜摩天。百億兜率天。百億化樂天。百億他化自在天。百億梵眾天。百億光音天。百億遍淨天。百億廣果天。百億色究竟天。其中所有。悉皆明現。(一切 178)」

5-4-c. 『六十華嚴』(卷 5) 如來光明覺品 T09,422b「世尊從兩足相輪。放百億光明。遍照三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億拘伽尼。百億鬱單越。百億大海。百億金剛圍山。百億菩薩生。百億菩薩出家。百億佛始成正覺。百億如來轉法輪。百億如來般泥

洹。百億須彌山王。百億四天王天。百億三十三天。百億時天。百億兜率陀天。百億化樂天。百億他化樂天。百億梵天。百億光音天。百億遍淨天。百億果實天。百億色究竟天。此世界所有一切悉現。(昭和 126-127)」

次によれば，漢譯『華嚴經』においては「百萬」の次の單位は「千萬」ではなく「一億」である。これは，漢譯の「百億」が實は十億を意味することをしめすものであろう。

5-4-d. 『八十華嚴』(卷 13)光明覺品 T10,65a「爾時光明過百萬世界。遍照東方一億世界。南西北方。四維上下。亦復如是。彼一一世界中。皆有百億閻浮提。乃至百億色究竟天。其中所有。悉皆明現。(一切 185)」

5-4-e. 『六十華嚴』(卷 5) 如來光明覺品 T09,425a「爾時光明過百萬世界。遍照東方一億世界。乃至上方亦復如是。彼一一世界中。百億閻浮提。乃至百億色究竟天。世界所有一切悉現。(昭和 139)」

5-5. 娑婆世界の內は，上から下へ無色界 Arūpa-dhātu，色界 Rūpa-dhātu，欲界 Kāma-dhātu の三界がある。

5-5-a. 『八十華嚴』(卷 38) 十地品 T10,199c「又知欲界，色界，無色界成。知欲界色界無色界壞。知欲界色界無色界小相大相無量相差別相。得如是觀三界差別智。(一切 604)」

5-5-b. 『六十華嚴』(卷 26) 十地品 T09,565a「知欲，色，無色界壞。知欲色無色界成。知欲色無色界成壞。知欲色無色界小相中相無量相。知欲色無色界差別相。如是知三界。(昭和 764)」

5-6. 無色界は，娑婆世界の內に含まれる。ただし，無色界が娑婆世界の外にまで及ぶことはないと言い切れるかどうかは不明である。

5-6-a. 『八十華嚴』(卷 80) 入法界品 T10,440c「爾時善財童子。見普賢菩薩。如是自在。神通境界。身心遍喜。踊躍無量。重觀普賢一一身分。一一毛孔。悉有三千大千世界。風輪水輪。地輪火輪。大海江河。及諸寶山。須彌鐵圍。村營城邑。宮殿園苑。一切地獄。餓鬼畜生。閻羅王界。天龍八部。人與非人。欲界色界。無色界處。日月星宿。風雲雷電。晝夜月時。及以年劫。諸佛出世。菩薩眾會。道場莊嚴。如是等事。悉皆明見。如見此世界，十方所有一切世界悉如是見。(一切 1326)」

5-6-b. 『六十華嚴』(卷 60) 入法界品 T09,784c「爾時善財。見如是等。不可思議。自在神力。見已歡喜。踊躍無量。重觀普賢。一一身分。一一肢節。一一毛孔中。悉見三千大千世界。風輪水輪。火輪地輪。大海寶山。須彌山王。金剛圍山。一切舍宅。諸妙宮殿。眾生等類。一切地獄。餓鬼畜生。閻羅王處。諸天梵王。乃至人非人等。欲界色界。及無色界。一切劫數。諸佛菩薩。教化眾生。如是等事。皆悉顯現。十方一切世界。亦復如是。

（昭和 1665-1666）」

5-7. 娑婆世界の内の諸天最上層には，◇非想非非想天 Naivasaṃjñānāsaṃjñāyatana（もはや思うことも思わないこともない天）とも呼ばれる無色界に屬す天層があるらしい（5-8.）[58]。
5-7-a. 『八十華嚴』（卷 51）如來出現品 T10,272a「如從水際。上至◇非想非非想天。其中所有大千國土。欲色無色。眾生之處。莫不皆依。虛空而起。虛空而住。何以故。虛空普遍故。雖彼虛空。普容三界。而無分別。（一切 822）」
5-7-b. 『六十華嚴』（卷 35）寶王如來性起品 T09,623a「譬如從水輪際。上至◇非想非非想天。一切三千大千世界。依虛空住。謂。無色界眾生處。色界眾生處。欲界眾生處。此三界處。悉依虛空。而彼虛空。無有迫迮。（昭和 1013）

5-8. 無色界には四天層あるらしく，上から下へ次のとおり。◇非有想非無想處／非想非非想天（非有想非無想無色定處／非想非非想天）Naivasaṃjñānāsaṃjñāyatana（もはや思うことも思わないこともない天），◇無所有處（無所有無色定處）Akiñcanyāyatana（心によるものはいずれも實在しないと思う天），◇識無邊處（識無色定處）Vijñānānantyāyatana（宇宙における物事はすべて心によるものと思う天），◇虛空無邊處（虛空無色定處）Ākāśānantyāyatana（宇宙は無限であると思う天）。
5-8-a. 『八十華嚴』（卷 35）十地品 T10,188a「斷樂先除。苦喜憂滅。不苦不樂。捨念清淨。住第四禪。超一切色想。滅有對想。不念種種想。入無邊虛空。住◇虛空無邊處。超一切虛空無邊處。入無邊識。住◇識無邊處。超一切識無邊處。入無少所有。住◇無所有處。超一切無所有處。住◇非有想非無想處。但隨順法故。行而無所樂著。（一切 566-567）」
5-8-b. 『六十華嚴』（卷 24）十地品 T09,552a「斷棄苦樂。憂喜已滅。不苦不樂。行捨念淨。入四禪。是菩薩過一切色相。滅一切有對相。不念一切別異相。故知無邊虛空。卽入◇虛空無色定處。過一切虛空相。知無邊識。卽入◇識無色定處。過一切識相。知無所有。卽入◇無所有無色定處。過一切無所有處。知非有想非無想安隱。卽入◇非有想非無想無色定處。順諸法行。而不樂著。（昭和 704）」

5-9. 無色界のものには，物質（肉體）はないが，形（姿）はあるものもあるらしい。そう思われるのは，無色界の宮殿の情況は書き寫せる（したがって，見える）というからであ

58） ただし，『瑜伽論』は，天層の有無は必ずしも明らかではないことをしめす。『瑜伽師地論』（卷 4）T30,295a「復有超過淨宮。大自在住處。有十地菩薩。由極熏修。第十地故。得生其中。復次無色界。有四處所。或無處所。」

る[59]。また，宮殿があるというからには，無色界の天王も想定されていたかもしれないが，漢譯『華嚴經』からはしられない。一方，無色界の衆生については漢譯に言及があり，原典ではあるいは可見の法身に近いものが想定されていたのかもしれない（2-17.）。

5-9-a.『八十華嚴』（卷 51）如來出現品 T10,272a「如從水際。上至非想非非想天。其中所有大千國土。欲色無色眾生之處。莫不皆依。虛空而起。虛空而住。何以故。虛空普遍故。雖彼虛空。普容三界。而無分別。（一切 822）」

『八十華嚴』（卷 51）如來出現品 T10,272c「如是。若四天下。若大海。若須彌山。若地天宮殿。若欲界空居天宮殿。若色界宮殿。若無色界宮殿。一一書寫。其量悉等。（一切 824）」

5-9-b.『六十華嚴』（卷 35）寶王如來性起品 T09,623a「譬如從水輪際。上至非想非非想天。一切三千大千世界。依虛空住。謂。無色界眾生處。色界眾生處。欲界眾生處。此三界處。悉依虛空。而彼虛空。無有迫迮。（昭和 1013）」

『六十華嚴』（卷 35）寶王如來性起品 T09,624a「四天下等。悉記四天下事。須彌山王等。悉記須彌山王事。地天宮等。悉記地天宮殿中事。欲天宮等。悉記欲界天宮殿中事。色天宮等。悉記色界天宮殿中事。若無色天宮等。悉記無色界天宮殿中事。（昭和 1016）」

5-10. ところが，一つの銀河を支配するのは，無色界の天王ではなく，◎摩醯首羅天 Maheśvara の天王である。いわゆる十地の菩薩の多くが摩醯首羅天の天王すなわち銀河の支配者（三千大千世界の主）になるという。

5-10-a.『八十華嚴』（卷 39）十地品 T10,208b「是名略說菩薩摩訶薩第十法雲地。若廣說者。假使無量阿僧祇劫。亦不能盡。佛子。菩薩住此地。多作◎摩醯首羅天王。（一切 631）」

5-10-b.『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,263c「譬如大雲。降［雨/注］大雨。大千世界。一切眾生。無能知數。若欲算計。徒令發狂。唯大千世界主◎摩醯首羅。以過去所修善根力故。乃至一滴。無不明了。（一切 795）」

5-10-c.『六十華嚴』（卷 27）十地品 T09,574c「是名菩薩摩訶薩第十法雲地。菩薩住是地。多作◎摩醯首羅天王。（昭和 805）」

5-10-d.『六十華嚴』（卷 33）寶王如來性起品 T09,613a「譬如大雲降雨。大千世界一切眾

59）したがって，資料集 II で，筆者は William Edward Soothill and Lewis Hodous の *A Dictionary of Chinese Buddhist Terms* にもとづき無色界 Arūpa-dhātu を Formless Realm としたが，少なくとも原典に關する限り，Materialless Realm とすべきであろう。なお，次は，無色界の宮殿の情況は書き寫せるとする內容を疑問視するが，その內容は兩漢譯『華嚴經』およびチベット譯に見られるものであるから，物質はないが形はあると解釋すれば，必ずしも疑問視する必要はないのではなかろうか。高崎直道（譯）「華嚴經如來性起品」，224 頁，402 頁。

生無能知數。若欲算計令心狂亂。除大千世界主◎摩醯首羅天王。乃至一涕無不知者。以本善根果報力故。(昭和 969)」

5-11. ◎摩醯首羅天の天層は，あるいは色界最上層にあるらしい。その位置は，銀河の内の最上層には無色界の非想非非想天があるらしいので（5-7. 5-8.），無色界の上ではなさそうである。一方，摩醯首羅天の天王は銀河の支配者であるから（5-10.），最上層といい得るところすなわち色界最上層に位置すると想定されていたようにも思われる[60]。ただし，原典は，その位置を必ずしも明らかにはしていなかったらしく，少なくとも漢譯『華嚴經』から位置は確定できない。そのため，後の時代にはその位置について様々な解釋が展開されたようである（5-23.）。

5-12. 摩醯首羅天／大自在天の天層が色界最上層に位置すると想定されていたらしいことをしめす點として，それが◆淨居天 Śuddhāvāsa の天層の最上層あるいはその上に位置するものであるらしいことをしめす次もあげられよう。ただし，原典において，摩醯首羅天の天層がいわゆる第四禪（禪定の第四段階）の天層の一つとされていたかどうかはわからない。一方，『梵網經』は摩醯首羅天の天層が第四禪に屬するものであることを明記する[61]。

5-12-a. 『八十華嚴』（卷 1）世主妙嚴品 T10,4b-5b「復有無量夜叉王。所謂。毘沙門夜叉王。…復有無量諸大龍王。所謂。毘樓博叉龍王。…復有無量鳩槃荼王。所謂。增長鳩槃荼王。…復有無量乾闥婆王。所謂。持國乾闥婆王。…復有無量三十三天王。…復有無量須夜摩天王。…復有不可思議數兜率陀天王。…復有無量化樂天王。…復有無數他化自在天王。…復有不可數大梵天王。…復有無量光音天王。…復有無量遍淨天王。…復有無量◇廣果天王。…復有無數◎大自在天王。(一切 7-10)」

5-12-b. 『八十華嚴』（卷 67）入法界品 T10,363c「或見處座。◆淨居天眾。所共圍遶。◎大自在天子。而爲上首。此比丘尼。爲說法門。名無盡解脫。(一切 1100)」

5-12-c. 『六十華嚴』（卷 1）世間淨眼品 T09,396b-397a「復與無量鳩槃荼王俱。其名曰毘

60) 次に見られる〈淨土は淨居天の上にある〉とする說は，おそらくは原典の內容に關わるものでもあろう。『佛地經論』（卷 1）T26,293c-294a「如是淨土。爲與三界。同一處所。爲各別耶。有義各別。有處說在。淨居天上。有處說在。西方等故。有義同處。淨土周圓。無有邊際。遍法界故。如實義者。實受用土。周遍法界。無處不有。不可說言。離三界處。亦不可說。卽三界處。若隨菩薩。所宜現者。或在色界。淨居天上。或西方等。處所不定。」

61) 『梵網經』（卷 1）T24,997b「爾時釋迦牟尼佛。在第四禪地中摩醯首羅天王宮。」『梵網經』（卷 2）T24,1003c「復至三禪中說十願。復至四禪中摩醯首羅天王宮。說我本源蓮花藏世界盧舍那佛所說心地法門品。」

樓勒王。…復與無量鬼神王俱。其名曰毘沙門王。…復與無量三十三天王俱。…復與無量夜摩天王俱。…復與無量兜率天王俱。…復與不可思議化樂天王俱。…復與無量他化自在天王俱。…復與不可思議大梵天俱。…復與無量光音天子俱。…復與阿僧祇遍淨天俱。…復與無量◇果實天子俱。…復與◎摩醯首羅天等無量◆淨居天俱。(昭和 7-9)」

5-12-d. 『六十華嚴』(巻 50) 入法界品 T09,715b「見處一座。◆淨居天眾。眷屬圍遶。爲說無盡法門。(昭和 1380)」

5-13. 無想天 Asaṃjñisattva と呼ばれる天層を獨立した天層と見なし色界はあわせて十八天層とする佛典があるが[62]，原典は無想天を色界の十八天層から除外し，それに換えて◎摩醯首羅天／大自在天を色界最上層に位置する獨立した一つの天層として加え，色界は十八天層と想定していたとも考えられる[63]。一方，摩醯首羅天の天層は獨立した天層ではなく，色究竟天の天層と同じである可能性もあるかもしれない。ただし，そうであれば，色界は十八天層とすることがむずかしくなり，『大智度論』や『瑜伽師地論』の內容と明らかに齟齬をきたす。したがって，原典は，摩醯首羅天を獨立した一つの天層と見ていた可能性のほうが高いであろう。それゆえ，小稿ではとりあえず一つの假說として，原典は摩醯首羅天を色界最上層に位置する獨立した一つの天層と想定していたと見ておこう。

もし以上の假說が正しければ，管見の限り，原典はそのような內容を有する最初の經典といえそうである。原典より早い時代に成立したと思われる般若經典では同樣な內容はしられない。般若經典は摩醯首羅天ではなく無想天を獨立した一つの天層と見て色界は十八天層としていた（いる）ようである[64]。また，『法華經』では摩醯首羅天の扱いは不明である。一方，『大智度論』および『瑜伽師地論』においては原典と同樣な內容が確認される[65]。なお，兩佛典においても原典と同樣に，摩醯首羅天の天層がいわゆる第四禪の天層の一つであるかどうかはよくわからない。

5-14. 漢譯『華嚴經』には色界および欲界の諸天について，次のような內容が見られる。なお，その分析は 5-15. 以降でおこなう。

5-14-a. 『八十華嚴』(巻 1) 世主妙嚴品 T10,4b-5b「復有無量▼夜叉王。所謂。毘沙門夜

62) 資料集 II，11-14 頁。
63) 資料集 II，54-55 頁，58-59 頁。
64) 資料集 II，18-20 頁。
65) 資料集 II，62-63 頁，78-80 頁。

叉王。…復有無量諸▼大龍王。所謂。毘樓博叉龍王。…復有無量▼鳩槃荼王。所謂。增長鳩槃荼王。…復有無量▼乾闥婆王。所謂。持國乾闥婆王。…復有無量◇三十三天王。…復有無量◇須夜摩天王。…復有不可思議數◇兜率陀天王。…復有無量◇化樂天王。…復有無數◇他化自在天王。…復有不可數◇大梵天王。…復有無量◇光音天王。…復有無量◇遍淨天王。…復有無量◇廣果天王。…復有無數◎大自在天王。(一切 7-10)」

5-14-b. 『八十華嚴』(卷 21) 十無盡藏品 T10,113b「此菩薩聞。◇四天王眾天, ◇三十三天, ◇夜摩天, ◇兜率陀天, ◇化樂天, ◇他化自在天。◆梵天。◇梵身天, ◇梵輔天, ◆梵眾天, ◇大梵天。◆光天, ◇少光天, ◇無量光天, ◇光音天。◆淨天, ◇少淨天, ◇無量淨天, ◇遍淨天。◆廣天, ◇少廣天, ◇無量廣天, ◇廣果天, ◇無煩天, ◇無熱天, ◇善見天, ◇善現天, ◇色究竟天。乃至聞聲聞緣覺。具足功德。(一切 336)」

5-14-c. 『八十華嚴』(卷 22) 昇兜率天宮品 T10,116c-117a「百萬億諸天王。恭敬禮拜。百萬億▼龍王。諦觀無厭。百萬億▼夜叉王。頂上合掌。百萬億▼乾闥婆王。起淨信心。百萬億阿脩羅王。斷憍慢意。百萬億迦樓羅王。口銜繒帶。百萬億緊那羅王。歡喜踊躍。百萬億摩[目*侯]羅伽王。歡喜瞻仰百萬億世主。稽首作禮。百萬億◇忉利天王。瞻仰不瞬。百萬億◇夜摩天王。歡喜讚歎。百萬億◇兜率天王。布身作禮。百萬億◇化樂天王。頭頂禮敬。百萬億◇他化天王。恭敬合掌。百萬億◆梵天王。一心觀察。〈百萬億◎摩醯首羅天王。恭敬供養。百萬億菩薩。發聲讚歎。百萬億天女。專心供養。百萬億同願天。踊躍歡喜。百萬億往昔同住天。妙聲稱讚。〉百萬億◇梵身天。布身敬禮。百萬億◇梵輔天。合掌於頂。百萬億◆梵眾天。圍遶侍衛。百萬億◇大梵天。讚歎稱揚。無量功德。百萬億◆光天。五體投地。百萬億◇少光天。宣揚讚歎佛世難值。百萬億◇無量光天。遙向佛禮。百萬億◇光音天。讚歎如來。甚難得見。百萬億◆淨天。與宮殿俱。而來詣此。百萬億◇少淨天。以淸淨心。稽首作禮。百萬億◇無量淨天。願欲見佛。投身而下。百萬億◇遍淨天。恭敬尊重。親近供養。百萬億◆廣天。念昔善根。百萬億◇少廣天。於如來所。生希有想。百萬億◇無量廣天。決定尊重。生諸善業。百萬億◇廣果天。曲躬恭敬。百萬億◇無煩天。信根堅固。恭敬禮拜。百萬億◇無熱天。合掌念佛。情無厭足。百萬億◇善見天。頭面作禮。百萬億◇善現天。念供養佛。心無懈歇。百萬億◇阿迦尼吒天。恭敬頂禮。〈 〉百萬億種種天。皆大歡喜。發聲讚歎。百萬億諸天。各善思惟。而爲莊嚴。(一切 346)」

5-14-d. 『八十華嚴』(卷 38) 十地品 T10,200a「◇四天王眾, ◇三十三天眾, ◇夜摩天眾, ◇兜率陀天眾, ◇化樂天眾, ◇他化自在天眾, ◇魔眾, ◆梵眾。乃至◇阿迦尼吒天眾中。各隨其類而爲現形。(一切 605)」

5-14-e. 『八十華嚴』(卷 69) 入法界品 T10,374b-c「復於一一諸毛孔中。出無量種眾生身雲。所謂出與◇色究竟天, ◇善現天, ◇善見天, ◇無熱天, ◇無煩天, 相似身雲。出◇少廣, ◇廣果, ◇福生, ◇無雲天, 相似身雲。出◇遍淨, ◇無量淨, ◇少淨天, 相似身

雲。出◇光音，◇無量光，◇少光天，相似身雲。出◇大梵，◇梵輔，◇梵眾天，相似身雲。出◇自在天，◇化樂天，◇兜率陀天，◇須夜摩天，◇忉利天，及其采女，諸天子眾相似身雲。出▼提頭賴吒乾闥婆王，乾闥婆子，乾闥婆女。相似身雲。出▼毘樓勒叉鳩槃茶王，鳩槃茶子，鳩槃茶女。相似身雲。出▼毘樓博叉龍王，龍子，龍女。相似身雲。出▼毘沙門夜叉王，夜叉子，夜叉女。相似身雲。(一切 1133)」

5-14-f. 『六十華嚴』(卷 1) 世間淨眼品 T09,396b-397a「復與無量▼鳩槃茶王俱。其名曰毘樓勒王。…復與無量▼鬼神王俱。其名曰毘沙門王。…復與無量◇三十三天王俱。…復與無量◇夜摩天王俱。…復與無量◇兜率天王俱。…復與不可思議◇化樂天王俱。…復與無量◇他化自在天王俱。…復與不可思議◇大梵天俱。…復與無量◇光音天子俱。…復與阿僧祇◇遍淨天俱。…復與無量◇果實天子俱。…復與◎摩醯首羅天等無量◆淨居天俱。(昭和 7-9)」

5-14-g. 『六十華嚴』(卷 12) 菩薩十無盡藏品 T09,477b「此菩薩聞。◇四天王，◇三十三天，◇夜摩天，◇兜率陀天，◇化樂天，◇他化自在天，◆梵天，◇梵身天，◇梵輔天，◆梵眷屬天，◇大梵天，◆光天，◇少光天，◇無量光天，◇光音天，◆淨天，◇少淨天，◇無量淨天，◇遍淨天，◆密身天，◇少密身天，◇無量密身天，◇密果天，◇不煩天，◇不熱天，◇善現天，◇善見天，◇色究竟天。聞聲聞緣覺。具足功德。(昭和 391)」

5-14-h. 『六十華嚴』(卷 13) 如來昇兜率天宮一切寶殿品 T09,480c-481a「百萬億諸天神王。恭敬禮拜。百萬億▼龍王。一心諦觀而無厭足。百萬億▼夜叉王。合掌敬立。百萬億▼乾闥婆王。一心恭敬。目不暫捨。百萬億阿修羅王。斷除憍慢。敬心侍立。百萬億寶金翅鳥王。口銜繒帶。百萬億緊那羅王。歡喜立侍。百萬億摩[目*侯]羅王。踊躍歡喜。一心諦觀。百萬億婆羅門王。恭敬禮拜。百萬億一切世間諸王。恭敬頂禮。百萬億諸◇釋天王。恭敬尊重。一心觀察。百萬億◇夜摩天王。踊躍歡喜。高聲讚歎。百萬億◇兜率陀天王。恭敬禮拜。百萬億◇化樂天王。恭敬讚歎。百萬億◇他化自在天王。合掌恭敬。一心侍立。百萬億◆梵天王。一心觀察。〈百萬億◎摩醯首羅天王。恭敬讚歎。百萬億菩薩。恭敬讚歎。百萬億天女。恭敬供養。百萬億願天。敬心頂禮。百萬億宿命親近善知識天。妙聲讚歎。〉百萬億◇梵身天。布身敬禮。百萬億◇梵輔天。恭敬頂禮。百萬億◆梵眷屬天。圍遶侍衛。百萬億◇大梵王。讚歎稱揚。無量功德。百萬億◆光天。五體投地。百萬億◇少光天。宣揚讚歎。佛世難值。百萬億◇無量光天。讚歎禮拜。百萬億◇光音天。讚歎如來。難遇難見。百萬億◆淨天。恭敬禮拜。百萬億◇少淨天。恭敬禮拜。百萬億◇無量淨天。樂見佛故。於虛空中。自投來下。百萬億◇遍淨天。合掌敬住。百萬億◆密身天。憶本功德。稱揚讚歎。百萬億◇少密身天。生如來想。一心求見。百萬億◇無量密身天。清淨善業。恭敬禮拜。百萬億◇密果天。布身敬禮。百萬億◇無煩天。得堅固信。恭敬禮拜。百萬億◇無熱天。合掌觀察。心無厭足。百萬億◇善現天。恭敬禮拜。百萬億◇善見天。憶念無量

佛所。恭敬供養。心無厭足。百萬億◇阿迦尼吒天。恭敬禮拜。〈 〉百萬億種種天。皆大歡喜。恭敬讚歎。百萬億諸天。以種種善慧。而莊嚴之。(昭和 404-405)」

5-14-i. 『六十華嚴』(卷 26) 十地品 T09,565b「◇四天王中，◇帝釋中，◇魔中，◆梵天中。示梵天形色。乃至◇阿迦膩吒天中。示阿迦膩吒形色。(昭和 765)」

5-14-j. 『六十華嚴』(卷 52) 入法界品 T09,725c「又於一切毛孔。出無量身雲。所謂◇阿迦尼吒天身雲。◆淨居天身雲。◇善現天身雲。◇不熱天身雲。◇果實天身雲。◇遍淨天身雲。◇無量淨天身雲。◇少淨天身雲。◇淨果天身雲。◇無量淨果天身雲。◇少淨果天身雲。◇光音天身雲。◇無量光音天身雲。◇少光音天身雲。◇大梵天身雲。◇梵輔天身雲。◇梵身天身雲。◇他化自在天王及他化自在天子天女身雲。◇化自在天王及化自在天子天女身雲。◇兜率天王及兜率天子天女身雲。◇夜摩天王及夜摩天子天女身雲。◇三十三天王及三十三天天子天女身雲。▼提頭賴吒天王及一切乾闥婆男女身雲。▼毘樓勒叉天王及一切鳩槃荼男女身雲。▼毘樓博叉天王及一切龍男女身雲。▼毘沙門天王及一切夜叉男女身雲。(昭和 1420-1421)」

5-15. 第四禪上層には，5-14. によれば，五天層あり，上から下に次のとおり（表 2)。色界十八天層の內の第 17 天層から第 13 天層に相當する。◇色究竟天／阿迦尼吒天（色究竟天／阿迦尼吒天）Akaniṣṭha（最高に美しくすばらしい天)，◇善現天（善見天）Sudarśana（より美しい天)，◇善見天（善現天）Sudṛśa（少し美しい天)，◇無熱天（不熱天／無熱天）Atapa（暑くない天)，◇無煩天（不煩天／無煩天）Abṛha（惱まなくてもよい天)。なお，他の佛典（資料集 II）を參照するに，◆淨居天 Śuddhāvāsa は第四禪上層五天の總稱であろう。ただし，原典は◎摩醯首羅天 Maheśvara を淨居天に加えていた可能性もあるかもしれない。

5-16. 無想天 Asaṃjñisattva（考えなくてもよい天）については，漢譯『華嚴經』に言及はない。

5-17. 第四禪下層には，5-14. によれば，三天層あり，上から下へ次のとおり。色界十八天層の內の第 12 天から第 10 天に相當する。◇廣果天（密果天／果實天）Bṛhatphala（たいへん豐かな天)，◇無量廣天（無量密身天）Puṇyaprasava（より豐かな天)，◇少廣天（少密身天）Anabhraka（少し豐かな天)。なお，漢譯には見られる◆廣天（密身天）はおそらく第四禪下層三天の總稱であろう。ただし，漢譯に對應するサンスクリット語は不明である。後考を待ちたい。

5-18. 第三禪には，5-14. によれば，三天層あり，上から下へ次のとおり。色界十八天層

の内の第 9 天から第 7 天に相當する。◇遍淨天 Śubhakṛtsna（たいへん清潔な天），◇無量淨天 Apramāṇaśubha（より清潔な天），◇少淨天 Parīttaśubha（少し清潔な天）。なお，◆淨天 Śubhā は第三禪の三天の總稱であろう。

5-19. 第二禪には，5-14. によれば，三天層あり，上から下へ次のとおり。色界十八天層の内の第 6 天から第 4 天に相當する。◇光音天 Ābhāsvara（たいへん明るい天），◇無量光天 Apramāṇābha（より明るい天），◇少光天 Parīttābha（少し明るい天）。なお，◆光天 Ābhā は第二禪の三天の總稱であろう。

5-20. 初禪には，5-14. によれば，三天層あり，上から下へ次のとおり。色界十八天層の内の第 3 天から第 1 天に相當する。◇大梵天 Mahābrahmā（梵天の大王がいる天），◇梵輔天 Brahmapurohita（大臣クラスの梵天がいる天），◇梵身天 Brahmakāyika（普通の梵天がいる天）。なお，◆梵天 Brahmā は初禪の天の總稱であろう。また，◆梵衆天（梵眷屬天）Brahmapāriṣadya（梵天の大王の側近）は大梵天（梵天の大王）の取り巻きであるから，その天層は大梵天の天層と同層であろう。さらには，5-14-e,-j に見られる梵衆天（梵身天）は Brahmapāriṣadya の譯らしいが，文脈から判斷するに Brahmakāyika と同意であるようにも思われる[66]。あるいは四種の梵天をしめす場合は Brahmapāriṣadya≠Brahmakāyika であったが，三種の梵天をしめす場合は Brahmapāriṣadya＝Brahmakāyika であることもあったらしい。

5-21. 初禪の下，欲界空居の最上部には，5-14-d,-i および次によれば，◇魔 Māra（魔性の者）がいる天層あるいは天處があるらしい[67]。また，天魔波旬 Māra pāpiyas は欲界の主という。あるいは他化自在天と同じか。要檢討。

5-21-a. 『八十華嚴』（卷 58）離世間品 T10,309c「菩薩摩訶薩。住兜率天時。欲界主天魔波旬。爲欲壞亂菩薩業故。眷屬圍遶。詣菩薩所。（一切 941）」

5-21-b. 『六十華嚴』（卷 42）離世間品 T09,665b「菩薩摩訶薩。住兜率天。講說正法時。欲界主天魔波旬。眷屬圍遶。詣菩薩所。壞亂說法。（昭和 1181）」

5-22. 欲界には，5-14. によれば，空居（須彌山上空）の四天層と地居（地上）の二天層

66） サンスクリット本によれば，次のとおり。mahābrahma-brahmapurohita-brahmapārṣada-deva.

67） 資料集作成の時には讀み落としたので，ここに追加する。

とがあり，上から下へ次のとおり。◇他化自在天／他化天／自在天 Paranirmitavaśavartin（他がなすを樂しむ天），◇化樂天（化自在天）Nirmāṇarati（自らなすを樂しむ天），◇兜率陀天／兜率天 Tuṣita（滿足できる天），◇須夜摩天／夜摩天 Yāma（樂しい時が過ごせる天），◇三十三天／忉利天 Trayastriṃśa（帝釋天と三十二天がいる須彌山山頂の天），◇四天王衆天（四天王）Caturmahārājakāyika（四天王がいる天）。なお，四天王については，▼毘沙門は夜叉の王で，▼毘樓博叉は龍の王で，▼增長／毘樓勒叉（毘樓勒）は鳩槃荼の王で，▼持國／提頭賴吒は乾闥婆の王であるという。

5-23. 以上の 5-14-c.『八十華嚴』（卷 22）昇兜率天宮品 T10,116c-117a に見られる「百萬億◎摩醯首羅天王。恭敬供養。百萬億菩薩。發聲讚歎。百萬億天女。專心供養。百萬億同願天。踊躍歡喜。百萬億往昔同住天。妙聲稱讚。」は，「百萬億◇阿迦尼吒天。恭敬頂禮。」と「百萬億種種天。皆大歡喜。」の間に移動させると意味がとおりやすそうである。また，以上の 5-14-h.『六十華嚴』（卷 13）如來昇兜率天宮一切寶殿品 T09,480c-481a に見られる「百萬億◎摩醯首羅天王。恭敬讚歎。百萬億菩薩。恭敬讚歎。百萬億天女。恭敬供養。百萬億願天。敬心頂禮。百萬億宿命親近善知識天。妙聲讚歎。」は，「百萬億◇阿迦尼吒天。恭敬禮拜。」と「百萬億種種天。皆大歡喜恭敬讚歎。」の間に移動させると意味がとおりやすそうである。あるいは，以上の點も，摩醯首羅天の天層の位置についての解釋に關わるものであるかもしれない（5-11.）。要檢討。

5-24. 初地の菩薩の多くは閻浮提王（我々が住む大陸を支配する王）になる。

5-24-a.『八十華嚴』（卷 34）十地品 T10,183b「菩薩摩訶薩。住此初地。多作閻浮提王。（一切 553）」

5-24-b.『六十華嚴』（卷 23）十地品 T09, 547b 菩薩住歡喜地。多作閻浮提王。（昭和 683）

5-25. 第二地の菩薩の多くは轉輪聖王（我々が住む須彌山世界にある四つの大陸を支配する王）になる。

5-25-a.『八十華嚴』（卷 35）十地品 T10,186c「是名略說菩薩摩訶薩第二離垢地。菩薩住此地。多作轉輪聖王。（一切 562）」

5-25-b.『六十華嚴』（卷 24）十地品 T09,550a「是名菩薩摩訶薩第二離垢地。菩薩住是地。多作轉輪聖王。（昭和 696）」

5-26. 第三地の菩薩の多くは三十三天王（釋提桓因／帝釋天すなわち須彌山山頂の王）になる。

5-26-a.『八十華嚴』（卷 35）十地品 T10,188c「是名菩薩第三發光地。菩薩住此地。多作

三十三天王。(一切 569)」

5-26-b. 『六十華嚴』(卷 24) 十地品 T09,552b「是名略說菩薩第三明地。菩薩住是地中。多作釋提桓因。(昭和 706)」

5-27. 第四地の菩薩の多くは須夜摩天王(樂しい時が過ごせる天の王)になる。

5-27-a. 『八十華嚴』(卷 36) 十地品 T10,190c「是名略說菩薩摩訶薩第四焰慧地。菩薩住此地。多作須夜摩天王。(一切 574)」

5-27-b. 『六十華嚴』(卷 24) 十地品 T09,554b「是名略說菩薩第四焰地。菩薩住是地中。多作須夜摩天王。(昭和 715)」

5-28. 第五地の菩薩の多くは兜率陀天王(滿足できる天の王)になる。

5-28-a. 『八十華嚴』(卷 36) 十地品 T10,192c「是名略說菩薩摩訶薩第五難勝地。菩薩住此地。多作兜率陀天王。(一切 581)」

5-28-b. 『六十華嚴』(卷 25) 十地品 T09,556c「是名略說菩薩難勝地。菩薩住是地中。多作兜率陀天王。(昭和 726)」

5-29. 第六地の菩薩の多くは善化天王/善化自在天王(自らなすを樂しむ天の王)になる。

5-29-a. 『八十華嚴』(卷 37) 十地品 T10,195a「是名略說菩薩摩訶薩第六現前地。菩薩住此地。多作善化天王。(一切 589)」

5-29-b. 『六十華嚴』(卷 25) 十地品 T09,559c「是名略說菩薩現前地。菩薩住是地。多作善化自在天王。(昭和 739)」

5-30. 第七地の菩薩の多くは自在天王/他化自在天王(他がなすを樂しむ天の王)になる[68]。

5-30-a. 『八十華嚴』(卷 37) 十地品 T10,198a「是名略說菩薩摩訶薩第七遠行地。菩薩住此地。多作自在天王。(一切 598)」

5-30-b. 『六十華嚴』(卷 25) 十地品 T09,562c「是名略說菩薩摩訶薩遠行地。菩薩住是地。多作他化自在天王。(昭和 753)」

5-31. 第八地の菩薩の多くは千世界(すなわち小千世界)の大梵天王になる。

5-31-a. 『八十華嚴』(卷 38) 十地品 T10,201a「是名略說諸菩薩摩訶薩第八不動地。若廣

---

68) 『大智度論』(卷 29) T25,273b「或有菩薩。得無生法忍。法性生身。在七住地。住五神通。變身如佛。教化眾生。」

說者。經無量劫。不可窮盡。佛子。菩薩摩訶薩。住此地。多作大梵天王。主千世界。(一切 608)」

5-31-b. 『六十華嚴』(卷 26) 十地品 T09,566b「是名略說菩薩不動地。若廣說者。無量億劫所不能盡。菩薩住是地。多作大梵天王。主千世界。(昭和 768)」

5-32. 第九地の菩薩の多くは,『八十華嚴』によれば,二千世界すなわち中千世界の大梵天王になる。一方,『六十華嚴』によれば,三千大千世界(すなわち大千世界)の主になる。北魏の菩提流支の譯『十地經論』は『八十華嚴』と同じである。一方,後秦の鳩摩羅什と佛陀耶舍の共譯『十住經』は『六十華嚴』と同じである。なお,三千大千世界の主であれば,5-34 がしめすところと齟齬をきたすことにもなり得よう。

5-32-a. 『八十華嚴』(卷 38) 十地品 T10,204a「是名略說菩薩摩訶薩第九善慧地。若廣說者。於無量劫。亦不能盡。佛子。菩薩摩訶薩住此地。多作二千世界主,大梵天王。(一切 616-617)」

5-32-b. 『六十華嚴』(卷 26) 十地品 T09,569c「是名略說菩薩善慧地。若廣說者。則無量無邊劫。不可得盡。菩薩住是地。多作大梵王。典領三千大千世界。(昭和 784)」

5-32-c. 『十地經論』(卷 11) T26,193a「是名略說菩薩第九菩薩善慧地。若廣說者。於無量劫。說不可盡。菩薩住此地中。多作大梵天王。得大勢力主二千世界。」

5-32-d. 『十住經』(卷 4) T10,526b「是名略說菩薩摩訶薩第九菩薩妙善地。若廣說。則無量無邊劫。不可得盡。菩薩摩訶薩住是地中。多作大梵王。典領三千大千世界。」

5-33. 第十地の菩薩の多くは摩醯首羅天王になる。

5-33-a. 『八十華嚴』(卷 39) 十地品 T10,208b「是名略說菩薩摩訶薩第十法雲地。若廣說者。假使無量阿僧祇劫。亦不能盡。佛子。菩薩住此地。多作摩醯首羅天王。(一切 631)」

5-33-b. 『六十華嚴』(卷 27) 十地品 T09,574c「是名菩薩摩訶薩第十法雲地。菩薩住是地。多作摩醯首羅天王。(昭和 805)」

5-34. 摩醯首羅天王は三千大千世界の主である。

5-34-a. 『八十華嚴』(卷 50) 如來出現品 T10,263c「譬如大雲。降[雨/注]大雨。大千世界。一切眾生。無能知數。若欲算計。徒令發狂。唯大千世界主,摩醯首羅。以過去所修善根力故。乃至一滴。無不明了。(一切 795)」

5-34-b. 『六十華嚴』(卷 33) 寶王如來性起品 T09,613a「譬如大雲降雨。大千世界一切眾生無能知數。若欲算計令心狂亂。除大千世界主,摩醯首羅天王。乃至一滴無不知者。以本善根果報力故。(昭和 969)」

第 6 章，宇宙論の抄，娑婆世界の內，須彌山世界の有り様

6-1. 我々が住む須彌山世界においては，ヴァイローチャナは時にシャカムニとも呼ばれる。

6-1-a. 『八十華嚴』（卷 12）如來名號品 T10,58c「如來於此四天下中。或名一切義成。或名圓滿月。或名師子吼。或名釋迦牟尼。或名第七仙。或名毘盧遮那。或名瞿曇氏。或名大沙門。或名最勝。或名導師。如是等。其數十千。令諸眾生。各別知見。（一切 166）」

6-1-b. 『六十華嚴』（卷 4）如來名號品 T09,419a「此四天下佛號不同。或稱悉達。或稱滿月。或稱師子吼。或稱釋迦牟尼。或稱神仙。或稱盧舍那。或稱瞿曇。或稱大沙門。或稱最勝。或稱能度。如是等稱佛名號其數一萬。（昭和 113）」

6-2. 須彌山世界には，たとえば，風輪，水輪，火輪，地輪，大海，寶山，須彌山，鐵圍山（金剛圍山），舍宅，宮殿，地獄，餓鬼や畜生や閻羅王のいる處などのほか太陽や月などがある。ただし，以上は，次の入法界品に見られる銀河（三千大千世界）の內についての內容からの判斷である。

6-2-a. 『八十華嚴』（卷 80）入法界品 T10,440c「爾時善財童子。見普賢菩薩。如是自在。神通境界。身心遍喜。踊躍無量。重觀普賢一一身分。一一毛孔。悉有三千大千世界。風輪水輪。地輪火輪。大海江河。及諸寶山。須彌鐵圍。村營城邑。宮殿園苑。一切地獄。餓鬼畜生。閻羅王界。天龍八部。人與非人。欲界色界。無色界處。日月星宿。風雲雷電。晝夜月時。及以年劫。諸佛出世。菩薩眾會。道場莊嚴。如是等事。悉皆明見。如見此世界。十方所有。一切世界。悉如是見。（一切 1326）」

6-2-b. 『六十華嚴』（卷 60）入法界品 T09,784c「爾時善財。見如是等。不可思議。自在神力。見已歡喜。踊躍無量。重觀普賢。一一身分。一一肢節。一一毛孔中。悉見三千大千世界。風輪水輪。火輪地輪。大海寶山。須彌山王。金剛圍山。一切舍宅。諸妙宮殿。眾生等類。一切地獄。餓鬼畜生。閻羅王處。諸天梵王。乃至人非人等。欲界色界。及無色界。一切劫數。諸佛菩薩。教化眾生。如是等事。皆悉顯現。十方一切世界。亦復如是。（昭和 1665-1666）」

6-3. 須彌山の山頂の三十三天／忉利天には，帝釋天 Indra の善見大城 Sudarśana があり，そこには妙勝殿 Vaijayanta と呼ばれる正殿や善法堂 Sudharmā と呼ばれる集會堂がある。

6-3-a. 『八十華嚴』（卷 15）賢首品 T10,79a-b「忉利天中有天鼓…三十三天聞此音。悉共來昇善法堂。…帝釋普應諸天女。九十有二那由他。令彼各各心自謂。天王獨與我娛樂。

如天女中身普應。善法堂內亦如是。能於一念現神通。悉至其前爲說法。(一切 228-229)」

6-3-b. 『八十華嚴』(卷 16) 昇須彌山頂品 T10,80c「爾時世尊。不離一切菩提樹下。而上昇須彌。向帝釋殿。時天帝釋。在妙勝殿前。遙見佛來。卽以神力。莊嚴此殿。置普光明藏師子之座。其座悉以。妙寶所成。(一切 234)」

6-3-c. 『八十華嚴』(卷 60) 入法界品 T10,323b「譬如有人。於大會中。昏睡安寢。忽然夢見。須彌山頂。帝釋所住。善見大城。宮殿園林。種種嚴好。天子天女。百千萬億。普散天華。遍滿其地。種種衣樹。出妙衣服。種種華樹。開敷妙華。(一切 979)」

6-3-d. 『八十華嚴』(卷 80) 入法界品 T10,444b「或爲忉利大天王。住善法堂歡喜園。首戴華冠說妙法。諸天覲仰莫能測。(一切 1336)」

6-3-e. 『六十華嚴』(卷 7) 賢首菩薩品 T09,440a「三十三天聞此音。一切來集善法堂。…帝釋普應諸天女。九十有二那由他。天女各各心自謂。天王獨與我娛樂。現身集在善法堂。爲天說法令歡喜。(昭和 219-220)」

6-3-f. 『六十華嚴』(卷 7) 佛昇須彌頂品 T09,441b「爾時世尊。威神力故。不起此座。昇須彌頂。向帝釋殿。爾時帝釋。遙見佛來。卽於妙勝殿上。敷置眾寶。師子之座。(昭和 227)」

6-3-g. 『六十華嚴』(卷 44) 入法界品 T09,680a「譬如有人。於大會中。昏寢夢見。諸天城郭。帝釋宮殿。園觀林流。眾寶莊嚴。散諸雜華。寶樹行列。妙衣覆上。諸天男女。遊戲其中。(昭和 1241)」

6-3-h. 六十華嚴 (卷 60) 入法界品 T09,787c「或現爲帝釋。安住善法堂。諸天眾圍遶。彼演說法。(昭和 1679)」

6-4. 須彌山の高さは,『八十華嚴』によれば,八萬四千由旬である (6-10.)。羅睺阿脩羅王の化身は十六萬八千由旬あるが,その半分は須彌山の高さに等しいという。一方,『六十華嚴』には對應する內容は見られない。なお,玄奘の『大唐西域記』によれば,一由旬は十六里 (唐の大尺でなら約 8.5 キロ) とする說などがあるという[69]。

---

69) 『大唐西域記』(卷 2) T51,875c「夫數量之稱。謂踰繕那 (舊曰由旬。又曰踰闍那。又曰由延。皆訛略也)。踰繕那者。自古聖王一日軍行也。舊傳。一踰繕那。四十里矣。印度國俗。乃三十里。聖敎所載。唯十六里。窮微之數。分一踰繕那。爲八拘盧舍。拘盧舍者。謂大牛鳴。聲所極聞。稱拘盧舍。分一拘盧舍爲五百弓。分一弓爲四肘。分一肘爲二十四指。…」『阿毘達磨大毘婆沙論』(卷 136) T27,702a「二十四指節成一肘。四肘爲一弓。去村五百弓。名阿練若處。從此已去。名邊遠處。則五百弓。成摩揭陀國一俱盧舍。成北方半俱盧舍。所以者何。摩揭陀國。其地平正。去村雖近。而不聞聲。北方高下。遠猶聲及。是故北方。俱盧舍大。八俱盧舍。成一踰繕那。贍部洲人。身長三肘半。或有過者。」次を參照。塚本善隆 (編代表)『望月佛敎大辭典』5 (世界聖典刊行協會, 1963 年), 4926 頁,「由旬」。

6-4-a.『八十華嚴』（卷 40）十定品 T10,213b-c「如羅睺阿脩羅王。本身長七百由旬。化形長十六萬八千由旬。於大海中。出其半身。與須彌山。而正齊等。（一切 645）」

6-5. 須彌山の平面は，諸佛典によれば[70]，正方形らしいが，漢譯『華嚴經』では不明である。

6-6. 須彌山の斷面は，諸佛典によれば，① 正方形，② 鼓形（中腰細），③ 上邊が短い臺形（上狹下廣），④ 上邊が長い臺形（上廣下狹）であるとする四説があるが，漢譯『華嚴經』からはわからない。なお，『八十華嚴』の次の內容はあるいは蓮華のようである可能性をしめす。ただし，我々が住む須彌山世界の須彌山もそうであるか否かは不明である。
6-6-a.『八十華嚴』（卷 11）毘盧遮那品 T10,53c-54a「彼勝音世界中。有香水海。名清淨光明。其海中。有大華須彌山出現。名華焰普莊嚴幢。十寶欄楯周匝圍遶。（一切 152）」

6-7. 須彌山の山頂には，『八十華嚴』によれば，四つの峰があるらしい。一方，『六十華嚴』には對應する內容は見られない。
6-7-a.『八十華嚴』（卷 43）十定品 T10,227c「譬如須彌山王。以四寶峰。處於大海。迥然高出。而得其名。終無有時。捨離四峰。（一切 690）」

6-8. 須彌山には，三層あるいは四層の張り出しがあることをしめす佛典があるが，漢譯『華嚴經』では不明である。

6-9. 須彌山の中腹あるいは須彌山を取り圍む山脈の內の最も內側の山脈に，四天王の居所（四天王衆天 Caturmahārājakāyika）があることをしめす佛典があるが，漢譯『華嚴經』からはわからない。

6-10. 太陽と月は，閻浮提の上空を通り，その高度は須彌山の半分に等しいことをしめす佛典があるが，『八十華嚴』は，須彌山の高度は八萬四千由旬で（6-4.），太陽と月の高度は四萬由旬であるとする。この點は，原典が尺度を異にする複數の單獨經典の內容を採用したためでもあるかもしれない。具體的には，十定品と入法界品にはもとづく尺度に違いがあるらしい。一方，『六十華嚴』では，太陽と月の高度は四萬由旬とされるが，

70） 第 6 章の內容に關連する他の佛典の內容については，資料集 I および次を參照。拙稿「須彌山世界に關する諸說と東大寺大佛蓮辨須彌山圖について」。

十定品に相當する品が存在しないので，須彌山の高度についてはしられない。

6-10-a. 『八十華嚴』（卷 40）十定品 T10,214a「譬如日出。遶須彌山。（一切 646）」

6-10-b. 『八十華嚴』（卷 78）入法界品 T10,432a「如有寶珠。名自在王。處閻浮洲。去日月輪。四萬由旬。日月宮中。所有莊嚴。其珠影現。悉皆具足。（一切 1299-1300）」

6-10-c. 『六十華嚴』（卷 59）入法界品 T09,778a「譬如離垢大摩尼寶。處閻浮提。能照四萬由旬。日月宮殿。皆悉顯現。（昭和 1639）」

6-11. 須彌山は，『八十華嚴』によれば，少なくとも七つの山脈に取り圍まれているようである。一方，『六十華嚴』には對應する內容は見られない。

6-11-a. 『八十華嚴』（卷 40）十定品 T10,214a「譬如日出。遶須彌山。照七寶山。其七寶山。及寶山間。皆有光影。分明顯現。其寶山上。所有日影。莫不顯現。山間影中。其七山間。所有日影。亦悉顯現。山上影中。（一切 646）」

6-11-b. 『八十華嚴』（卷 42）十定品 T10,219a-b「無生法中入。妙高山中起。妙高山中入。七寶山中起。七寶山中入。一切地種種。稼穡樹林。黑山中起。…小千世界。眾生眾中入。中千世界。眾生眾中起。中千世界。眾生眾中入。大千世界。眾生眾中起。（一切 663）」

6-12. 須彌山は，さらに鐵圍山（金剛圍山）および大鐵圍山（大金剛圍山）に取り圍まれているらしい。

6-12-a. 『八十華嚴』（卷 47）佛不思議法品 T10,249a「以一切法界。諸世界中。須彌山王。及鐵圍山。大鐵圍山。大海山林。宮殿屋宅。（一切 752）」

6-12-b. 『八十華嚴』（卷 51）如來出現品 T10,272b「譬如三千大千世界。劫火起時。焚燒一切。草木叢林。乃至鐵圍大鐵圍山。皆悉熾然無有遺餘。（一切 823）」

6-12-c. 『六十華嚴』（卷 31）佛不思議法品 T09,598a「一切法界等世界中。須彌山王。金剛圍山。大金剛圍山。一切大海。一切諸山。及一切眾生。（昭和 907）」

6-12-d. 『六十華嚴』（卷 31）佛不思議法品 T09,599a「須彌山王寶山。小金剛圍山。大金剛圍山。（昭和 911）」

6-12-e. 『六十華嚴』（卷 33）寶王如來性起品 T09,613b「又風輪起。名不可壞。能成大小圍山。及金剛山。（昭和 971）」

6-13. 須彌山と鐵圍山／輪圍山（金剛圍山）の間には，四大洲（四つの大陸）があるようである。

6-13-a. 『八十華嚴』（卷 13）光明覺品 T10,62b「爾時世尊。從兩足輪下。放百億光明。照此三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億瞿耶尼。百億欝單越。百億大海。百億

輪圍山。(一切 178)」

6-13-b. 『六十華嚴』(卷 5) 如來光明覺品 T09,422b「爾時世尊。從兩足相輪。放百億光明。遍照三千大千世界。百億閻浮提。百億弗婆提。百億拘伽尼。百億欝單越。百億大海。百億金剛圍山。(昭和 126-127)」

6-14. 須彌山と四大洲の間には，あるいは七つの山脈があるらしい。

たとえば，唐の玄奘 (600/602-664) の譯『倶舍論 (阿毘達磨倶舍論)』は，須彌山と四大洲の內に七つの山脈があることを明記し，須彌山から外へ向かって次のように排列する。なお，七つの山脈は，次の②から⑧に相當する。① 蘇迷盧 (須彌山) Sumeru，② 踰健達羅 (持雙) Yugandhara，③ 伊沙陀羅山 (伊沙馱羅山／持軸) Īśādhara，④ 揭地洛迦山 (竭地洛迦山／檐木山) Khadiraka，⑤ 蘇達梨舍那 (善見) Sudarśana，⑥ 頞濕縛羯拏 (馬耳) Aśvakarṇa，⑦ 毘那怛迦山 (象鼻) Vinitaka，⑧ 尼民達羅山 (持邊山) Nimindhara，そして四大洲，そして ⑨ 鐵輪圍山 Cakravāḍa。

一方，漢譯『華嚴經』には，次の十山があげられている。① 雪山 Himavān，② 香山 Gandhamādana，③ 鞞陀梨山 (軻梨羅山／馱羅／毘陀／持軸) Īśādhara，④ 神仙山 (仙聖山／蘇迷梨舍那／善見) Sudarśana，⑤ 由乾陀山 (持雙) Yugandhara，⑥ 馬耳山 (頞濕縛羯拏) Aśvakarṇa，⑦ 尼民陀羅山 (魚嘴) Nimindhara，⑧ 斫羯羅山 (斫迦羅山) Cakravāḍa，⑨ 計都末底山 (宿慧山／揭地落迦／衆相山) Khadiraka，⑩ 須彌山 Sumeru。

6-14-a. 『八十華嚴』(卷 39) 十地品 T10,208c-209a「如因大地。有十山王。何等爲十。所謂 ① 雪山王。② 香山王。③ 鞞陀梨山王。④ 神仙山王。⑤ 由乾陀山王。⑥ 馬耳山王。⑦ 尼民陀羅山王。⑧ 斫羯羅山王。⑨ 計都末底山王。⑩ 須彌盧山王。…此十寶山王。同在大海。差別得名。(一切 631-633)」

6-14-b. 『六十華嚴』(卷 27) 十地品 T09,574c-575a「如因大地。有十大山王。何等爲十。所謂 ① 雪山王。② 香山王。③ 軻梨羅山王。④ 仙聖山王。⑤ 由乾陀山王。⑥ 馬耳山王。⑦ 尼民陀羅山王。⑧ 斫迦羅山王。⑨ 宿慧山王。⑩ 須彌山王。…是十寶山。同在大海。因大海水。有差別相。(昭和 806)」

思うに，『華嚴經』では，『倶舍論』にいう⑦毘那怛迦山 (象鼻) Vinitaka があげられていない。もし『倶舍論』のそれをもって四大洲の外に位置するらしい『華嚴經』がいう⑧斫羯羅山 (斫迦羅山) Cakravāḍa と置き換え，⑩須彌山 Sumeru および閻浮提に位置すると思われる①雪山 Himavān と②香山 Gandhamādana を除けば，須彌山と四大洲の間に位置する山脈は七つと解釋することも可能である。なお，以上の『華嚴經』が譯す十山については，唐の澄觀 (738-839) による次を參照。

6-14-c. 『大方廣佛華嚴經隨疏演義鈔』(卷 36) T36,275c-276a「謂七金山。七重圍繞者。

俱舍世間品偈云。① 蘇迷盧處中〈蘇卽妙也。迷盧高也〉。次　② 踰健達羅〈此云持雙。以山頂有二道。脊山能持。此故以爲名〉。③ 伊沙馱羅山〈此云持軸。山峰上聳。猶如車軸。山頂持故〉。④ 竭地洛迦山〈俱舍疏云。此卽西方樹名。大疏但依狀翻。不出其名。頌疏云。此方亦有。名檐木山。山上寶樹。形似彼故〉。⑤ 蘇達梨舍那〈此云善見。見者稱善〉。⑥ 頞濕縛竭拏〈此云馬耳。山形似彼故〉。⑦ 毘那怛迦山〈此云象鼻。山形似故〉。⑧ 尼民達羅山〈俱舍疏云。魚名其魚觜尖。山形似故。華嚴音義釋此云。云持邊山也〉。於大洲等外。有　⑨ 鐵輪圍山。前七金所成。蘇迷盧四寶。入水皆八萬。妙高出亦然。餘八半半減。廣皆等高量。」

6-14-d. 『大方廣佛華嚴經隨疏演義鈔』（卷 73）T36,579a「然此十山。與俱舍論。多同小異。彼偈云。① 蘇迷盧處中。次② 踰健達羅。③ 伊沙陀羅山。④ 揭地洛迦山。⑤ 蘇達梨舍那。⑥ 頞濕縛羯拏。⑦ 毘那怛迦山。⑧ 尼民達羅山。於大洲等外。有⑨鐵輪圍山。前七金所成。蘇迷盧四寶。釋於梵名。如昇須彌山頂品。然須彌處中。次七金繞輪圍。第九今有。十山爲次。又別爲順十地。所出異故。① 一雪　② 二香。俱舍九中所無。③ 三鞞陀梨陀梨。亦云馱羅。下偈復云毘陀。則正當第三伊沙陀羅。此云持軸。與種種持義亦大同。④ 四神仙。應是第五蘇迷梨舍那。此云善見。以仙居故。⑤ 五由乾陀羅。卽第二持雙。⑥ 六馬耳。全同第六頞濕縛羯拏。⑦ 七尼民陀羅。全同第八。彼卻無翻。但約形名爲魚嘴。⑧ 八斫羯羅。同彼第九。⑨ 九計都末底。義同揭地落迦。彼亦無翻。但說其相故。論經名眾相山。⑩ 十蘇迷盧。全同第一。既加香雪。應除象鼻。三藏楚夏。既各不同。言詞輕重。難爲剋定。」

ただし，次の內容を如何に解釋すべきかは，後考に委ねたい。

6-14-e. 『八十華嚴』（卷 50）如來出現品 T10,264a「有風輪起。名堅密無能壞。能成大小。諸輪圍山。及金剛山。有風輪起。名勝高。能成須彌山王。有風輪起。名不動。能成十大山王。何等爲十。所謂　① 佉陀羅山。② 仙人山。③ 伏魔山。④ 大伏魔山。⑤ 持雙山。⑥ 尼民陀羅山。⑦ 目眞鄰陀山。⑧ 摩訶目眞鄰陀山。⑨ 香山。⑩ 雪山。（一切 796）」

6-14-f. 『六十華嚴』（卷 33）寶王如來性起品 T09,613b-c「又風輪起。名不可壞。能成大小圍山。及金剛山。又風輪起。名曰勝高。能成須彌山王。又風輪起。名曰不動。能成十種大山。何等爲十。所謂　① 芭蕉山。② 仙人山。③ 伏魔山。④ 大伏魔山。⑤ 持劫山。⑥ 黑山。⑦ 目眞鄰陀山。⑧ 摩訶目眞鄰陀山。⑨ 香山。⑩ 雪山。（昭和 971）」

6-15. 須彌山を取り圍む山脈は，同心方形とする佛典や同心圓形（環形）の可能性をしめす佛典があるが，漢譯『華嚴經』からはわからない。

6-16. 四大洲については，『八十華嚴』によれば，東に弗婆提 Pūrvavideha，南に閻浮提

Jambudvīpa，西に拘耶尼 Aparagodānīya，北に欝單越 Uttarakuru があるという。一方，『六十華嚴』では不明である。

6-16-a.『八十華嚴』（卷 52）如來出現品 T10,273c-274a「此閻浮提。有二千五百河流入大海。西拘耶尼。有五千河流入大海。東弗婆提。有七千五百河流入大海。北欝單越有一萬河流入大海。（一切 827-828）」

6-17. 閻浮提にある無熱惱池の四つの獸口からは，それぞれ一つの大河が流れ出すが，その獸口の東南西北の配置については，『八十華嚴』に譯された大河の名稱から判斷するに，東は象，南は牛，西は馬，北は獅子らしい。一方，『六十華嚴』には對應する內容は見られない。

6-17-a.『八十華嚴』（卷 42）十定品 T10,222a「譬如無熱惱。大龍王宮。流出四河。…其池四面。各有一口。一一口中。流出一河。於象口中。出恒伽河。師子口中。出私陀河。於牛口中。出信度河。於馬口中。出縛芻河。（一切 672）」

なお，次の玄奘の譯『婆沙論』の內容を參照。

6-17-b.『阿毘達磨大毘婆沙論』（卷 5）T27,22a「而實於此。贍部洲中。有四大河。眷屬各四。隨其方面。流趣大海。謂卽於此。贍部洲中。有一大池。名無熱惱。初但從彼。出四大河。一名殑伽。二名信度。三名縛芻。四名私多。初殑伽河。從池東面。金象口出。右遶池一匝。流入東海。次信度河。從池南面。銀牛口出。右遶池一匝。流入南海。次縛芻河。從池西面。吠琉璃馬口出。右遶池一匝。流入西海。後私多河。從池北面。頗胝迦師子口出。右遶池一匝。流入北海。（一切 80）」

6-18. 八億の小洲があるとする[71]。なお，漢譯『華嚴經』は中洲については記さない。

6-18-a.『八十華嚴』（卷 51）如來出現品 T10,271b「譬如大海。其水潛流。四天下地。及八十億。諸小洲中。有穿鑿者。無不得水。（一切 820）」

6-18-b.『六十華嚴』（卷 35）寶王如來性起品 T09,622b「譬如四大海水。悉能澤潤。四天下地。八十億小洲。（昭和 1011）」

6-19. 須彌山の麓の龍，閻魔王の居所，地獄の位置などについては，漢譯『華嚴經』か

71）資料集 I，72 頁，4-11-10。「八百萬」を「八億」に修正。『華嚴經』の原文「一億」は「一千萬」を意味する。次を參照。『探玄記』（卷 4）T35,174c「第八重照一億世界。西國數法有三種億。一百萬。二千萬。三萬萬。下文百千百千名一俱胝。俱胝者此云億。是千萬爲億。此中據千萬爲一億。」

らはわからない。

6-20. 大海には十の特徴あり[72]。

6-20-a. 『八十華嚴』（卷 39）十地品 T10,209a-b「譬如大海。以十種相。得大海名。不可移奪。何等爲十。① 一，次第漸深。② 二，不受死屍。③ 三，餘水入中。皆失本名。④ 四，普同一味。⑤ 五，無量珍寶。⑥ 六，無能至底。⑦ 七，廣大無量。⑧ 八，大身所居。⑨ 九，潮不過限。⑩ 十，普受大雨。無有盈溢。（一切 633）」

6-20-b. 『六十華嚴』（卷 27）十地品 T09,575a-b「譬如大海。以十相故。名爲大海。無有能壞。何等爲十。① 一，漸次深。② 二，不受死屍。③ 三，餘水失本名。④ 四，一味。⑤ 五，多寶。⑥ 六，極深難入。⑦ 七，廣大無量。⑧ 八，多大身眾生。⑨ 九，潮不失時。⑩ 十，能受一切大雨。無有盈溢。（昭和 807）」

お わ り に

小稿では，漢譯『華嚴經』の完本である『八十華嚴』および『六十華嚴』から，科學思想史および藝術文化史の立場から見て，とくに重要と思われる情報を抽出し初歩的な考察を行いながら，原典『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』に說かれていたであろう佛身論および宇宙論の內容を分析整理した。

原典の佛身論は，1-2. にまとめたように理解しておけばよいであろう。原典は法身と

72） 大海については，次が參考になろう。『大乘莊嚴經論』（卷 3）T31,606a「偈曰。巨海納眾流。無厭復無溢。佛界攝眾善。不滿亦不增。釋曰。此偈顯示。無厭成熟因。譬如巨海。廣納百川。無有厭足。亦無盈溢。爲容受故。佛界亦爾。常攝無量。淸淨善根。而不滿足。亦不增長。由希有故。已說諸佛。成熟眾生。」『大乘莊嚴經論』（卷 3）T31,608a「次說諸佛同事。偈曰。應知諸河水。別依亦別事。水少蟲用少。未入大海故。一切入大海。一依亦一事。水大蟲用大。亦復常無盡。如是諸別解。別意亦別業。解少利益少。未入佛體故。一切入佛體。一解亦一意。解大利益大。極聚亦無盡。釋曰。別水譬。諸菩薩別解。別依譬。諸菩薩別意。一水譬。諸如來一解。一依譬。諸如來一意。由諸河水別故。水事業亦別。由水少故。水蟲受用亦少。何以故。未得同入大海故。諸菩薩亦爾。由解別故。作業亦別。由解少故。利益眾生亦少。何以故。未得同入佛體故。諸水若入大海。卽同一依。卽同一體。由水一故。事業亦一。由水大故。水蟲受用亦大。若諸菩薩。同入佛體。卽同一意。卽同一解。由解一故。作業亦一。由解大故。利益亦大。極一切眾生聚。亦無有盡。如是已說。諸佛體用。」玄奘譯世親造『攝大乘論釋』（卷 10）T31,375a「論曰。諸佛事相雜。猶如大海水。我已現當作。他利無是思。釋曰。此頌顯示。成熟甚深。諸佛事相雜者。謂諸如來。成熟有情。一切事業。悉皆平等。其喻云何。猶如大海水者。譬如大海。眾流所入。其水相雜。爲魚鱉等。同所受用。諸佛亦爾。同入法界。所作事業。和合無二。等爲成熟。有情受用。我已現當作者。於三時中。隨一時作。他利無是思者。不作是思。我於他利。已現當作。然無功用。能作一切。利益安樂。諸有情事。譬如世間。末尼天樂。」

色身の二身說を說き，とくに法身を無限の宇宙に充滿する佛身と想定した點に特徵がある。漢譯『華嚴經』入法界品（本來は單獨經典 *Gaṇḍavyūha-sūtra*）に，この點をしめす內容が見られる（2-6. 2-7. 2-18. 2-20.）。したがって，*Gaṇḍavyūha-sūtra* の成立年代から判斷するに，この點についての基本的な考え方の大凡のところ（あるいはそのような考え方の據り所となった大凡の內容）はすでに二世紀はじめ頃までには成立していたようである。なお，この點は，佛身論の展開あるいは佛像の起源を考える上で重要になってこよう[73]。

原典に說かれた宇宙論の基本的な考え方も入法界品に確認される。したがって，その大凡のところもまた二世紀はじめ頃までには成立していたらしい。內容的には 1-4. にまとめたような 7 つの特徵があげられよう。すなわち，① 宇宙は一つ。② 宇宙は無量すなわち空間的に無限である。③ 宇宙は不可壞すなわち時間的に無限である。④ 宇宙は無中邊（無限均質）で，絕對的な中心はない。⑤ 宇宙は淸淨である。⑥ 宇宙は須彌山世界の內をも含む。⑦ 宇宙は全體（總體）としては實在する。

以上の內，とくに 1-4-④. で見た an-anta-madhya-dharma-dhātu という句は，〈宇宙は空間的に無限で，かつ絕對的な中心はない〉ことをも意味するものであり，西洋の宇宙論の最も代表的な一例であるアリストテレスが說いた〈宇宙は有限で，地球の中心は宇宙の絕對的な中心である〉とする考え方とはまったく異なるものである。したがって，その句は原典ひいては大乘佛敎が展開させた宇宙論において宇宙の特徵を最も明らかに表現した句の一つとして，科學思想史上大いに注目されるべきものといえよう。

〈宇宙には絕對的な中心はない〉という點は，東アジアにおいていわゆる華嚴敎學の根本經典となった『六十華嚴』では必ずしも明確には譯出されていないようでもある。『六十華嚴』においてはむしろ〈宇宙の絕對的な中心に華藏莊嚴世界海（正確には蓮華藏莊嚴世界海）があり，ヴァイローチャナはそこで佛事を主宰する〉と解釋されるように內容が改められているようでもある。そして，それが意圖的な編集によりそうなったものである可能性を筆者はぬぐいきれない（1-4-④. 1-5. 4-3. 4-11. 4-15. 4-16.）。したがって，あるいは『六十華嚴』は『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』の漢譯というよりは，むしろ『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』から展開した東アジア佛敎の新經典の一つとも見なし得るものであるようにも思われてならない。この點について，より詳しく正確なところは，今後の研究に委ねたい。なお，この點は『華嚴經』とくに『六十華嚴』との關連が考えられる『梵網經』の內容を檢討する上でも注意が拂われるべき點となろう[74]。

73） 次は，佛像は第一クシャーナ朝前期にあたる 1 世紀末葉にガンダーラにおいてはじめて出現したと推定する。高田修『佛像の起源』（岩波書店，1967 年），415 頁。

74） 望月信亨『佛敎經典成立史論』（法藏館，1946 年），441-471 頁。大野法道『大乘戒經の研↗

4-1. 以降に分析整理したところは，宇宙の構造に關する詳細內容である。あるいは『華嚴經』を一讀しその難解さから，原典には現實からはまったく離れた形而上學的な場が說かれていたと解釋する者もあるかもしれない[75]。しかしながら，實のところはそうではなく，一つの「世界海」は宇宙に花咲く一輪の蓮の花の花托の如く，「世界種」はその蓮の種の如く，「世界」はその種の中に無數に存在するものの如く想定され，かなり詳細に實在論的な宇宙が說かれていたようである（1-5. 4-16.）[76]。なお，以上のような考え方の基本的なところも入法界品に認められるので（4-18.），その大凡の內容もまた二世紀はじめ頃までには成立していたと見てよいであろう。

以上小稿で取りまとめた情報は，漢譯『華嚴經』とくに『六十華嚴』との關連が明らかな中國の龍門奉先寺洞盧舍那大佛や日本の奈良東大寺大佛などをはじめ宇宙に關わる佛敎藝術作品を分析する時には，改めて參照され議論されることにもなるであろう。もちろんその前には，さらなる考察にもとづく修正補遺も必要となってこよう。

參考文獻など

データベースはCBETA。
『八十華嚴』は國譯一切經（一切）。
『六十華嚴』は昭和新纂國譯大藏經（昭和）。
サンスクリット語の情報は，GRETIL。
稻賀繁美　『接觸造形論：觸れあう魂，紡がれる形』（名古屋大學出版會，2016年）。
宇井伯壽　『印度哲學研究』第4（岩波書店，1965年）。
大野法道　『大乘戒經の研究』（理想社，1954年）。
梶山雄一（監修）『さとりへの遍歷（華嚴經入法界品）』上・下（中央公論，1994年）。
梶山雄一　『神變と佛陀觀・宇宙論』梶山雄一著作集第3卷（吹田隆道編，春秋社，2012年）。
木村清孝　『初期中國華嚴思想の研究』（春秋社，1977年）。
定方晟　『インド宇宙論大全』（春秋社，2011年）。
高崎直道　『大乘佛敎思想論』II 高崎直道著作集第3卷（春秋社，2009年）。
高崎直道（譯）「華嚴經如來性起品」『大乘佛典』第十二卷如來藏系經典（中央公論社，1992年）。
高田修　『佛像の起源』（岩波書店，1967年）。

↘ 究』（理想社，1954年），252-287頁。船山徹「梵網經下卷先行說の再檢討」（『三敎交涉論叢續編』，京都大學人文科學研究所，2011年），127-156頁。同『東アジア佛敎の生活規則：梵網經：最古の形と發展の歷史』（臨川書店，2017年）。および拙稿「『華嚴經』の宇宙論と東大寺大佛の意匠について」，21-40頁。

75）Angela Falco Howard : *The Imagery of the Cosmological Buddha*. Leiden : E. J. Brill, 1986, p. 94.

76）定方晟『インド宇宙論大全』，247-285頁。

長尾雅人　『攝大乘論：和譯と注解』上（講談社，1982 年）。
肥田路美　『初唐佛教美術の研究』（中央公論美術出版，2011 年）。
藤澤令夫（譯）『パイドロス』（岩波書店，2014 年）。
船山徹　「梵網經下卷先行說の再檢討」（『三教交涉論叢續編』，京都大學人文科學研究所，2011 年）。
船山徹　『東アジア佛教の生活規則：梵網經：最古の形と發展の歷史』（臨川書店，2017 年）。
村治能就（譯）「天體論」『天體論・生成消滅論』アリストテレス全集 4（岩波書店，1968 年）。
望月信亨　『佛教經典成立史論』（法藏館，1946 年）。
『望月佛教大辭典』4367-9 毘盧遮那。4926 由旬。
Angela Falco Howard : *The Imagery of the Cosmological Buddha*. Leiden : E. J. Brill, 1986.
Franklin Edgerton : *Buddhist hybrid Sanskrit grammar and dictionary*, v. 2. Yale University Press, 1953.
ほか
拙稿「『華嚴經』の宇宙論と東大寺大佛の意匠について」（『日本研究』51，2015 年）。
拙稿「東大寺大佛蓮辨毛彫圖について」（『南都佛教』，2014 年）
拙稿「須彌山世界に關する諸說と東大寺大佛蓮辨須彌山圖について」（稻本泰生（編）『東アジア佛教美術における聖地表象の諸樣態』平成二五年度～平成二七年度科學研究費補助金・基盤研究（B）研究成果報告書，2016 年）。
http : //www.sinologie.uni-wuerzburg.de/fileadmin/04050130/user_upload/Sotomura-2016-A_World_in_a_Petal.pdf
拙稿「キジル石窟に描かれた大乘の神變佛について」（『東方學報』91，2016 年）。
資料集 I : *Mt. Sumeru* 須彌山 : *Source Manual for Iconographic Research on the Buddhist Universe*. Singapore : Nalanda-Sriwijaya Centre Working Paper No. 6, 2011.
https : //www.iseas.edu.sg/images/pdf/nsc_working_paper_series_6.pdf
資料集 II : *The Buddhist Heavens* 天 : *Source Manual for Iconographic Research on the Buddhist Universe, Part II*, Singapore : Nalanda-Sriwijaya Centre Working Paper No. 18, 2015.
https : //www.iseas.edu.sg/images/pdf/nsc_working_paper_series_18.pdf

後　　記

小稿は，京都大學人文科學研究所の岡村秀典教授が主宰されている研究班「北朝石窟寺院の研究」の 2017 年 9 月 22 日における研究會で發表させていただいた筆者の個人研究の內容を發展させたものである。小稿作成においては，同氏，船山徹氏，稻本泰生氏，志田泰盛氏，藤井淳氏，松岡寬子氏ほか多くの方々に貴重な助言や知見の提供などをいただいた。ここに記して謝意を申し上げたい。